

## 2024年度 姫路日ノ本短期大学幼児教育科カリキュラムのナンバリング

ナンバリングとは授業科目にナンバーを付して分類化することにより、教育課程の体系性を明示し、学生の履修科目選択の支援を行う。

ナンバリングの構成： カテゴリー + 分野 + 枝番 + (ハイフン)+ 必修・選択 + 履修年次  
(ex) 1 01 10 ー A 1

カ テ ゴ リ ー	1 基礎教養科目	01 人文自然 02 社会 03 語学 04 情報 05 キャリア 06 スポーツ	(2桁) 10～90
	2 専門科目	01 原理 02 心理 03 保健 04 福祉 05 養護 06 保育実践 07 表現技術 08 実習 09 情報処理 10 ビジネス	
A 科目の赤字は卒業必修科目 B 赤ピンクは幼保必修科目 C 黄色は幼稚園教諭二種免許必修科目			
D 赤色は幼稚園教諭二種免許選択科目			
E	緑色は保育士資格必修科目	F 薄いグリーンは保育士資格選択科目 G 青は情報処理士必須科目	
H	資格薄い青は情報処理士選択	I グレーは卒業選択科目	
1 1年次履修 2 2年次履修			

### 1 基礎教養科目

01 人文自然	10110-A1 キリスト教	10120-A12 特別活動A	10130-F 自然と生命	10111-F2 キリスト教保育	
02 社会	10210-A12 特別活動B	10220-CF1 日本国憲法	10230-FH2 生活経済	10240-FH 社会人基礎講座	10250-F12 ボランティア活動
	10260-F1 子どもと遊びA	10261-F2 子どもと遊びB			
03 語学	10310-FH1 日本語表現Ⅰ	10311-FH2 日本語表現Ⅱ	10320-CF1 英語		
04 情報	10410-CH1 ICT活用講座A	10411-CH1 ICT活用講座B			
05 キャリア	10510-GF1 キャリアデザインⅠ	10511-FH2 キャリアデザインⅡ	10520-GF2 インターンシップⅠ	10521-FH2 インターンシップⅡ	
06 スポーツ	10610-E1 生涯スポーツ	10611-E1 スポーツと健康			

### 2 専門科目

01 原理	20110-A1 キリスト教教育	20120-B1 教育原理	20130-B2 保育者論	20140-E2 保育原理	20150-F 人権教育の研究
02 心理	20210-B1 教育心理学	20211-E2子ども家庭支援の心理学	20220-C2 保育相談	20230-E2 子どもの理解と援助	
03 保健	20310-E1 子どもの食と栄養	20320-E2 子どもの保健	20322-E2 子どもの健康と安全		
04 福祉	20410-E1 子ども家庭福祉	20411-E1 社会福祉	20420-E2 子ども家庭支援論		
05 養護	20510-E1 社会的養護 I	20511-E1 社会的養護 II	20520-B1 特別支援	20530-E2 子育て支援	
06 保育実践	20610-B1 子どもと健康	20611-B1 子どもと人間関係	20612-B1 子どもと環境	20613-B1 子どもと言葉	20614-B1 子どもと造形表現
	20615-B1 子どもと音楽表現				
	20616-B1 保育内容演習 健康	20617-B1 保育内容演習 人間関係	20618-B1 保育内容演習 環境	20619-B1 保育内容演習 言葉	
	20620-B1 保育内容演習 表現 I	20621-B2 保育内容演習 表現 II	20617-F2 保育内容演習 総合表現	20610-B2 保育内容総論	
	20620-C2 教育課程論	20630-B2 保育実践演習	20640-C2 保育方法論	20650-E1 乳児保育 I	20651-E2 乳児保育 II
	20660-E2 保育の計画と評価				
07 表現技術	20710-D1 器楽 I	20711-D2 器楽 II	20712-C1 器楽 I A	20713-C1 器楽 I B	
	20712-C2 器楽 II A	20713-C2 器楽 II B			
	20720-E1 幼児音楽 I A	20721-E1 幼児音楽 I B	20722-F2 幼児音楽 II A	20723-F2 幼児音楽 II B	
	20724-F2 幼児音楽 I		20725-F2 幼児音楽 II		
	20730-B1 造形 I A	20731-B1 造形 I B	20732-F2 造形 II A	20733-F2 造形 II B	
	20734-F1 造形 I		20735-F2 造形 II		
	20740-B1 幼児体育 I A	20741-B1 幼児体育 I B	20742-F2 幼児体育 II A	20743-F2 幼児体育 II B	
	20744-F2 幼児体育 I		20745-F2 幼児体育 II		
	20750-I 総合音楽	20760-I 絵画表現			
08 実習	20810-C1 教育実習 I	20811-C1 教育実習指導 I	20812-C2 教育実習 II	20813-C2 教育実習指導 II	
	20820-E1 保育実習 I A	20821-E1 保育実習指導 I A	20822-E1 保育実習 I B	20823-E12 保育実習指導 I B	
	20824-F2 保育実習 II	20825-F2 保育実習指導 II	20826-F2 保育実習 III	20827-F2 保育実習指導 III	
09 情報処理	20910-G1 コンピュータ概論	20920-H1 WORE演習 I	20921-H2 WORE演習 II	20930-H1 EXCEL演習 I	20931-H2 EXCEL演習 II
	20940-H2 デジタルグラフィックス I	20941-H2 デジタルグラフィックス II	20950-H2 デジタルムービー I	20960-H2 プレゼンテーション演習	
	20970-H1 情報処理実習 I	20971-H2 情報処理実習 II			
10 ビジネス	21010-H1 初級簿記A	21011-H2 初級簿記B	21012-H2 簿記演習	21020-H2 コンピュータ会計 I	21021-H2 コンピュータ会計 II

<参考> 卒業必修 → 幼保必修 → 幼免必修 → 保育士必修 → 保育士選択 → 情報必修 → 情報選択 → 卒業選択  
 A B C E E F G H  
 赤字科目 → ピンク色 → 黄 色 → 濃みどり色 → 薄みどり色 → 濃い青色 → 薄い青色 → 卒業選択

# 目次

## 幼児教育科

### 【1年次】 基礎教養科目

キリスト教学	本 竜	1
特別活動 A	井口・橋崎	2
特別活動 B	佐 藤	3
日本語表現 I	井 口	4
日本国憲法	小 南	5
キャリアデザイン I (保育)	谷 本	6
キャリアデザイン I (ライフ)	谷 本	7
英 語	岡 野	8
ICT活用講座A	津 田敏	9
ICT活用講座B	津 田敏	10
ボランティア活動	谷 本	11
生涯スポーツ	大 西	12
スポーツと健康	榎 本	13

### 専 門 科 目

教育原理	井 口	14
教育心理学	河 村	15
特別支援	川 島	16
子どもと健康	谷 本	17
子どもと人間関係	山 本	18
子どもと環境	藤 田貴	19
子どもと言葉	井 口	20
子どもと造形表現	津 田由	21
子どもと音楽表現	宇治田	22
保育内容演習「健康」	藤 田貴	23
保育内容演習「人間関係」	津 田由	24
保育内容演習「環境」	藤 田貴	25
保育内容演習「言葉」	松 本恭	26
保育内容演習「表現 I」	津 田由・中 村	27
造形 I	佐 藤	28
造形 I A	佐 藤	29
造形 I B	佐 藤	30
幼児体育 I A	大 西	31
幼児体育 I B	大 西	32
キリスト教教育	時 久	33
器楽 I	池田・宇治田・高磯・福田・藤井	34
器楽 I A	池田・高磯・藤井	35
器楽 I B	池田・高磯・藤井	36
教育実習指導 I	津 田由・中 村	37
保育原理	井 口	38
社会福祉	山 本	39
子ども家庭福祉	山 本	40
社会的養護 I	山 本	41
子ども家庭支援の心理学	山 本	42
子どもの食と栄養	橋 本	43
乳児保育 I	前 田	44
社会的養護 II	山 本	45
幼児音楽 I A	松 本遥	46
幼児音楽 I B	松 本遥	47
保育実習指導 I A	藤 田貴・山 本	48
保育実習指導 I B	山 本	49
コンピュータ概論	津 田敏	50
WORD 演習 I	野 口	51
EXCEL演習 I	野 口	52
情報処理実習 I	津 田敏	53
初級簿記 A	津 田敏	54
初級簿記 B	津 田敏	55

### 【2年次】 基礎教養科目

特別活動 A	井口・橋崎	56
特別活動 B	佐 藤	57
日本語表現 II	井 口	58
キャリアデザイン II (保育)	谷 本	59
キャリアデザイン II (ライフ)	谷 本	60
インターンシップ I	井 口・佐 藤	61
インターンシップ II	佐 藤	62
キリスト教保育	坂 牛	63
生活経済	津 田敏	64
ボランティア活動	谷 本	65

### 専 門 科 目

保育内容演習「表現 II」	高 磯	66
保育実践演習	金 谷	67
器楽 II	池 田・藤 井	68
器楽 II A	福 田	69
器楽 II B	福 田	70
保育者論	津 田由	71
教育課程論	田 口	72
保育内容総論	藤 田貴	73
保育方法論	中 村	74
保育相談	藤 田貴	75
教育実習指導 II	津田由・中村	76
子育て支援	藤 田貴	77
子どもの保健	早野・松本孝	78
子どもの健康と安全	内 海	79
子ども家庭支援論	山 本	80
子どもの理解と援助	松本恭	81
保育の計画と評価	藤 田貴・中 村	82
乳児保育 II	前 田	83
保育実習指導 I B	山 本	84
保育内容演習「総合表現」	井口・松本孝・向井	85
幼児音楽 II A	向 井	86
幼児音楽 II B	向 井	87
造形 II A	佐 藤	88
造形 II B	佐 藤	89
幼児体育 II A	大 西	90
幼児体育 II B	藤 田由	91
保育実習指導 II	藤 田貴	92
WORD 演習 II	野 口	93
EXCEL演習 II	野 口	94
プレゼンテーション演習	津 田敏	95
デジタルグラフィックス I	佐 藤	96
デジタルグラフィックス II	佐 藤	97
デジタルムービー I	佐 藤	98
簿記演習	津 田敏	99
情報処理実習 II	津 田敏	100
コンピュータ会計 I	津 田敏	101
コンピュータ会計 II	津 田敏	102

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教学 (10110-A1)		講義	2	1年次 前期	必修	保育士資格選択	本竜 晋
授業の到達目標	1. 日ノ本学園の建学の精神・歴史とその基礎であるキリスト教精神について学ぶ。 2. キリスト教のメッセージに触れ、学んだことを自分の言葉で表現できるようになる。 3. 自分の生活とキリスト教の関係を知り、キリスト教について生活な知識を身につける。						
学位授与の方針 との関連	キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。						
授業の概要	聖書の内容を時系列的に学習しつつ、聖書のメッセージを通して「人としてのあり方」を学びます。 スピーチでは自分の表現とともに、他の学生の考え方に触れる勉強をします。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション・自己紹介アンケート					
	2	イエスキリスト		新約聖書のメッセージ			
	3	世界の宗教とキリスト教		新約聖書のメッセージ			
	4	天地創造 アダムとイブ		新約聖書のメッセージ			
	5	ノアの箱舟 バビロンの塔		新約聖書のメッセージ			
	6	アブラハム～イサク		新約聖書のメッセージ			
	7	イサク～ヤコブ		新約聖書のメッセージ			
	8	ヤコブ～ヨセフ		新約聖書のメッセージ			
	9	モーセ 出エジプト		新約聖書のメッセージ			
	10	モーセ イスラエル建国		新約聖書のメッセージ			
	11	クリスマス イエス様誕生		1分間スピーチ			
	12	イースター イエス様復活		1分間スピーチ			
	13	ローマとキリスト教		1分間スピーチ			
	14	カトリックとプロテスタント		1分間スピーチ			
	15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」：レポート提出（5%） 「平常点」：出席及び毎回のレポート評価（75%）1分間スピーチ（20%） 「その他」：なし						
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントと評価を付して返却する。						
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業内で紹介された文献を図書館で調べ読んでおくこと。 復習：配布プリントの熟読および返却したレポートの確認をし、授業内容について理解を深めること。 体験としてキリスト教会への出席を奨励する。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・授業に積極的に参加し、授業終了後必ず毎回レポートを提出すること。 ・配布プリントは各自で管理すること（紛失しても原則再配布しない）。 ・居眠り、私語、授業に関係のない行為、許可のない携帯電話・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。 ・座席を指定する。理由なき移動は減点対象とする。 ・授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。						
テキスト	適宜プリントを配布する。						
参考書	『聖書』（新共同訳 日本聖書協会） その他の参考書については、授業中に提示する。						
その他	【Wi-Fi等】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動A (10120-A12)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	井口 佳江 橋崎 良治
授業の到達目標	1. キリスト教の人生観、世界観、倫理観を理解して自己の人間形成に役立てる。 2. 愛と奉仕の精神を身につける。 3. チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通して建学の精神を理解する。					
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教精神、建学の精神についての学びを深める。					
授業計画	授業内容					
	○チャペルアワーは讃美歌を歌い、聖書を読み、メッセージを聴き、お祈りをするという通常の礼拝形式で行う。					
	毎週のチャペルアワーに参加する。					
	チャペルアワーの中心は聖書に学ぶことに置かれている。講師から聖書の話を読み、讃美歌を歌い、祈りを通して、キリスト教の知識を深め、キリスト教の雰囲気になれる機会とする。					
	具体的にはメッセージ（説教）を通じて聖書の言葉の意味を考え、平和や、人権問題、貧困などの現代の課題等についても考える機会を持てるようにする。					
	○その他のキリスト教関連行事に参加する。					
	クリスマス点灯式・・・イエスキリストの降誕にあたり、その真の意味を学ぶ。					
	クリスマス礼拝・・・イエスキリストの降誕を祝う。					
	卒業礼拝・・・・・・・・・・本学における教育の締めくくりとして卒業式前日に行い、社会に出ていく卒業生への祝福と励みのおこなう。					
	卒業式・・・・・・・・・・卒業式に参加することを通じて、建学の精神について理解を深める。					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：チャペルや宗教活動への取り組み状況。（50%） 「その他」：感想文・報告書（毎回提出）（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・チャペルアワー開始まで讃美歌を練習したり、当日の聖書を読んで理解しておく。 ・神を讃美し、感謝と喜びの中でキリスト教行事に出席するよう配慮する。 ・チャペルを通して心に残った聖書箇所やメッセージについて記入する。 ・近くにある教会に行ってみる。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	活動の参加にあたっては、私語を慎みおごそかな思いで臨むこと。					
テキスト	新共同訳聖書（日本聖書協会） 讃美歌21（日本基督教団出版局）					
参考書						
その他	【オフイスアワー】各活動の前後					



科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動B (10210-A12)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	講演会やセミナーを通して、幼児教育に関する専門性を高め、また、多様な視点を身につける。					
学位授与の方針との関連	社会人として必要な視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	通常の教科学習だけでは獲得することのできない社会人としての素養を自治会活動や講演会等の様々な活動を通して培うことを目指す。					
授業計画	授業内容					
	・2年間で32時間の学内活動に参画したうえで、参画時の積極性、行動を評価する。					
	<1年次>					
	1 入学式	3時間				
	2 新入生歓迎会	2時間				
	3 大学祭	5時間				
	4 大学祭準備	2時間				
	5 幼児教育講演会	2時間				
	6 卒業式	2時間				
	1年次合計	16時間				
	<2年次>					
	1 入学式	3時間				
	2 新入生歓迎会	2時間				
	3 大学祭	5時間				
	4 大学祭準備	2時間				
	5 幼児教育講演会	2時間				
	6 卒業式	2時間				
	2年次合計	16時間				
	総合計	32時間				
	授業の評価	「試 験」： 「平常点」：「積極性」、「問題意識」、「協調性」、「コミュニケーション力」等を評価する。 「その他」：学内活動の事前事後にレポート（活動報告書）を課す場合がある。				
課題（レポート等）のフィードバック	「試 験」：（ ）％ 「平常点」：活動への取り組み状況（50％） 「その他」：活動報告書（50％）					
事前・事後の学習等の内容	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	活動には積極的に取り組むこと。					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスアワー】各活動の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本語表現Ⅰ (10310-FH1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必須 保育士資格選択 情報処理士選択	井口 佳江
授業の到達目標	1. コミュニケーションに必要な「話す」「聞く」ことに関するスキルを身につける。 2. 自身が伝えたいことを簡潔にまとめ、他者にわかりやすく伝えることができるようになる。 3. 大学生活・社会に対応できる正しい敬語及び文章表現ができるようになる。						
学位授与の方針 と関連	教科学習、ワークショップなどを通じて、社会に生きる人として必要なコミュニケーション能力を有し、国際化の中で次世代を担う人として必要な課題解決能力を身につけている。						
授業の概要	「読む・書く・話す」の三つの領域にわたる基本的な日本語表現能力が身につけられるよう、課題に取り組む。社会人として求められる敬語や文書に関する基本的な知識を学び、実践できるよう練習する。						
授業計画	1	日本語の重要性、授業概要の説明、会話表現（自己紹介等）					
	2	文章表現 文字を正しく書く					
	3	文章表現 正しい表記で書く					
	4	文章表現 文章作成上の留意点					
	5	文章の基本的な書き方					
	6	実習日誌の書き方					
	7	実習礼状など手紙・ハガキの書き方					
	8	メールの書き方					
	9	履歴書の書き方					
	10	連絡帳の書き方					
	11	園だよりの書き方					
	12	実習先との話し方					
	13	保育現場での話し方					
	14	保護者との話し方・保育現場での電話					
	15	子どもへの言葉かけ					
授業の評価	「試験」：筆記試験（40%） 「平常点」：ディスカッション等、出席・授業態度・授業への参加意欲（30%） 「その他」：発表と課題レポート（30%）						
課題（レポート等）の フィードバック	・レポート等の課題は、Googlクラスルーム上で行い、そこでコメントする。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習 等の内容	予習：毎時間、次回おこなわれる授業の内容について各自で調べて学習してくること。 復習：各自で授業の振り返り（ノート、プリントを見返す）、授業内容の具体的実践を行うこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学習が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	・授業に積極的に参加し、必ずノートを取る。教授者のコメントもメモをとる。 ・教授者のアナウンス（授業に関するお知らせ等）を聞き逃さないようにすること。 ・遅刻、居眠り、私語、授業に関係ない行為、許可のないスマートフォン・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。 ・座席を指定する場合がある。 ・授業計画に沿って授業を行うが、進行状況によって前後することがある。						
テキスト	田上貞一郎（2023）『改訂保育者になるための国語表現』萌文書林 適宜 プリント配布						
参考書							
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本国憲法 (10220-CF1)		講義	2	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	小南 浩一
授業の到達目標	1. 憲法とはそもそも何か、近代立憲主義について理解する。 2. 憲法の3つの特質について理解を深め、憲法の全体像を把握することができる。 3. 目的としての人権保障と、手段としての三権分立について理解することができる。						
学位授与の方針との関連	社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	憲法とは何か、何のためにあるのかという憲法の立憲主義について解説する。 その上で、立憲主義の中核を担う憲法13条の「個人の尊重」と「法の支配」の2つの原理を説明する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	はじめに 憲法とは何か					
	2	憲法の立憲主義 その歴史と意味					
	3	平和主義の原理 9条の意味					
	4	集団的自衛権行使容認の憲法解釈（ディベートを行う）					
	5	基本的人権の原理					
	6	人権規定の核心的条項 憲法第13条について					
	7	思想・良心・信教の自由 靖国参拝を事例に（グループワークを行う）					
	8	集会・結社・表現の自由 判例を紹介する					
	9	基本的人権の限界					
	10	社会権 憲法第25・26・27条について					
	11	統治機構、権力分立について					
	12	国会、内閣、裁判所					
	13	憲法改正問題					
	14	日本国憲法の成立の歴史的経緯					
	15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 学期末筆記試験（60%） 「平常点」： 出席点、授業への貢献度（20%） 「その他」： レポート（20%）						
課題（レポート等）のフィードバック	課題レポートについては、添削返却する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、各回の授業内容を把握しておくこと。 復習：テキストや配布プリントを熟読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）						
履修上の注意	授業中に配布した判例紹介などのプリントは、授業中に全部読むことはできないので、復習で必ず精読しておくこと。						
テキスト	伊藤真『伊藤真の憲法入門』講義再現版第6版（日本評論社、2017年）						
参考書	樋口陽一『いま「憲法改正」をどう考えるか』岩波書店、2013年						
その他	【Wi-Fiあり】 毎週火曜日 授業の後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザイン（保育） （10510GF-1）	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1．将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2．キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3．保育についての理解を深め、保育者としての豊かな資質能力を醸成する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成し、より良い保育者としての自立を促す。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」（初年次教育）				
	2	前期の振り返りと短大生活をデザインする（初年次教育）				
	3	自己認知と自己肯定感の熟成				
	4	生きること・学ぶこと・働くこと 「人生をデザインする」				
	5	生きること・学ぶこと・働くこと 「人生における役割を考える」				
	6	自立して働くこと 進路理解「職種と適性について考える」				
	7	自立して働くこと 進路理解「自己の特徴と仕事をする上での価値観を考える」				
	8	自立して働くこと 進路理解「働き方を考える」				
	9	職業的自立の必要性和税の仕組み				
	10	労働関連法規と社会保障制度				
	11	保育職としてこれからの自分を考える 「保育士の仕事について知る」				
	12	保育職としてこれからの自分を考える 「園を知る」				
	13	保育職としてこれからの自分を考える 「求められる保育士像」				
	14	保育職としてこれからの自分を考える 「自分が思い描く保育士像をデザインする」				
15	学習の振り返りと「まとめ」					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60％） 「平常点」：授業態度、意欲など（20％） 「その他」：講義ノート・提出物（20％）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁					
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。					
参考書	実践キャリア考（実教出版）					
その他	【Q&A】随時					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザイン（ライフ） （10510-GF1）		講義	2	1年次 後期	選択	情報処理士必修	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. ライフキャリアからワークキャリアへの見通しが持てる力を育む。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリ能力で進路選択ができる力を育成する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」（初年次教育）					
	2	自己認知と自己肯定感の熟成（初年次教育）					
	3	短大生活をデザインする。					
	4	生きること・学ぶこと・働くこと 「人生をデザインする」					
	5	生きること・学ぶこと・働くこと 「人生における役割を考える」					
	6	自立して働くこと 進路理解「職種と適性について考える」					
	7	自立して働くこと 進路理解「自己の特徴と仕事をする上での価値観を考える」					
	8	職業的自立の必要性和税の仕組み					
	9	労働関連法規と社会保障制度					
	10	職をイメージしてこれからの自分を考える :グループワーク					
	11	社会生活における消費者トラブル対策について：グループワーク					
	12	就活準備を始めよう 「就職ガイダンス」					
	13	就活準備を始めよう 「自己PRシートの作成A（自己分析）」					
	14	就活準備を始めよう 「自己PRシートの作成B（能力特性を知る）」					
15	学習の振り返りとまとめ「2年次に向けて目標作成」						
授業の評価	「試験」：筆記試験（60％） 「平常点」：授業態度、意欲など（20％） 「その他」：講義ノート・提出物（20％）						
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめて振り返りをする。						
事前・事後の学習等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。						
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。						
参考書	実践キャリア考（実教出版）						
その他	【オフィスアワー】随時						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
英語 (10320-CF1)		演習	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択	岡野 真由子
授業の到達目標	1. 保育園、幼稚園、認定こども園での保育場面で必要な英語力を獲得する。 2. 英語でのあいさつ、天気、手遊び歌等を日常的に、気軽に保育に取り入れられる力を身につける。 3. 英語を用いた活動（アート・音と動き・読み聞かせ等）を保育現場で実践できる力を養う。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	米国および岡山県西栗倉村でのモンテッソーリ教育の実践をもとに、日本の子ども達と楽しめる英語表現や様々な遊びを学ぶ。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	授業内容と西栗倉村におけるモンテッソーリ幼児教育（英語）の実践紹介 & 英語で自己紹介					
	2	あいさつ・天気・日付など 日々の保育で使える英語表現&歌あそび					
	3	英語絵本の読み聞かせと関連遊び					
	4	英語絵本の読み聞かせと関連遊び & プレゼンテーション					
	5	秋の遊び Halloween					
	6	外国人保護者に対する対応・挨拶・病気の伝え方など					
	7	英語でアート Vol.1					
	8	映画から学ぶ英語表現					
	9	英語でアート Vol.2					
	10	中間テスト					
	11	英語で音遊び（ムーブメントスカーフや木琴、リズムスティック等）					
	12	英語で音遊び&プレゼンテーション					
	13	クリスマスのお祝い					
	14	冬の遊び&プレゼンテーション					
15	春の遊び（イースター）&プレゼンテーション						
授業の評価	「試 験」：筆記試験と実技試験（30%） 「平常点」：授業への参加度・グループ活動への貢献度（40%） 「その他」：発表・提出物（30%）						
課題（レポート等）のフィードバック	実技発表の課題は個別もしくは全体にコメントを付する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：声を出して歌をうたったり、教科書を読み、発音やフレーズに慣れ親しんでおくこと。 復習：基礎的な英語表現など地道に努力を重ねることで習熟度を高めておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	幼い子ども達を前にし、受験英語の得手不得手は関係ない。学生自身の心と世界が開かれるよう授業に臨むこと。						
テキスト	適宜配布する						
参考書							
その他	【ワイアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ICT活用講座A (10410-CG1)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 使用しているスマホ・タブレット・パソコンの概歴を理解する。 2. スマホ・タブレット・パソコンのハードウェア・ソフトウェアの基礎知識を身につける。 3. セキュリティ・機器管理について理解し活用できるようにする。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。					
授業の概要	スマホ、タブレット、パソコンのハードウェア、周辺装置、関連機器、ネットワークの基本知識、セキュリティ・機器管理について学び、今後の情報社会でのICT活用について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	スマホを知る MNO・MVNO・SIM				
	2	スマホを知る SIM・LTE・5G				
	3	スマホを知る Facebook・Twitterについて				
	4	スマホを知る Instagram・Lineについて				
	5	スマホを知る その他アプリとスマホ管理について				
	6	スマホを知る セキュリティ脆弱について				
	7	スマホを知る スマホセキュリティ、LineとTwitter対策				
	8	パソコンを知る インターネット・IPアドレス				
	9	パソコンを知る WiFi・ISP、OS				
	10	パソコンを知る bit・byte Hardware				
	11	パソコンを知る CPU・Memory				
	12	パソコンを知る HDD/SSD、容量				
	13	パソコンを知る Monitor、Printer				
	14	パソコンを知る 無線LAN、Web会議				
	15	パソコンを知る 関連機器メモリ・カメラ・スキャナ				
授業の評価	「試 験」： 定期試験（65%） 「平常点」： 小テスト（20 %）、平常点（15%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業の3回に1度の小テストにより理解度をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業前、テキストの指定されている箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：自主学習支援としてGoogle Classroomに授業内容のまとめ問題を掲載しているので学んだ内容の理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45 分）					
履修上の注意	社会ではコミュニケーション能力、情報処理能力が求められている。ソフトを使えるだけでなく、社会人として情報処理の知識を修得することを意識して学ぶこと。					
テキスト	『スマホ・パソコン活用基礎知識』 津田敏著 2021年					
その他	【オフィスアワー】 授業の前後及びGoogle Classroom					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ICT活用講座B (10411-CG1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格選択 情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. ビジネスソフトを実践的に活用するための色々な機能について理解する。 2. スマートフォン・USBフラッシュメモリ内・Web上のデータをPCやタブレットPCで活用できるようになる。 3. 作品の趣旨を充分考え、作品の情報が伝わる工夫ができるようになる。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。					
授業の概要	スマートフォンやUSB、Webやクラウドストレージ内のデータ活用と多岐にわたる情報活用を通してICT活用力を向上させるとともに今後の情報社会でのICT活用について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	文書処理ソフトによる作品1作り				
	2	文書処理ソフトによる作品1作り				
	3	文書処理ソフトによる作品1作り				
	4	文書処理ソフトによる作品1作り 発表				
	5	文書処理ソフトによる作品2作り				
	6	文書処理ソフトによる作品2作り				
	7	文書処理ソフトによる作品2作り 発表				
	8	表計算処理ソフトによる作品3作り				
	9	表計算処理ソフトによる作品3作り 提出				
	10	表計算処理ソフトによる作品4作り				
	11	表計算処理ソフトによる作品4作り 提出				
	13	プレゼンテーションソフトによる作品5作り				
	14	プレゼンテーションソフトによる作品5作り				
	15	プレゼンテーションソフトによる作品5作り				
	16	プレゼンテーションソフトによる作品5作り 発表				
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：文書処理作品2作品、表計算作品2作品、Pp作品1作品 5作品 = 85%、平常点（15%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・スマートフォンとタブレットPC接続等の活用について助言助力する。 ・ソフトによるファイル作成、発表をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：次回テーマに該当するソフト機能等を学習し、ファイル作成を検討しておくこと。 復習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。ソフトの機能を駆使した情報発信ができることもその一つである。社会人としての情報処理能力を修得するように意識して学ぶこと。					
テキスト	指定なし					
参考書						
その他	【WiSアワー】授業の前後					



科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ボランティア活動 (10250-F12)	実習	1	1年次通期 2年次通期	選択	保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 自己の人間性や専門性を見つめ、人のために何ができるかの気づき実践できる力を高める。 2. 「感じ」「考え」「行動できる」力を豊かに育み、与えるものより与えられるものの大きさを感じられるようになる。 3. ボランティア活動を通して、人として社会人として自己の人生を豊かなものにしていく。					
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	自発的な意思により、人や社会と関わることを通して自己の再発見や自己実現の中で社会貢献をしていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「ボランティアの基本原則と年間計画等について」（講義）				
	2	基本原則・自主性・主体性に基づく活動				
	3	・社会性、連帯性のある活動				
	4	・無償性、無給性に基づく活動				
	5	・創造性・開拓性・先駆性のある活動				
	6	自己のボランティア活動スタイルの確認（何時・何处で・どれくらいの頻度で参加できるか）				
	7	・自己の特技や能力の活用				
	8	・何处（場所）に参加したいか				
	9	ボランティア活動の心構えと自己評価				
	10	・守秘義務の確認      ・自己の行動、言動には責任を持つ				
	11	・PDCAサイクルの実践を心掛ける      ・相手や仲間の立場、考え方を尊重する				
	12	・一人で抱え込むのではなく、みんなで仕事を分担する				
	13	・常に自分の行動を振り返りながら、生き生きと楽しんで活動する				
	14	レポート提出（活動記録用紙、確認表をもとに）※所定の用紙に事業所から確認印をもらう				
	15	まとめ（所定の用紙に活動の振り返りを記入し、担当者に提出する）				
授業の評価	「平常点」： ボランティア活動の活動時間、意欲、態度等   （70%） 「その他」： 提出物   （30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	各自が実施したボランティアの内容の活動記録用紙を担当者がチェックの上、アドバイスを行うので、それをもとに常に自己評価し、次の活動に生かすこと。					
事前・事後の学習等の内容	予習：ボランティア活動先の業務内容を事前に把握し、活動内容や活動場所を確認しておく。 また、実習先から喜んでもらえるようにするには何をすべきか常に考えておく。 復習：自分の実習先での行動を振り返り、反省点を次回に生かす。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意	原則、各自がボランティア活動場所を開拓し自ら参加し活動を行うこと。担当者から活動場所を紹介することもある。実習時間は、合計40時間以上で単位認定を行う。（単位認定は、卒業年度の後期に行う）2年間（長期履修者は3年間）の在学中に活動参加をすること。					
テキスト	講義ごとに資料を配布する。					
参考書	自治体等の発行するボランティア通信等					
その他	【オフィスワーカー】随時					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
生涯スポーツ （10610-E1）	実技	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	大西 輝彦
授業の到達目標	1. 生涯スポーツの意義を理解し、知識を獲得する。 2. スポーツの実践を通して、精神的、身体的、社会的な健康増進の重要性を理解する。 3. 安全にスポーツを行うための留意事項を理解し、安全なスポーツ実践の方法を身につける。 4. 生涯にわたるスポーツ実践のための知識と技能を身につける。					
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	自らがスポーツを楽しむ経験を積んでいきます。 前期期間中に数種のスポーツを楽しみます。 全ての種目、基本技術の習得からはじめ、段階的に授業展開を行います。 最終的にはゲームを楽しめるようにしていきます。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	レクリエーションゲーム				
	3	ニューススポーツの実践 ベタンク				
	4	ベタンク				
	5	ネット型スポーツゲームの実践 ソフトバレーボール				
	6	ソフトバレーボール				
	7	ニューススポーツの実践 グランドゴルフ				
	8	ゴール型スポーツゲームの実践 フットサル				
	9	フットサル				
	10	ネット型スポーツゲームの実践 バドミントン				
	11	バドミントン				
	12	ゴール型スポーツゲームの実践 バスケットボール				
	13	バスケットボール				
	14	ネット型スポーツゲームの実践 卓球				
	15	卓球				
授業の評価	「試験」：レポート（40％） 「平常点」：授業態度・意欲（60％） 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック						
事前・事後の学習 等の内容	予習：食事、睡眠など、体調を整えておくこと。各授業にあたっては予習を行うこと。 復習：身体的なケアとしてストレッチを習慣化すること。各授業内容の振り返りとまとめを行うこと。					
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ） 事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。					
テキスト	適宜資料配布					
参考書	適宜資料配布					
その他	【OftA7-】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
スポーツと健康 (10611-E1)		講義	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	榎本 英樹
授業の到達目標		1. レクリエーション活動を通して、身体活動に関する理解を修得する。 2. 運動体験により、心身の健康維持の必要性を理解する。 3. 運動活動における安全とリスクマネジメントを理解する。 4. 運動プログラム考案を意義のある構成とし、指導スキルにつなげる。					
学位授与の方針 との関連		・数科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要		・実技では、様々な運動体験を行い、そのプロセスの中で心身の発育、発達、健康について学ぶ。 ・講義では、対象理解、運動理論、人間関係論、リスクマネジメントなどを通じて、幼児の特性と関わり方を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容					
	1	【講義】オリエンテーション 授業の概要、健康とは、そして運動の意義とは					
	2	【講義】スポーツと体験学習サイクルの関係					
	3	【実技】集団あそびと運動1（少人数）					
	4	【実技】集団あそびと運動2（多数）					
	5	【実技】身近な物を使った運動とその効果					
	6	【実技】ボール運動とその効果					
	7	【実技・講義】スポーツ指導のアレンジ					
	8	【実技・講義】チームビルディングアクティビティと効果的な運動					
	9	【実技・講義】五感を使った自然あそび					
	10	【講義】発達障がいの子の特性と運動					
	11	【講義】幼児の事故と応急処置					
	12	【実技・講義】グループワークを通じて学ぶリスクマネジメント					
	13	【講義】乳幼児の健康状態に関する状況と多様化					
	14	【講義】乳幼児の対象理解と発育・発達					
	15	【講義】幼児の生活習慣と健康					
授業の評価		「試験」： 指定されたテーマに関するレポート作成及び提出（40%） 「平常点」： 授業内で配布するふりかえりシートの提出（60%）					
課題（レポート等） のフィードバック		質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。					
事前・事後の学習 等の内容		【実技】予習：授業前日から食事、睡眠等体調を整えておく。 復習：実技内容の意義をふりかえり、まとめる。 【講義】予習：事業計画の事前確認と意義について推測する。 復習：授業の内容を整理し、まとめる。					
事前・事後の学習に 必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）・事後学習（45分）					
履修上の注意		・講義、実技共に積極的に授業にむかうこと。また安全に臨むこと。 ・体調が悪い、病気の兆候がある場合は、授業前に必ず申し出ること。 運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。 ・ルールとマナーを守る。授業内容に関係のない私語は禁止。 また携帯電話、スマートフォンは授業に必要な時以外は使用しない。 ・服装等について…実技の際は、動きやすい服装、運動シューズを使用すること。 実技内容によって、時計・つけ爪等を外すよう、指示をする場合もある。					
テキスト		適宜資料配布					
参考書		適宜資料配布					
その他		【オプショナル】授業の前後に実施します。					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育原理 ( 20120-B1 )		講義	2	1・2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	井口 佳江
授業の到達目標	1. 教育の基本理念についての基礎的な知識を身につける。 2. ルソー、ペスタロッチ、フレーベルといった児童中心主義の教育思想や実践を理解する。 3. 西洋、日本の教育史や教育思想についての基礎的な知識を理解する。 4. 歴史的観点から子どもの権利を理解し、保育者としてのあるべき姿を考えることができる。						
学位授与の方針と関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	幼児教育を理解する上で、基盤となる概念を学ぶ。現代の幼児教育の基礎となった教育思想を学び、その内容や実践を理解する。その上で、日本の教育の歴史、制度を学ぶ。これにより、日本の子どもたちの権利が制度によってどのように保障されるようになったのかを理解し、我々が保育者として子どもの権利と、これからどう向き合っていくのかを検討する。						
授業計画	1	オリエンテーション・教育原理とは					
	2	教育の基本理念					
	3	近代教育学の思想					
	4	近代教育学の思想					
	5	近代教育学の思想					
	6	近代教育学の思想					
	7	近代教育制度の成立					
	8	日本の教育制度：日本国憲法、こども基本法・教育基本法、保育所保育指針における教育概念					
	9	教育内容					
	10	教育方法					
	11	教育を受ける権利					
	12	教育者の権利					
	13	信頼される教員・保育者とは					
	14	日本の教育課題（発表）					
	15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：最終試験もしくは最終レポート（40％） 「平常点」：小テスト・グループワーク、ディスカッション、出席・授業態度・授業への参加意欲（30％） 「その他」：ディスカッション・レポート等（30％）						
課題（レポート等）の フィードバック	・ レポート等の課題は、Googlクラスルーム上で行い、そこでコメントする。 ・ 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の 内容	前回の授業内容を復習し理解すること、次回の授業の内容をインターネット、図書館などを利用し予習する。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学習が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・ 授業に積極的に参加し、必ずノートを取る。教授者のコメントもメモをとる。 ・ 教授者のアナウンス（授業に関するお知らせ等）を聞き逃さないようにすること。  ・ 遅刻、居眠り、私語、授業に関係ない行為、許可のないスマートフォン・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。  ・ 座席を指定する場合がある ・ 授業計画に沿って授業を行うが、進行状況によって前後することがある。						
テキスト	古橋和夫（2023）『子どもの教育原理 - 保育の明日をひらくために 』萌文書林						
参考書							
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育心理学 (20210-B1)	演習	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	河村 美帆
授業の到達目標	1. 保育実践にかかわる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの心身発達について基礎知識を学び、養護および教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門意識・技術を修得している					
授業の概要	子どもの心とからだの発達過程と特徴を学び、代表的な発達理論および「学び」に関する理論について概説する。さらに、各発達時期における発達課題を理解し子どもへの発達支援について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 子どもの発達を理解することの意義				
	2	子どもの発達と環境				
	3	子ども観・保育観と発達理論からの視点				
	4	社会情動的発達①アタッチメントの問題				
	5	社会情動的発達②アイデンティティの問題				
	6	身体機能と運動機能の発達				
	7	認知の発達				
	8	言語の発達				
	9	アセスメント（グループワーク）				
	10	発達的特徴と発達課題①乳幼児期				
	11	発達的特徴と発達課題②学童期～青年期				
	12	発達的特徴と発達課題③成人期～老年期				
	13	乳幼児期の学びに関する理論				
	14	乳幼児期の学び(遊び)の過程				
	15	乳幼児期の遊びを支える保育実践				
授業の評価	「試 験」： 筆記試験 （ 50 %） 「平常点」： 授業態度、小テスト、小レポート、毎回のシャトルカード （ 30 %） 「その他」： 提出課題（提出物） （ 20 %）					
課題（レポート等）のフィードバック	・ レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・ 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：テキストの該当箇所を通読し、授業内容を把握しておく。 事後学習：テキスト、ノート、資料等を通読し、各回の授業内容について理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1 単位につき次週も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分）事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	・ 毎回の授業終了後、シャトルカードを提出すること。 ・ 日頃から乳幼児に関心を持って観察し、授業に積極的に取り組むこと。 ・ 許可のないスマートフォンやタブレットの使用は認めません。					
テキスト	『実践につながる 新しい保育の心理学』大浦賢治 編著、ミネルヴァ書房					
参考書	授業で適宜資料を配布する。					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別支援 (20520-B1)		演習	2	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	川島 直子
授業の到達目標	1. 障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識を習得し、障害児保育の実践に反映することができる。 2. 障害児保育の専門的知識を踏まえ、個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等について習得し、障害児支援等に活かすことができる。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	わが国では、障害に対する理解と障害児を取り巻く環境の整備に向けて取り組んでいる。 本講座では、ソーシャルインクルージョンを目指すために、インクルーシブ保育・教育に携わる専門職に必要な知識及び実践的視点を養成する。 併せて、障害の特性を理解し、発達に課題のある子どもたちの“生きづらさ”に着目しつつ、個々に応じた適切な支援のあり方について学んでいく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション及び「特別支援（インクルーシブ保育・教育）の理論と実践」					
	2	「障害の概念と捉え方」～「ICIDH」から障害の概念、障害の捉え方～					
	3	「障害の概念と捉え方」～「ICF」から障害の概念、障害の捉え方～					
	4	わが国の障害の定義～障害者基本法～					
	5	身体障害の定義					
	6	知的障害・発達障害の概念					
	7	精神障害の概念					
	8	視覚・聴覚障害の特性と配慮					
	9	肢体不自由の特性と配慮					
	10	知的障害の特性と配慮					
	11	発達障害・情緒障害の特性と配慮					
	12	障害児の生活のしづらさと保護者のニーズ					
	13	障害児の福祉に関する理念と動向					
	14	特別支援（インクルーシブ保育・教育）に関する理念と動向					
	15	特別支援（インクルーシブ保育・教育）に関する制度・機関・連携					
授業の評価	「試 験」： 筆記試験（60%） 「平常点」： 授業態度、小テスト（20%） 「その他」： レポート等提出物（20%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。  復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ） 事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	専門職者を目指す者として自覚して受講すること。 授業内容に関する質問、疑問は積極的にしていただきたい。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。						
テキスト	・『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴・橋本好市・直島正樹 編 ミネルヴァ書房 その他、必要に応じて随時紹介する。						
参考書	・『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい出版						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと健康 (20610-B1)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 幼児期の健康な心と体を育てるために必要な知識や技能を理解する。 2. 幼児期の心身の発達に関する知識や情報を理解する。 3. 基本的生活習慣、安全な生活、施設整備について必要な知識や技能を身につける。 4. 幼児期の心と身体の健全な発達を指導、援助するための具体的な方法を身につける。					
学位授与の方針 との関連	幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深める。 環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。 健康な心と体を育むために、安全な生活や活動を考える。また、常に社会の変化に敏感な観点をもち、子どもの現状理解を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・健康に生きるために必要なものを考える				
	2	健康に生きる：健康の定義、概念・関連法令：WHOや人間の権利としての健康を理解する				
	3	保育における領域「健康」のねらい・内容：保育所保育指針や幼稚園教育要領を理解する				
	4	子どもの発育・発達・成長：発育と発達の違いを理解する				
	5	子どもを取り巻く環境と健康：社会の流れと子どもの健康の現状について理解する				
	6	子どもの健康と生活習慣：基本的生活習慣を確立させるための方法と理解				
	7	慢性疾患や障害を持つ子どもの保育について学ぶ				
	8	子どもの運動遊び：遊びの意義と歴史を理解する				
	9	子どもと子育て支援について制度や社会の動きを理解する				
	10	子どもの事故や病気等の対応：子どものけがや疾病について理解する				
	11	安全保育と危機管理：減災防災を考えながら災害時の子どもの健康を理解する				
	12	危険予知とその対応について理解する				
	13	子どもの健康と今日的課題：グループワークを通じて課題を抽出し現状を理解する				
	14	子どもの健康と今後の課題：課題の解決を目指した模擬保育の検討				
	15	まとめ				
授業の評価	「試験」：筆記試験（40%） 「平常点」：レポート、発表、受講態度（50%） 「その他」：提出物（10%）					
課題（レポート等） のフィードバック	毎回ふり返りシートを提出し、内容の共有と課題の確認を行う。					
事前・事後の学習 等の内容	・事前学習 テキストの該当箇所の通読を通じて授業内容の概要を把握しておく ・事後学習 グループワークや授業内容をまとめておく					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	・テキスト、資料は必ず持参すること ・グループワークでは、積極的に発言すること ・課題の提出は、期限を守ること					
テキスト	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針					
参考書	授業で適宜資料を配布する					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと人間関係 (20611-B1)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	山本 邑太
授業の到達目標	1. 幼児を取り巻く人間関係における現代の特徴と課題を理解している。 2. 人間関係が幼児の心情や思考の成長に大きな影響を及ぼすことを理解している。 3. 幼児期の人間関係の発達について、身近な大人やこども園や幼稚園での生活（対教師、対園児、対集団）を通じて育まれることを理解している。 4. 自立心や協調性等の育ちについて、人間関係の発達に合わせ成長することを理解している。					
学位授与の方針との関連	幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領に記載されている領域「人間関係」の主旨やその内容について理解するとともに、幼児の発達において望ましい「人間関係」の考察と具体的実践方法をグループワーク等を通じて学んでいく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション：領域「人間関係」とはなにか				
	2	現代社会における幼児と人間関係の特徴（グループワーク）				
	3	幼児の発達と身近な大人たちとの関係性について（愛着・信頼関係）				
	4	幼児の発達と仲間や集団との関係性について（協調・葛藤）				
	5	幼児期の感情の発達について				
	6	感情を調整する能力と援助について				
	7	乳幼児期の自立心の発達について				
	8	乳幼児期自立心を育む支援とは（グループワーク）				
	9	幼児期の共同性の発達について				
	10	共同性を育むあそびと援助（チーム制・ルール・目標）（グループワーク）				
	11	家庭→園→地域とのひろがる人間関係の理想と課題について				
	12	地域と保育・幼児教育の接続を「人間関係」を通して考える（グループワーク）				
	13	多様な幼児とのかかわりと援助について				
	14	幼児期に育みたい「人間関係」における資質と能力				
	15	まとめレポート作成				
授業の評価	「試験」：筆記試験（50%） 「平常点」：レポート、発表（40%） 「その他」：提出物（課題）（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・事前学習 テキストの該当箇所の通読を通じて授業内容の概要を把握しておく ・事後学習 グループワークや授業内容をまとめておく					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	・テキスト、資料は必ず持参すること ・グループワークでは、積極的に発言すること ・課題の提出は、期限を守ること					
テキスト	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針					
参考書	授業で適宜資料を配布する					
その他	【Q&A】 授業の前後					



科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと環境 (20612-C1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標		1. 子どものためになる環境を理解する。 2. 保育者が創り出す環境について理解する。 3. 子どものためのよりよい環境を創り出す保育者の役割について理解を深める。					
学位授与の方針 との関連		保育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要		子どもにとっての「環境」、保育者にとっての「環境」、様々な経験を通して環境について基礎知識を学習する。					
授業計画	回数	授業内容					
	1	イントロダクション					
	2	子どもを取り巻く環境と子どもの発達における意義					
	3	乳幼児にとって自然環境					
	4	環境とのかかわり					
	5	環境としての自然 1  野外環境や自然を用いた保育・教育について考える					
	6	環境としての自然 2  野外保育・園外保育・散歩					
	7	環境としての自然 3  保育計画の立案					
	8	環境としての自然 4  育てたものをどのように活かしていくかを考える					
	9	子どもの身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達					
	10	子どもの身近な環境との関わりにおける標識・文字、との関わりの発達					
	11	子どもの身近な環境との関わりにおける情報・施設、との関わりの発達					
	12	知識基盤社会と子どもを取り巻く環境の現代課題と幼児の発達					
	13	幼児期の学びにおける「環境」					
	14	乳幼児にふさわしい身近な環境と環境構成、幼児の活動の姿と、援助方法のあり方とその実践とふりかえり					
	15	まとめ					
授業の評価		「試 験」： 「平常点」：授業態度、レポート（５０％） 「その他」：授業内課題（５０％）					
課題（レポート等） のフィードバック		・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容		予習：目的、目標をもって授業に挑みましょう。 復習：授業内で学んだことをリストアップして自らの保育の財産にしましょう。					
事前・事後の学習に 必要な時間		一単位につき自習も含めて４５時間の学修が必要です。事前学習（４５分） 事後学習（４５分）					
履修上の注意		学ぶ姿勢、楽しみながら授業に参加すること。自身が保育者になったときのことを想像しながら共に学びを深めていきましょう。					
テキスト		『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館					
参考書		授業内で紹介する。					
その他		【オフィスアワー】 授業前後					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと言葉 (20613-B1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	井口 佳江
授業の到達目標	1.人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 2.言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 3.幼児にとって児童文化財の意義を理解する。 4.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。						
学位授与の方針と関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	「言葉」と保育の関係を理解し、子どもと「言葉」の関係について考え、保育実践における領域「言葉」を学ぶ。						
授業計画	1	オリエンテーション 保育・幼児教育の基本					
	2	領域「言葉」に関する専門的事項					
	3	乳幼児期の言語発達					
	4	言葉の楽しさ・美しさ					
	5	児童文化財の世界					
	6	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型こども園教育・保育領域における領域「言葉」					
	7	乳児保育における言葉を育む保育実践					
	8	1歳以上 3 歳未満児の保育における言葉を育む保育実践					
	9	3 歳以上の保育における言葉のやり取りを育む					
	10	言葉の感覚やイメージを育む保育実践					
	11	文字や記号に対する感覚や興味・関心を育む保育実践					
	12	領域「言葉」と 1 0 の姿					
	13	領域「言葉」と特別なニーズを持つ子ども					
	14	3 歳以上児（幼児教育）における言葉の発達とおとなの役割					
	15	小学校との接続 まとめ					
授業の評価	「試 験」：最終試験もしくは最終レポート（40%） 「平常点」：小テスト・グループワーク、ディスカッション、出席・授業態度・授業への参加意欲（30%） 「その他」：ディスカッション・課題レポート（30%）						
課題（レポート等）の フィードバック	・レポート等の課題は、Google Classroom 上で行い、そこでコメントする。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の 内容	前回の授業内容を復習し理解すること、テキストを読み次回の授業の予習をしておく。テキストを読むにあたり、自分の子ども時代の体験と照らし合わせ、「言葉」についての理解を深める。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学習が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	・授業に積極的に参加し、必ずノートを取る。教授者のコメントもメモをとる。 ・教授者のアナウンス（授業に関するお知らせ等）を聞き逃さないようにすること。 ・遅刻、居眠り、私語、授業に関係ない行為、許可のないスマートフォン・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。 ・座席を指定する場合がある。 ・授業計画に沿って授業を行うが、進行状況によって前後することがある。						
テキスト	秋田貴代美・砂上史子（2023）『シリーズ 知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・言葉』株式会社みらい						
参考書							
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと造形表現 (20614-C1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田 由加子
授業の到達目標	1. 造形教育において自らの目的を見出す。 2. 目的を持って自らの研究に取り組み。 3. 他者との違いを受け入れる。					
学位授与の方針 との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	造形表現を自分で考察し、保育の現場に応用できるようにする。 造形美に対して沸き起こる内的感動を基調として共創的授業。ICT活用授業。 自分なりに造形教育のビジョンを持って研究に取り組む。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	素材研究 身近な素材を探す				
	2	素材研究 身近な素材について調べる				
	3	素材研究 制作				
	4	素材研究 プレゼン資料を作成する（グループワーク）				
	5	素材研究 発表（プレゼンテーション）				
	6	表現研究 作家から「表現」について学ぶ				
	7	表現研究 美術館で「表現」について学ぶ				
	8	表現研究 表現したメディアを探す（グループワーク）				
	9	表現研究 制作				
	10	表現研究 発表（プレゼンテーション）				
	11	修了研究 制作準備				
	12	修了研究 制作				
	13	修了研究 「表現」についての論文を執筆する				
	14	修了研究 発表準備				
	15	修了研究 発表（プレゼンテーション）				
授業の評価	「試験」：3回の制作物 （60%） 「平常点」：レポート （40%） 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習 等の内容	事前学習：授業概要を把握しておうこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと 事後学習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
参考書	『造形芸術の基礎』キハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』溝上慎一・成田秀夫編 東信堂					
その他	【オフィスアワー】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと音楽表現 (20615-B1)		演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	宇治田 仁美
授業の到達目標	1. 幼稚園教育要領や保育所保育方針に記されている領域「表現」の内容やねらいを理解することができる。 2. 乳幼児にとって「表現」することの意義やその過程、特性等を理解、共感することができる。 3. 領域「表現」の中で音楽の果たす役割を理解し、その指導に必要な基礎的な知識や技能を身に付ける。 4. 乳幼児の発達段階に応じた音楽表現を見出し、展開させることができる。 5. 乳幼児の様々な音楽的表現を支援する為に必要な保育者に必要な表現力や想像力を養うことができる。						
学位授与の方針との関連	幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	領域「表現」で示されている音楽表現に関わる内容を踏まえた乳幼児の表現活動に関連した手あそび、歌あそび等の経験を通して、保育者としての総合的な能力を高めていく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション「子どもと音楽表現」についての授業構成と内容について説明する					
	2	読譜の基礎と楽典① /幼稚園教育要領及び保育所保育指針を基に幼児の発達と表現を理解する					
	3	読譜の基礎と楽典② /乳幼児の発達と音楽表現について考える① 0～2歳児					
	4	読譜の基礎と楽典③ /乳幼児の発達と音楽表現について考える② 3～5歳児					
	5	読譜の基礎と楽典④ /乳幼児の発達と音楽表現について考える③ 3～5歳児					
	6	読譜の基礎と楽典⑤ /子どもの歌の歌唱法① 日常生活、あいさつのうた等					
	7	様々な音楽教育例①オルフ、コダーイ /子どもの歌の歌唱法② 季節、行事のうた、外国語の歌等					
	8	様々な音楽教育例②ダルクローズ /子どもの歌の歌唱法③ 季節、行事のうた、外国語の歌等					
	9	音階と和音① /簡易楽器や手作り楽器の基礎知識と表現①					
	10	音階と和音② /簡易楽器や手作り楽器の基礎知識と表現②					
	11	音階と和音③ /子どもの音域と移調について考える					
	12	音階と和音④ /子どもの歌の伴奏法について考える					
	13	音楽的表現活動の事例に沿って考える①（ICTや映像資料などの活用含む）					
	14	幼児の総合的表現活動					
	15	基礎的な楽典と幼児の音楽表現についてまとめ					
授業の評価	「試 験」：筆記試験（50%） 「平常点」：レポート、発表（40%） 「その他」：提出物（課題）（10%）						
課題（レポート等）のフィードバック	レポートにコメントを記入し返却する。						
事前・事後の学習等の内容	事前学習：テキスト、配布プリント等を通読し、予定している授業内容の概要を把握しておくこと。 事後学習：テキスト、配布プリント、ノートを見直し、授業内容について理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	・テキスト、資料は必ず持参すること ・グループワークでは、積極的に発言すること ・課題の提出は、期限を守ること						
テキスト	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針						
参考書	授業で適宜資料を配布する						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「健康」 (20616-B1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	藤田 将弘
授業の到達目標	現代の幼児の身体機能や運動能力などを知り、運動遊びの意義や保育について理解し、自ら運動する事が楽しくできるようなプログラムを立案し、実践できる力を身に付ける。					
学位授与の方針 との関連	健康に対する専門的知識・技能を修得。ランニングに特化したゲーム制のある運動遊びを通して、コミュニケーション能力やチームワークおよび運動機能の更なる向上を図る。					
授業の概要	現在の社会では、栄養の過剰摂取と運動不足による生活習慣病の増加傾向・更には幼少児の体力低下など、健康に関する多くの問題を抱えている。幼少児の健康習慣は、児童期から青年期へと発育発達していくための基礎づくりとなるための重要な時期でもある。その点を意識し、保育士として発達過程に即した子どもの理解や援助、指導などについての運動遊びを学び、体を動かす楽しさを体験し、遊びの特性を知る。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション（自己紹介） 講義・実技内容 健康とはについて				
	2	健康のねらいと内容				
	3	幼児のあそびの発達と健康				
	4	子どもの体力低下と現状について				
	5	怪我に対する乳幼児の応急処置について				
	6	小型遊具を使用時の運動遊び①（ボール投げ・なわとび・風船など）				
	7	小型遊具を使用時の運動遊び②（ボール投げ・なわとび・風船など）				
	8	大型遊具を使用時の運動遊び①（マット・跳び箱・平均台など）				
	9	大型遊具を使用時の運動遊び②（マット・跳び箱・平均台など）				
	10	ランニング（鬼ごっこ・リレー）				
	11	グリコーゲン（筋肉、肝臓に貯蔵されるエネルギー源）と脂肪燃焼のしくみについて				
	12	サーキット遊び（Ⅰ・Ⅱ型）				
	13	サーキット遊び立案（グループに分かれて）				
	14	グループディスカッション				
	15	まとめ				
授業の評価	「試 験」：課題（レポート） （60%） 「平常点」：授業態度、積極性、協調性、コミュニケーション（40%） 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し提出。 振り返りシートについては、次回の授業時に返却する。					
事前・事後の学習 等の内容	授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。 各自で体調管理をしっかり行う。					
事前・事後の学習に 必要な時間	自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ） 事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	講義・実技には積極的に取り組む。 欠席や遅刻が多い場合については、学習意欲に欠けると判断。 実技については、動きやすい服装ならびに靴を持参。飲料水やタオルについても各自で準備。 貴重品については、各自で管理をする。 体調不良や病気、怪我がある場合については、事前連絡必須。					
テキスト	「保育内容・健康」 民秋言ほか編著（ひかりのくに株式会社） 「新・体育あそびアラカルト」 西村誠ほか著（昭和堂）					
参考書	「体育あそび指導書」 西村誠ほか編著 発行所OSPC身体活動研究所					
その他	【オプショナル】 授業前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「人間関係」 (20617-B1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田 由加子
授業の到達目標		1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本をふまえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 3. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。					
学位授与の方針との関連		保育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要		子どもは生活の中で、人とのかかわりをどのような過程を経て発展させていくのか。また、それを支える保育者の指導・援助はどうあるべきか等、「人間関係」領域の指導法を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション					
	2	「人間関係」とは (プレゼンテーション)					
	3	私たちにとっての「人間関係」とは (プレゼンテーション)					
	4	現代の乳幼児を取り巻く人間関係 (プレゼンテーション)					
	5	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂（改定）と背景					
	6	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					
	7	0～2歳児の人との関わりと保育					
	8	3～5歳児の人間関係の育ちを支える					
	9	子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係					
	10	子どもたちの人間関係を育む学級経営					
	11	領域「人間関係」の特性や子どもの体験との関連性を考慮した情報機器及び教材の活用法について					
	12	指導案の作成 (グループワーク)					
	13	指導案の実践 (グループワーク)					
	14	指導案から保育へ (グループワーク)					
	15	まとめ					
授業の評価		「試 験」：筆記試験 (50%) 「平常点」：授業態度、小テスト (40%) 「その他」：提出物 (10%)					
課題（レポート等）のフィードバック		・小テストについては授業内で答え合わせをする。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容		予習：各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 次回授業の主な内容について予習を課す。 復習：各回の授業内容について理解を深めておくこと。 理解度を確認するため、小テストを行うことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45分）					
履修上の注意		・テキスト・はさみ・のりは毎回必ず持参すること。 ・グループ活動では意欲的に参加すること。（グループ活動では、以下の点において評価する） ①準備をして取り組んでいる。 ②話し合いに積極的に参加している。 ③グループに貢献するように作業している。 ④うなずき・アイコンタクトができています					
テキスト							
参考書		授業中に紹介する					
その他		【オプショナル】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「環境」 (20618-B1)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 子どものためになる環境を理解する。 2. 保育者が創り出す環境について理解する。 3. 子どものためのよりよい環境を創り出す保育者の役割について理解を深める。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	子どもにとっての「環境」、保育者にとっての「環境」、様々な経験を通して環境について基礎知識を学習する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	イントロダクション				
	2	子どものための園庭環境について				
	3	子どものための室内環境について				
	4	自然とのふれあいを通して				
	5	グループワーク ①自然環境について				
	6	②栽培活動について				
	7	子どもと環境について考える				
	8	グループワーク ①ICTを活用した保育について				
	9	②ICTを活用した保育について				
	10	自然環境を利用した保育				
	11	グループワーク ①子どもを通した環境				
	12	②自然から考える環境				
	13	指導内容と援助について				
	14	カリキュラムを通して環境について考える				
15	まとめ					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：授業態度、レポート（50％） 「その他」：授業内課題（50％）					
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容の質問については、個別又は全員に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：次回の授業箇所を通読し概要を把握しておく。 復習：レポートを課すことがあるので、テキストを通読し授業内容の理解を深めておく。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分） 事後学習（45分）					
履修上の注意	シラバスの内容は授業進行状況と合わせるため変更することがある。 グループの話し合いや活動に積極的に参加すること。					
テキスト	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館					
参考書	授業内で紹介する。					
その他	【オフィスアワー】 授業前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「言葉」 (20619-B1)	演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	松本 恭子
授業の到達目標	1. 乳幼児期、その言葉はどのようにして獲得され育っていくのかを理解する。 2. 保育現場における具体的な状況に応じて、言葉を獲得していくための様々な援助をどのように進めていくのかを学ぶ 3. 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づいて理解を深めるとともに、子どもの豊かな言葉を育む保育者としての資質を養う。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	領域「言葉」のめざしているものを理解するとともに、保育実践の場における具体的な取り組みの手法を 修得し資質を養う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	授業の進め方についての説明, この授業の目的。課題①				
	2	「子育てと言葉」・言葉の機能と獲得とは…				
	3	・コミュニケーションと言葉				
	4	「領域」について・領域の言葉について課題②				
	5	・言葉と他の領域の関係				
	6	「言葉の獲得」・一語文以前				
	7	・話し言葉				
	8	「児童文化財」・言葉を育てる児童文化財課題③				
	9	「言葉を育てる環境」・乳児の言葉を育てる環境				
	10	・幼児の言葉を育てる環境グループワーク①				
	11	・書き言葉への興味や関心を育てる環境グループワーク②				
	12	「言葉の育ちにかかわる諸問題」・言葉の障害について実践発表①				
	13	・母語が日本語でない子どもの理解と援助 実践発表②				
	14	実践発表③・まとめと評価				
	15	教科「言葉」のまとめ				
授業の評価	「試験」：筆記試験（50％） 「平常点」：授業態度、グループワークにおける協調性等（20％） 「その他」：提出物（10％） 実践発表（20％）					
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：教科書に目を通し、学習の内容を把握しておきましょう。 復習：授業内容についてまとめておく。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は認めません。意欲的に取り組む態度が見られる学生は大きく評価します。					
テキスト	『保育内容 言葉』 小田豊・芦田宏・門田理世編著 北大路書房 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府 フレーベル館					
参考書						
その他	【オフィスワーカー】 授業の前後					



科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「表現Ⅰ」 (20620-B1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田 由加子 中村 翔一 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 保育現場での乳幼児の表現の捉え方を理解する。 2. 乳幼児の表現発達に関する知識を獲得する。 3. 乳幼児が感じたことや考えたことを自分なりに表現するための、保育者役割や援助法を考えられるようになる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもの発達を見通したうえでの保育現場での表現援助法について学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育・教育の原理と保育内容「表現」				
	2	保育内容「表現」のねらい				
	3	保育内容「表現」の内容				
	4	感性とは何か				
	5	子どもの感性を磨く「音育」				
	6	身近なものに触れるということ				
	7	子どもが表現をする時（グループワーク）				
	8	1歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合				
	9	2歳児の発達 第8章「表現」と保育 実践 保育所の場合				
	10	1歳児クラスと2歳児クラスの「表現」を育てる保育者のありかた				
	11	3歳児の発達 第8章「表現」と保育実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合				
	12	4歳児の発達 第8章「表現」と保育実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合				
	13	5歳児の発達 第8章「表現」と保育実践 保育所の場合 第9章 幼稚園の場合				
	14	授業で紹介した音楽遊びの実践/音を聴く				
	15	本授業のまとめ				
授業の評価	「試験」：定期試験（30%） 「平常点」：発表（50%） 「その他」：提出物（20%）					
課題（レポート等） のフィードバック						
事前・事後の学習 等の内容	次回の授業の内容にについて告知しておくので、その内容に関する課題について調べておく。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	シラバスの内容は、授業進行状況と合わせて変更の可能性がある					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形 (20734-F1)		演習	1	1年次 前期	選択	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段位を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が修得できる。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	乳幼児における表現活動の大切さと子どもの発達過程を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する学習をする。実際に材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、手の動きによる描写や造形、描画材の特徴の理解及び表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作体験を交えながら、実際の造形教育活動を行うことで、えがく、つくることの指導・援助の方法のあり方の知識を深める。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション					
	2	子どもの表現について					
	3	乳幼児の造形のねらいについて					
	4	描画活動の技法について(1)ペインティング					
	5	描画活動の技法について(2)クレヨン					
	6	つくる活動について(1)新聞紙であそぶ					
	7	つくる活動について(2)手でやぶる・ちぎる					
	8	つくる活動について(3)作ったものであそぶ					
	9	つくる活動について(4)はさみで切る					
	10	つくる活動について(5)作ったものであそぶ					
	11	つくる領域の環境づくりと指導・援助について					
	12	造形活動 立体表現(1)お誕生日カード製作					
	13	造形活動 立体表現(2)お誕生日カード製作					
	14	造形活動 立体表現(3)お誕生日カード製作					
	15	まとめ					
授業の評価	「試験」：課題提出(60%) 「平常点」：授業の参加度(40%) 「その他」：						
課題(レポート等)のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック(点数やコメント等)はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。						
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)						
履修上の注意	製作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。						
テキスト							
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要慮解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館						
その他	【WiSAPW-】						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅠA (20730-B1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段位を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が修得できる。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	乳幼児における表現活動の大切さと子どもの発達過程を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する学習をする。実際に材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、手の動きによる描写や造形、描画材の特徴の理解及び表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作体験を交えながら、実際の造形教育活動を行うことで、えがく、つくることの指導・援助の方法のあり方の知識を深める。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション					
	2	子どもの表現について					
	3	乳幼児の造形のねらいについて					
	4	描画活動の技法について (1) ペインティング					
	5	描画活動の技法について (2) クレヨン					
	6	つくる活動について (1) 新聞紙であそぶ					
	7	つくる活動について (2) 手でやぶる・ちぎる					
	8	つくる活動について (3) 作ったものであそぶ					
	9	つくる活動について (4) はさみで切る					
	10	つくる活動について (5) 作ったものであそぶ					
	11	つくる領域の環境づくりと指導・援助について					
	12	造形活動 立体表現 (1) お誕生日カード製作					
	13	造形活動 立体表現 (2) お誕生日カード製作					
	14	造形活動 立体表現 (3) お誕生日カード製作					
	15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：課題提出 (60%) 「平常点」：授業の参加度 (40%) 「その他」：						
課題 (レポート等) のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック (点数やコメント等) はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。						
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (45分) 事後学習 ( 45分 )						
履修上の注意	製作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。						
テキスト							
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要慮解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館						
その他	【オフィスワーカー】						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅠB (20731-B1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 子どもと共に楽しむための必要な造形的基礎力を獲得する。 2. 表現することを楽しみながら基礎技能や材料、用具に関する知識を身につける。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼稚園教育要領に示された幼児の造形表現に関する目標や内容を理解し、実践での造形教育活動を行うにあたり環境構成を踏まえた指導計画案の作成や援助のあり方についての知識を関連づけながら、具体的な指導場 面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	造形活動の指導案について				
	2	0・1・2歳児の指導案について				
	3	3・4・5歳児の指導案について				
	4	表現活動の展開（教師の指導・助言・支援のあり方について）				
	5	指導計画（保育案）の作成（グループ活動）				
	6	計画した活動テーマに沿って、内容を考え活動を組み立てる①製作活動				
	7	計画した活動テーマに沿って、内容を考え活動を組み立てる②製作活動				
	8	計画した活動テーマに沿って、内容を考え活動を組み立てる③製作活動				
	9	計画した活動テーマに沿って、内容を考え活動を組み立てる④製作活動				
	10	計画した活動テーマに沿って、内容を考え活動を組み立てる⑤製作活動				
	11	計画した活動テーマに沿って、内容を考え活動を組み立てる⑥制作活動				
	12	各グループで計画した活動の内容発表				
	13	計画した活動であそぶ				
	14	計画した活動であそぶ				
15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：課題提出（60%） 「平常点」：授業の参加度（40%） 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意	製作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ⅠA (20740-B1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	大西 輝彦
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための基礎的知識を取得し、その指導の土台を作る。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。 4. 安全に運動をするための環境設定を理解する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。						
授業の概要	幼児期における身体活動の意味や価値を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた運動の基礎知識を習得する。 運動遊びの実践を通して、必要な働きかけや安全管理を習得する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション 運動遊びの実践					
	2	現代の幼児を取り巻く環境と体育の意味 集団遊び①					
	3	幼児期の心身の発育発達と運動技能理解 集団遊び②					
	4	集団遊び③					
	5	集団遊び④					
	6	大型遊具を使った運動遊び マット・跳び箱①					
	7	大型遊具を使った運動遊び マット・跳び箱②					
	8	大型遊具を使った運動遊び 平均台・鉄棒					
	9	小型遊具を使った運動遊び ボール①					
	10	小型遊具を使った運動遊び ボール①					
	11	小型遊具を使った運動遊び フープ・なわ					
	12	身近なものを使った遊び 新聞紙・ペットボトル					
	13	身近なものを使った遊び 段ボール					
	14	運動遊びの実践と評価					
	15	運動遊びの実践と評価					
授業の評価	「試 験」：指導実技試験 (30%) 「平常点」：授業態度及び取り組む意欲 (50%) 「その他」：指導案 (20%)						
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。						
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）						
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、事業前に必ず申し出ること。						
テキスト	適時資料配布						
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</a>						
その他	【オフィスアワー】 授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ⅠB (20741-B1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	大西 輝彦
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための基礎的知識を取得し、その指導の土台を作る。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。 4. 安全に運動をするための環境設定を理解する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	幼児期における身体活動の意味や価値を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた運動の基礎知識を習得する。 運動遊びの実践を通して、必要な働きかけや安全管理を習得する。 指導実践はグループを作り、グループディスカッションを行い計画、実践します。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼児体育における安全管理/指導案の考え方				
	2	幼児体育指導法①				
	3	幼児体育指導法②				
	4	集団（群れ）あそびの指導立案				
	5	集団（群れ）あそびの指導実践①				
	6	集団（群れ）あそびの指導実践②				
	7	集団（群れ）あそびの指導実践③				
	8	サーキット運動の指導立案				
	9	サーキット運動の指導実践①				
	10	サーキット運動の指導実践②				
	11	サーキット運動の指導実践③				
	12	リズム運動の指導立案				
	13	リズム運動の指導立案				
	14	リズム運動の指導実践①				
	15	リズム運動の指導実践②				
授業の評価	「試 験」：指導実技試験（30%） 「平常点」：授業態度及び取り組む意欲（50%） 「その他」：指導案（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。 ・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。 ・各自で水分およびタオルを用意する。 ・各自で貴重品を管理する。 ・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、事業前に必ず申し出ること。					
テキスト	適時資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</a>					
その他	【オフィスアワー】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教教育 (20110-A1)		講義	2	1年次 後期	必修		時久 牧人
授業の到達目標	1. キリスト教について学び、キリスト教の本質である「愛」について多角的に理解する。 2. 「愛すること」を日常生活および教育現場にて適用するための実践的知識と能力を身につける。 3. 「神を愛し人を愛せ」という言葉を深く理解する。 4. 神の作品という概念を正しく健全にとらえ、肯定的なセルフイメージを持つ。						
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	キリスト教及びキリスト教教育の歴史を学び、愛するとは何かを深く理解し、他者に伝えることができるよう表現力を培う。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	「キリスト教」について 聖書の各書の大まかな把握					
	2	聖書の読み方について（グループディスカッションを含む）					
	3	創造主、イエスキリスト、聖霊について①					
	4	創造主、イエスキリスト、聖霊について②					
	5	キリスト教の人間観について					
	6	キリスト教の教育観 幼児教育の歴史について					
	7	キリスト教の教育観 幼児教育の目的について					
	8	現代日本社会、および子供たちの現状を理解し、ディスカッションの時を持つ					
	9	キリスト教の行事を知る					
	10	「愛する」について 愛することと恋することの決定的な違い					
	11	「愛する」ことの構造					
	12	「愛する」ことの構造 東洋的思考と西洋的思考について					
	13	つながり力grade up①					
	14	つながり力grade up②					
15	聖書の物語を読みプレゼンテーションを行う						
授業の評価	「試 験」： 筆記試験（30%） 「平常点」： 授業・発表態度及びディスカッションの積極性（45%） 「その他」： 提出物（25%）						
課題（レポート等）のフィードバック	提出したものは、コメントを付して返却。場合によっては再提出をしてもらう。 授業内容に関する質問には個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	各回のテーマを事前に調べておく。また授業の内容をレポートにまとめておく。 疑問点があれば調べ、内容によっては次の授業において質問するように準備しておく。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	授業への取り組む姿勢も評価の対象であり、授業内容の理解度も重視している。 それらを踏まえて単位取得を目指してほしい。						
テキスト	『新キリスト教保育指針』キリスト教保育連盟 聖書 讃美歌						
参考書	『（改訂版）こどもさんびか』日本キリスト教団出版局、 『マザー・テレサ 愛のことば』女子パウロ会 『トリニティーブック（私たちが信じる神）』時久牧人 広畑キリスト教会 『愛するということ』エーリッヒ・フロム 紀伊国屋書店						
その他	【オフィスワーク】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽Ⅰ (20710-D1)		演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修	池田京子ほか 備考欄参照
授業の到達目標		楽譜の読み方を習得すると同時に基本的なピアノ演奏技術について学習する。 1. ト音譜表による読譜ができる。 2. 二分音符や四分音符による右手と左手で異なる旋律を両手で演奏できる。 3. 基本形コードによる簡単な伴奏付けができる。					
学位授与の方針との関連		保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要		個々の進度に応じたピアノグループレッスンにより、楽譜の読み方、ピアノの基本的な奏法、簡単な伴奏付けなどを学習する。 個々の進度は、受講者のこれまでの音楽経験をもとに、短・高接続教育プログラムによる本学独自のピアノグレードを用いて決定する。 また、音楽理論やピアノ譜の読譜に関する学習も併せて実施する。					
授業計画		回数	授業内容				
		1	オリエンテーション、グレード決定				
		2	楽譜の読み方(1) 五線、音部記号、音名、コード				
		3	楽譜の読み方(2) 拍子、音符の種類				
		4	バイエル 3番～11番 拍子及び様々な種類の音符に関する実践学習				
		5	バイエル12番～15番 5本の指を動かす。レガートでの演奏				
		6	バイエル16番～27番 左右で異なる旋律の両手奏。				
		7	こどものうた100「ちょうちょう」 ハ長調、基本形コードによる伴奏付け				
		8	バイエル29番 タイの演奏				
		9	こどものうた100「チューリップ」 ハ長調、基本形コードによる伴奏付け				
		10	バイエル32番～40番 左手の加線付き音符の読譜と演奏				
		11	こどものうた100「ぶんぶんぶん」 ヘ長調、基本形コードによる伴奏付け				
		12	バイエル41番～43番：右手の加線付き音符の読譜と演奏。				
		13	こどものうた100：「おはながわらった」 ヘ長調、基本形コードによる伴奏付け				
		14	バイエル44番～46番 八分音符が出現する楽曲の演奏				
		15	実技試験のための学習				
授業の評価		「試験」：実技試験 (60%) 「平常点」：授業態度 発表 (40%) 「その他」：課題 (提出物)					
課題 (レポート等)のフィードバック		毎回の課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容		予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 ( 45 分 ) 事後学習 ( 45 分 )					
履修上の注意		・個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。 ・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、ブレスレット等、アクセサリー類の使用は認めない。 ・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・日頃から、課題曲の楽譜を声に出して何度も音読みし、早く楽譜に慣れる等、譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。					
テキスト		・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、全音楽譜出版社 ・『こどものうた100』小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社					
参考書		楽典 理論と実習 石桁 真礼生他著 音楽之友社 読譜に関する資料をGoogleクラスルームにより配信する。その他の資料は必要に応じて配布する。					
備考		池田京子・宇治田仁美・高磯八千代・福田真梨奈・藤井直子					
その他		【オフィスアワー】授業の前後やSNSにて対応する。					



科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅠA (20712-C1)		演習	1	1年次 前期	選択	幼免必修	池田 京子 高磯 八千代 藤井 直子
授業の到達目標		1. 基本的な読譜力を獲得している。 2. ピアノ演奏の基礎技術を獲得し、初歩レベルの単純な楽曲を演奏できる。 3. コードによる簡単な伴奏法を学習し、基本形での伴奏付けができる。					
学位授与の方針との関連		保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要		・本学のグレードカリキュラムに従い、個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。 ・楽譜の読み方やピアノ演奏の基礎技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。 ・基本形を用いたコードによる伴奏法をこどものための楽曲演奏により学習する。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲の2種類の課題を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)					
授業計画		回数	授業内容				
		1	オリエンテーション、各自のグレード判定、音符の読み方・音の高さの学習				
		2	簡単な伴奏のためのコードについての学習				
		3	音符の種類と長さ				
		4	進度別課題① 拍子に合わせて弾く			伴奏付け実習「こどものうた」 ハ長調の楽曲	
		5	進度別課題② 音符の長さを弾き分ける			ちょうちょ	
		6	進度別課題③ 5本の指を独立して動かす			チューリップ	
		7	進度別課題④ 3度音程による和音の練習			伴奏付け実習「こどものうた」 ヘ長調の楽曲	
		8	進度別課題⑤ 左右別々の音を同時に弾く			ぶんぶんぶん	
		9	進度別課題⑥ 左右別々に弾き始める			びよんびよんカエル	
		10	進度別課題⑦ タイの練習			伴奏付け実習「こどものうた」 任意の楽曲	
		11	進度別課題⑧ 左手の加線譜の練習			〃	
		12	進度別課題⑨ 〃			〃	
		13	進度別課題⑩ 八分音符を演奏する			〃	
		14	進度別課題⑪ 〃			〃	
		15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習				
授業の評価		「試 験」： 実技試験 (80%) 「平常点」： 課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度 (20%) 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック		毎回の授業課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容		予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意		・個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。 ・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリー類の使用は認めない。 ・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・日頃から、課題曲の楽譜を声に出して何度も音読みし、早く楽譜に慣れる等、譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。					
テキスト		・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ、ほか ・『こどものうた100』小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社 ・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。					
備 考							
その他		【オフィスアワー】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅠB (20713-C1)	演習	1	1年次 後期	選択	幼免必修	池田 京子 高磯 八千代 藤井 直子
授業の到達目標	1. 基本的な読譜力を習得している。 2. ピアノ演奏の基礎技術を習得し、へ音譜表を含んだ楽曲を演奏できる。 3. コードによる簡単な伴奏法を学習し、基本形と転回形とを用いた伴奏付けができる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	・本学のグレードカリキュラムに従い、個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。 ・進度別グレード課題でへ音譜表を含んだ楽曲を扱い、読譜力やピアノ演奏基礎技術を獲得する。 ・コードによる伴奏法や規則的なリズム表現の技術をこどものための楽曲課題により学習する。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲など、2種類以上の課題を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)					
授業計画	回数	授業内容				
	1	進度別課題① ハ長調Ⅰ、Ⅳ、Ⅴの分散和音			伴奏付け実習：「こどものうた」	
	2	進度別課題② バイエル47番、48番			〃	
	3	進度別課題③ バイエル50番			リズム表現実習：マーチ	
	4	進度別課題④ バイエル51番、52番			〃	
	5	進度別課題⑤ 1拍目の休符の練習			リズム表現実習：任意の楽曲	
	6	進度別課題⑥ バイエル53番、54番			〃	
	7	進度別課題⑦ 両手とも指を独立して動かす			伴奏付け実習：「こどものうた」	
	8	進度別課題⑧ バイエル56番、57番			〃	
	9	進度別課題⑨ 3／8拍子、6／8拍子			実習に役立つ課題の演奏	
	10	進度別課題⑩ 左手のへ音譜表での伴奏			〃	
	11	進度別課題⑪ 音符の長さを弾き分ける			讃美歌の演奏	
	12	進度別課題⑫ ト長調の楽曲 バイエル76番			〃	
	13	進度別課題⑬ ニ長調の楽曲 バイエル75番			伴奏付けの実習：「こどものうた」	
	14	進度別課題⑭ イ長調の楽曲 バイエル79番			〃	
	15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習				
授業の評価	「試験」： 実技試験 (80%) 「平常点」： 課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度 (20%) 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業課題について、個別に到達度をチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意	・個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。 ・ピアノ演奏のマナーとして、爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、ブレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。 ・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・日頃から、課題曲の楽譜を声に出して何度も音読みし、早く楽譜に慣れる等、譜読みやピアノの練習に励んだうえで、授業に臨むこと。					
テキスト	・バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ、ほか ・『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社 ・『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著 全音楽譜出版社 ・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。					
備考						
その他	【オプスワ】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育実習指導Ⅰ (10811-C1)	演習	1	1 年次 前・後期	選択	幼免必修	津田 由加子 中村 翔一 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 幼稚園・こども園教育実習の意義と目的を理解する 2. 教育実習に必要な知識と技術を習得する 3. 学内の付属幼稚園にて観察実習を行い、講義で学んだ理論を観察実習にて確認し、教育・保育の基本を理解する					
学位授与の方針との関連	・保育に関する専門的知識・技術を修得している					
授業の概要	対話授業の基礎資料を配布し、それに基づいて授業を進める 毎回テーマを決めておき、そのテーマに対して対話形式で行う 実際の子どもたちの生活の動画資料・画像資料をもとにグループワークをする					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション 実習の心得				
	2	個人表作成 名札づくり①				
	3	名札づくり② 教材研究：絵本の選び方 保育実技：絵本の読み聞かせ				
	4	グループワーク 製作発表				
	5	実習の一日の生活の流れ① 実技：保育以外の業務について				
	6	実習の一日の生活の流れ② 実技：保育以外の業務について				
	7	実習日誌の説明 実習記録の書き方①				
	8	実習記録の書き方②				
	9	教材研究：子どもたちの室内遊びについて				
	10	教材研究：子どもたちの戸外遊びについて				
	11	実習オリエンテーション				
	12	教材研究：歌・ダンス・体操 保育実技：子どもへの関わり方				
	13	実習の事後報告・礼状作成				
	14	自己評価と今後の課題①				
	15	自己評価と今後の課題② まとめ				
授業の評価	「平常点」：授業態度、提出物等（50％） 「その他」：授業の中での発表（30％） 小テスト（20％）					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：配布プリントなどの資料を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと 復習：授業において理解できなかった事柄については、授業中あるいは授業後に質問をし授業内容を理解すること					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢、学生としての態度とマナーを重視する。 履修登録をしても下記の場合、学外実習参加を認められないことがある。 ①事前の実習指導において2回以上の欠席がある ②教員による会議で実習が認められないと判断されたとき ③授業態度が不良である ・提出物期限は厳守すること					
テキスト	なし（毎回授業終了時に次回の授業に使う資料を配布）					
参考書	なし					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育原理 (20140-E2)		講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	井口 佳江
授業の到達目標	1. 保育士としてのあるべき姿、保育士の資質について理解することを目的に、保育に関する法令や制度、保育指針における保育の基本を理解することができる。 2. 幼児教育についての歴史を学び、どのような人物が保育・幼児教育に対してどのようにアプローチしてきたのかを理解する。 3. 保育者としての基礎的知識を身に付ける。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	わたしたちを取り巻く社会の環境は常に変化し、私たちは様々な社会問題と向き合いながら「保育」という営みを継続しなければならない。保育原理では、「保育となにか」を学ぶために必要な基礎的知識を理解することに重点を置いている。保育の基礎的な知識を理解させることで、保育者としていつか直面するであろう保育課題を解決する糸口となるよう指導する。						
授業計画	1	オリエンテーション、保育の意味と意義					
	2	保育の社会的役割と責任					
	3	保育の制度（保育所と幼稚園）					
	4	保育の制度（認定こども園、家庭的保育・多様な保育）					
	5	保育所保育指針の基本方針と理念					
	6	保育の目標と方法					
	7	保育の環境					
	8	発達と保育					
	9	保育と保護者					
	10	保育のねらいと内容					
	11	保育の思想と歴史①					
	12	保育の思想と歴史②					
	13	諸外国の保育と現状と課題					
	14	日本の保育の現状と課題					
	15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：最終試験もしくは最終レポート（40%） 「平常点」：小テスト・グループワーク、ディスカッション、出席・授業態度・授業への参加意欲（30%） 「その他」：ディスカッション・レポート（30%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・ レポート等の課題は、Googlクラスルーム上で行い、そこでコメントする。 ・ 授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	前回の授業内容を復習し理解すること、テキストを読み次回の授業の予習をしておく。時事問題（ニュース）に関心を抱き、常に問題意識をもって授業に取り取り組むこと。学ぶということの重要性を意識すること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学習が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・ 授業に積極的に参加し、必ずノートを取る。教授者のコメントもメモをとる。 ・ 教授者のアナウンス（授業に関するお知らせ等）を聞き逃さないようにすること。 ・ 遅刻、居眠り、私語、授業に関係ない行為、許可のないスマートフォン・タブレット等の電子機器の使用は、減点あるいは欠席扱いとする。 ・ 座席を指定する場合がある。 ・ 授業計画に沿って授業を行うが、進行状況によって前後することがある。						
テキスト	井上孝之 小原敏郎 三浦主博 編（2023）『シリーズ知のゆりかご つながる保育原理』株式会社 みらい 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）『保育園指針解説』（厚生労働省）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府文部科学省厚生労働省）						
参考書							
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会福祉 (20411-E1)		講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格必修	山本 邑太
授業の到達目標	1. 現代社会における社会福祉の意義・理念・歴史の変遷・対象に関する知識を習得する。 2. 社会福祉の各領域についての法制度・実施体系等について理解する。 3. 保育士として社会福祉における相談援助・利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	社会福祉の原理・原則を理解し、現代社会における社会福祉の施策と動向及び必要性と今後の課題について概説する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	現代社会における社会福祉の概念					
	2	欧米の社会福祉の歴史的変遷					
	3	日本の社会福祉の歴史的展開					
	4	社会福祉の原理と社会保障					
	5	生活保護制度					
	6	社会福祉サービスの概要と専門職					
	7	社会福祉専門職の専門性と倫理					
	8	社会福祉の法体系・制度					
	9	ソーシャルワークの意義と内容①保育士と社会福祉の関係性～社会福祉法制度上から見た保育士の立ち位置へ～					
	10	ソーシャルワークの意義と内容②社会福祉と保育士の関連性から見た相談援助（グループワーク）					
	11	現代社会における児童福祉の施策と課題					
	12	現代社会における障害福祉の施策と課題					
	13	現代社会における高齢者福祉の施策と課題					
	14	保育士としての権利擁護と苦情解決、利用者保護					
	15	まとめ、ふりかえり（グループワーク）					
授業の評価	「試 験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	専門職者を目指す者として自覚して受講すること。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。 授業内容に関する質問、疑問は積極的にしていただきたい。						
テキスト	『保育と社会福祉』橋本好市・宮田徹 編 みらい出版 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい出版（既に持っているものでよい）						
参考書	『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 『障害者への支援と障害者自立支援制度』相澤譲治・橋本好市・直島正樹 編 みらい出版 その他、必要に応じて随時紹介する。						
その他	【オフィスアワー】当該講義日の昼休み						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭福祉 (20410-E1)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	山本 邑太
授業の到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開について理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもの権利を守るために必要なものはゆるぎない人権意識である。 その基盤となる知識や見識を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	子ども家庭の福祉				
	3	子ども家庭福祉の歴史				
	4	子ども家庭福祉の制度と法律				
	5	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 ①				
	6	子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 ②				
	7	児童福祉施設の現状 グループワーク				
	8	少子化と子育て家庭へのサービス				
	9	様々な保育サービス グループワーク				
	10	ひとり親家庭の福祉サービス				
	11	子育て支援と子どもに関する諸問題				
	12	子どもの貧困と対策				
	13	地域における連携・協働とネットワーク				
	14	これからの子ども家庭福祉を考える				
	15	まとめ グループワーク				
授業の評価	「試 験」：筆記試験（70%） 「平常点」：授業態度、提出物など（20%） 「その他」：小テスト（10%）					
課題（レポート等） のフィードバック	レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	教科書の内容プラス現在の社会状況と加味して子ども家庭福祉に関する学びを行えるように実施する。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ） 事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	新聞を読み、ニュースに関心を持つこと。 積極的に発言すること。					
テキスト	『図解で学ぶ保育「子ども家庭福祉」』直島正樹・河野清志編著 萌文書林					
参考書	『基本保育データブック2022』全国保育士養成協議会 監修 中央法規 『子ども家庭福祉』新保幸雄・小林理 著 中央法規					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会的養護Ⅰ (20510-E1)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	山本 邑太
授業の到達目標	1. 社会的養護における原理・原則について理解する。 2. 社会的養護の先人の知恵、努力、功績に関する知識を獲得する。 3. 社会的養護の学問を基礎とした自らの考える力を身につける。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会的養護の原理・原則を理解し、現代社会における社会的養護の施策と動向、および必要性和今後の課題について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	社会的養護とは何か				
	2	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利				
	3	社会的養護の仕組み				
	4	社会的養護に関する法制度～児童福祉法、措置制度、利用・契約制度について～				
	5	社会的養護の歴史的変遷について				
	6	施設養護①～児童養護施設、乳児院について～				
	7	施設養護②～児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設について～				
	8	施設養護③～障害児施設について～				
	9	施設における支援の実際～社会的養護にかかわる専門職～				
	10	施設養護における現場実践について（グループワーク）				
	11	家庭養護～里親、ファミリーホーム、養子縁組について～				
	12	家庭養護における実践について（グループワーク）				
	13	被措置児童等虐待の現状について～社会的養護の課題～				
	14	施設運営管理について～第三者評価、施設最低基準～				
	15	まとめ、振り返り				
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	専門職者を目指す者として自覚して受講すること。 授業内容に関する質問、疑問は積極的にしていただきたい。 テキスト、配布プリント等は授業前に準備し、定刻に授業が開始できるようにする。 配布プリントは一つにファイリングし、毎授業ごと持参する。					
テキスト	『演習・保育と社会的養護実践Ⅰ—社会的養護Ⅱ— 橋本好市・原田旬哉 編 （株）みらい 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい出版					
参考書	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚 編 萌文書林 その他、必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オフィスアワー】当該講義日の昼休み					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援の心理学 （20211-E2）		講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格選択	山本 邑太
授業の到達目標	1.生涯発達に関する心理学の基礎知識や発達課題等について理解する。 2.各発達時期の課題や移行を理解した上で、子どもの精神保健について理解する。 3.家族や家庭の意義や機能を理解した上で、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を身につける。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	人間の生涯発達に関する心理学の基礎知識の理解を深め、子どもや保護者、家庭と向き合う際に基本姿勢である カウンセリングマインドを活かした実践的な教育・保育等について具体例を踏まえて学習する。 また、今日の家族・家庭の意義や機能を考えながら、子育て家庭をめぐる現状と課題について解説する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	生涯発達とは何か					
	2	乳幼児期から学童期前期にかけての発達					
	3	学童期後期から青年期にかけての発達					
	4	成人期・老年期における発達					
	5	子育てを取り巻く社会的状況					
	6	家族・家庭の意義と機能～多様な家庭形態の理解～					
	7	親子・家族関係の理解と心理的視点					
	8	子育ての経験と親としての育ち					
	9	多様な家庭形態とその理解					
	10	特別な配慮を必要とする家庭					
	11	発達支援の必要な子どものいる家庭					
	12	子どもの精神保健（乳児期に見られる行動理解）					
	13	子どもの精神保健（幼児期に見られる行動理解）					
	14	学童期以降の精神保健(精神疾患の理解)					
	15	子どもの心の健康(子どもの生活環境や生育歴)とまとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート(20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）						
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、生涯発達や現代の家族や家庭について関心を持ち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。						
テキスト	『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』 青木紀久代 編 (株)みらい						
参考書	適宜紹介する。						
その他	【Wi-Fi7-】講義日のお昼休み。						



科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの食と栄養 (20310-E1)	講義	2	1年次 後期	選択	保育士資格必修	橋本 賢
授業の到達目標	1. 食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達との関連について理解を深める。 2. 保育における食育の基本と内容および実施環境を理解し、協働者との連携の重要性を理解する。 3. アレルギーを含む病児に対して栄養学的なアプローチをする能力を身につける。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	基礎的な栄養学をもとにライフステージ別の栄養代謝を把握し、食と栄養に関する現状および問題点を見出す。 調乳、離乳食および幼児食の提供を行う栄養士の業務を紹介し、連携をとれるような食育 計画を立案する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子どもの食生活の現状と課題、望まれる食生活について；子どもの健康な食生活				
	2	栄養と栄養素の働き；栄養学の学問について				
	3	三大熱要素（糖質・脂質・たんぱく質）の機能と役割；食育に必要な基礎栄養学				
	4	ビタミン、ミネラルの機能と役割；食育に必要な基礎栄養学				
	5	栄養素の消化と吸収；食育に必要な基礎栄養学				
	6	健全な児を育むための食と栄養について；妊娠授乳期の栄養				
	7	新生児期・乳児期の栄養について				
	8	母乳、育児乳とその調整方法、離乳食について；乳児期の食事（乳汁、離乳）				
	9	幼児期の食事の意義；幼児期の食事と栄養				
	10	保育所、幼稚園、学校給食と食育について				
	11	施設ごとの食育活動と協働職連携について；食育活動				
	12	食育授業を考える（食育計画の立案：グループ学習）				
	13	食育プレゼンテーション（プレゼンテーション）				
	14	アレルギー児に対する栄養				
	15	先天性疾病、障がい児、病児に対する栄養				
授業の評価	「試 験」：筆記試験（40％） 「平常点」：受講態度 （30％） 「その他」：レポート、発表 （30％）（食育プレゼンテーション）					
課題（レポート等） のフィードバック	学修内容によってレポートを課す。レポートの内容に不備があれば修正を含む再提出を求めることがある。 再提出の内容も含めて総合的に評価し、その他の評価点とする。 評価後のレポートはコメントを付して返却し、復習に活用できるようにする。 授業内容やレポート共通の質問は授業内で全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	日頃から栄養，食についての情報収集を心がけ，質問に対して十分に回答できるようにしておくこと。 個別の情報収集や学修内容を元に、グループで食育を考えてプレゼンテーションを課します。 多職種連携に携わる保育者としての積極性と協調性をもって取り組んでください。 10回以上の出席がないと、定期試験受験資格を失い、成績評価対象から除外されます。					
テキスト	プリント配布 『子どもの食と栄養』岡崎光子 編著 子どもの食と栄養 光生館					
参考書	『子どもの食と栄養 改訂第3版』 水野清子ら編著 診断と治療社					
その他	【Wi-Fi等】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育 (20650-E1)	講義	2	1年次 前期	選択	保育士資格必修	前田 廣恵
授業の到達目標	1. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協同及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	人格の基礎が形成される時期に、環境と体験の相互作用を通して、豊かな心情・意欲・態度を育てる保育者の具体的な関わりと、養護と教育について学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	乳児保育の意義と歴史				
	2	子どもと家庭を取り巻く現状と課題				
	3	0歳児の身体機能の発達と保育				
	4	1歳児の発育・発達を踏まえた保育				
	5	2歳児の発育・発達を踏まえた保育				
	6	3歳未満児の保育における配慮				
	7	自己肯定感を育む保育				
	8	自我の芽生えと自律を支える保育				
	9	対人関係の発達と保育				
	10	手指、身体機能の発達と保育				
	11	3歳未満児の発達にふさわしい教材（プレゼンテーション）				
	12	乳児保育における計画・記録・評価				
	13	乳児保育と保育士の専門性				
	14	あやし遊び、わらべうた遊び(グループワーク)				
	15	振り返りとまとめ				
授業の評価	「試験」：筆記試験（50％） 「平常点」：授業態度（20％） 「その他」：提出物（30％）					
課題（レポート等） のフィードバック	・提出されたレポートについては、個別または授業の中でコメントする。 ・授業内容に関する質問は個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：電車の中や買い物などで出会う乳幼児の観察をして記録したり、社会の情勢と乳児の置かれている状況に関心をもって新聞記事に目を通したりすること。 復習：テキストや配布プリントを通読し各回の授業の内容を理解しておくこと。					
事前・事後の学習に必要 な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	分からないことはその場で質問し、積極的に授業に参加すること。					
テキスト	『乳児の生活と保育』 松本園子編著 ななみ書房 『0.1.2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』 乳幼児の発達と保育研究会 著 郁洋舎 『保育所保育指針』 『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
参考書	授業の中で紹介する。					
その他	【OJIS7-】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会的養護Ⅱ (20511-E1)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格選択	山本 邑太
授業の到達目標	1. 社会的養護の基礎知識を深め、現状を把握する。 2. 児童養護の現場の実状を知り、具体的な支援の方法を学ぶ。 3. 保育所以外の児童福祉施設等での保育士の働きを知り、保育者として多様性のある実践力を身につける。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会的養護の具体的実践について理解し、事例をもとに保育者に求められる役割について考える。施設養護や家庭養護の実際、日常生活支援、治療的支援、自立支援等について学び、子どもの福祉にかかわる実践力を身につける。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み				
	2	社旗的養護を必要とする子どもの理解と権利				
	3	社会的養護にかかわる保育士の役割				
	4	保育士の倫理および責務				
	5	保育士の専門性				
	6	施設における支援の実際①～アドミッションケアについて～				
	7	施設における支援の実際②～インケアについて～				
	8	施設における支援の実際③～リービングケア・アフターケアについて～				
	9	社会的養護にかかわる相談支援①～家庭・家族への支援～				
	10	社会的養護にかかわる相談支援②～里親への支援・自立支援について～				
	11	記録および評価①～社会的養護実践における記録～				
	12	記録および評価②～社会的養護実践における評価～				
	13	記録および評価③～事例から学ぶ～				
	14	ケーススタディ～具体的なケースから学ぶ～（グループワーク）				
	15	まとめ ・振り返り				
授業の評価	「試 験」：筆記試験（60％） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20％） 「その他」：レポート等提出物（20％）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、子育て支援の現状や課題、実習先などで取り組まれている子育て支援について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。					
テキスト	『演習・保育と社会的養護実践』—社会的養護Ⅱ— 橋本好市・原田旬哉 編 （株）みらい					
参考書	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚 編 萌文書林 その他、必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オプショナル】当該講義日の昼休み					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅠA (20720-E1)		演習	1	1年次 前期	選択	保育士資格必修	松本 温子
授業の到達目標	1. 基礎的な音楽理論を理解し、活用する事が出来る。 2. 基本的な発声を身につけ、豊かな歌唱・弾き歌いが出来る。 3. 合唱を通して、声を合わせて表現する事を体験し、同時に、表現力、聴き合える耳を養う。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	「保育の上で、音楽（音楽理論の修得、歌う、演奏する、聴き合う、表現する）の担う力は非常に大きい」という事を理解し、その技術や知識を高め、保育者としての学びと心を深める。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	授業内容・基本理念／オリエンテーション（幼児音楽Ⅰにおける“自己目標”を掲げる）					
	2	歌唱姿勢・呼吸法／譜表・階名					
	3	発声法・譜表・音名／弾き歌い準備					
	4	音符・休符／弾き歌い					
	5	コードネーム／弾き歌い（“春のうた”を中心に）					
	6	拍子記号・変化記号／弾き歌い					
	7	調号／弾き歌い					
	8	合唱／全音・半音／弾き歌い					
	9	合唱／音階／弾き歌い（“夏のうた”を中心に）					
	10	音階／弾き歌い					
	11	音程／弾き歌い					
	12	プレゼンテーション：「“自己目標”に対するの評価、改善点、新たな目標など」 ／ 音程／ 弾き歌い					
	13	歌唱まとめ（独唱）／ 弾き歌い					
	14	弾き歌いまとめ（独奏）／音楽理論まとめ					
	15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：音楽理論筆記試験、実技試験（60%） 「平常点」：授業態度（30%） 「その他」：提出物など（10%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート、提出物等の課題は、押印やコメントなどを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：次回授業で使用する教材（プリント、「子どものうた100」）箇所をよく読み解き、概要を把握しておくこと。 復習：各回に覚えた授業内容をより深く理解するよう、教材（プリント、「子どものうた100」）を見直しておくこと。レポート提出を課することがある。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）						
履修上の注意	“幼児音楽Ⅰ”での主たる内容“音楽理論”に真剣に取り組み、学習し、理解すること。 歌唱、及び、弾き歌いの練習に十分励むこと。出席状況、授業態度を重視する。 意欲的な姿勢で授業に取り組み、教材などの準備物を忘れないこと。						
テキスト	『子どものうた100』 小林美実 監修 チャイルド本社 ・教材プリント配布(1年を通して使用)						
参考書	授業の際、必要に応じ、プリント配布						
その他	【フィードバック】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅠB (20721-E1)	演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格必修	松本 温子
授業の到達目標	1. 幼児音楽ⅠAでの学習の上に、さらに、基礎的な音楽理論の理解を深め活用する事が出来る。 2. 基本的な発声を身につけ、豊かな歌唱・弾き歌いが出来る。 3. 弾き歌いでは、表情豊かに歌いながら伴奏が出来る技術を習得する。 4. 器楽合奏を通して、楽器の扱いや奏法を習得し、音色を楽しみながら音楽表現を行う。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児音楽ⅠAで学習・習得した知識や経験を踏まえて、さらに、その技術や知識を高め、保育者としての学びと心を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	前期学習の復習と確認／幼児音楽ⅠBにおける“自己目標”を掲げる／弾き歌い				
	2	コードの転回形／弾き歌い（“秋のうた”を中心に）				
	3	ハ長調 音階・カデンツ／弾き歌い				
	4	ヘ長調 音階・カデンツ／弾き歌い				
	5	ト長調 音階・カデンツ／弾き歌い				
	6	各調 音階・カデンツ／弾き歌い				
	7	属7和音／弾き歌い（“冬のうた”を中心に）				
	8	属7和音・メジャーコード・マイナーコード／弾き歌い				
	9	移調／弾き歌い				
	10	伴奏付け（ハ長調）／器楽合奏・説明				
	11	伴奏付け（ヘ長調）／器楽合奏				
	12	プレゼンテーション：「“自己目標”に対するの評価、改善点、新たな目標など」 ／伴奏付け（ト長調）				
	13	反復記号・強弱記号／歌唱まとめ（独唱）				
	14	弾き歌いまとめ（独奏）／音楽理論まとめ				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」：実技試験、音楽理論筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度（30%） 「その他」：提出物など（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート、提出物等の課題は、押印やコメントなどを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：次回授業で使用する教材（プリント、「子どものうた100」）箇所をよく読み解き、概要を把握しておくこと。 復習：各回に覚えた授業内容をより深く理解するよう、教材（プリント、「子どものうた100」）を見直しておくこと。レポート提出を課することがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	“幼児音楽Ⅰ”での主たる内容“音楽理論”に真剣に取り組み、学習し、理解すること。 歌唱、及び、弾き歌いの練習に十分励むこと。出席状況、授業態度を重視する。 意欲的な姿勢で授業に取り組み、教材などの準備物を忘れないこと。					
テキスト	『子どものうた100』 小林美実 監修 チャイルド本社 ・音楽理論 教材プリント配布（1年を通して使用）					
参考書	授業の際、必要に応じ、プリント配布					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導 A (20821 - B1)		演習	1	1年次 後期	選択	保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員) 山本 邑太
授業の到達目標	1．保育所の内容や機能、保育士の仕事について理解する。 2．保育実習では保育理論と実践の統合を図り、保育を総合的に理解し、保育士としての専門性を具体的に学び、現場での体験を通して理解する。 3．保育実習 に向け自己課題を明確にする。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	保育者になるための基本的な知識を身につけ、実習の意義や実習施設について確認・理解をする。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	実習 について 実習の目的と意義					
	2	保育所実習について 保育所実習の目的と意義 ビデオ視聴 課題作成、実習日誌の書き方					
	3	保育実習の具体的内容 課題作成 保育実技・手遊び					
	4	保育実習事前指導 個人票作成					
	5	" 保育所生活1日の流れを把握する(乳児) 実習記録の書き方					
	6	" オリエンテーションについて					
	7	" デジタル実習記録の作成					
	8	" 保育所生活1日の流れを把握する(幼児) 実習記録の書き方					
	9	" 実習記録の書き方					
	10	" 実習日誌に書き方					
	11	" 実習先での立ち居振る舞いについて					
	12	" 実習要項確認、行き帰りの服装について					
	13	" 保育実習に臨むために(心構え、服装、身だしなみ、持ち物確認)					
	14	事後実習指導 実習先へのお礼状					
	15	まとめ 保育実習の反省と課題					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、提出物など(60%) 「その他」：実習評価、実習や実習日誌への取り組みなど(40%)						
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	保育実習にかかわる準備(教材作り等)を行うこと。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分) 事後学習(45分)						
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としての行動とマナー」を要求する。 履修登録をしていても、学外実習参加を認めない場合がある。 授業態度が不良である。 授業において課された課題を提出しない場合。 授業において出された指示・指導に従わない場合。 教員による会議で実習が認められないと判断された場合。 事前実習指導欠席2回以上の場合。 実習の評価と授業評価とを、総合的に評価する。						
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』生活技術教育研究会編 ななみ書房 『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』駒井美智子 萌文書林						
参考書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』守巧・小櫃智子 著 わかば社						
その他	【OIA77-】授業の前後						

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導 B (20822-E1)		演習	1	1年次後期 2年次前期	選択	保育士資格選択	山本 邑太
授業の到達目標	1. 福祉施設の内容や機能、また、保育士や施設教員の仕事について講義を通して学び、施設実習が円滑に実践できることを目指す。 2. 実習施設の一日の生活の流れや支援の内容を理解する。 3. 実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。						
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	意義と目的、概要、実習生に求められるものなど					
	2	福祉施設、利用者、職員の理解					
	3	DVD「施設実習の基本」					
	4	生活指導、学習指導、社会人としての常識					
	5	療育指導、自立支援					
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設					
	7	児童発達支援センター					
	8	障害者支援施設（入所更生、通所授産）					
	9	個人票作成、オリエンテーションについて					
	10	実習課題、事前確認事項					
	11	実習日誌の書き方					
	12	指導計画の書き方					
	13	実習中のケーススタディ					
	14	グループ討議、お礼状作成					
	15	実習の反省とまとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度、課題提出（40％）、レポート（10％） 「その他」：実習態度、実習評価など（50％）						
課題（レポート等）のフィードバック	レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	教科書、配布プリントを通読しておくこと 授業を欠席した場合、補講を行うので手続きをしにくること						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としてのマナー」を要求する。 事前指導の欠席が2回以上の場合 授業態度、出席状況が悪い場合 授業において課された課題を提出しない場合 教員による会議で実習が認められないと判断された場合 小テストの成績が著しく低い場合 実習を認めない。						
テキスト	『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房						
参考書	『保育所保育指針』 必要に応じ配布する						
その他	【オフィスアワー】						

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ概論 (20910-F1)	講義	2	1年次 後期	選択	情報処理士必修	津田 敏
授業の到達目標	1. パソコンの内部3大装置及び周辺装置である入力装置・出力装置について理解する。 2. ネットワーク、Wi-Fi、スマホ通信について理解する。 3. 関連機器やソフトウェアについて理解する。 4. AI&生成AIについて理解する。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	パソコンの基本的知識、ネットワーク、関連機器、生成AIについて学び情報処理について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	<PBL>PCの構成パーツや役割について				
	2	<PBL>PC故障の原因と対策について				
	3	<PBL>インターネットの仕組み、WiFiのスマホ使用とPC使用について				
	4	<PBL>アナログとデジタルの違い、デジタル表現について				
	5	<PBL>PCの5大装置及びHDD・SSDについて				
	6	<PBL>WindowsPCについて				
	7	<PBL>テレビと画質、解像度について				
	8	<PBL>プリンタについて				
	9	<PBL>ブロードバンドルータについて				
	10	<PBL>USBメモリについて				
	11	<PBL>カメラについて				
	12	<PBL>メモリカードについて				
	13	<PBL>スキャナについて				
	14	<PBL>5GとWiFi6について				
	15	<PBL>AIと生成AIについて				
授業の評価	「試 験」： 「平均点」：毎回の課題15回＝100% 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・課題について理解度をチェックし、理解不足について指摘し補う。 ・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：自主学習支援としてClassroomに授業内容のまとめを掲載しているので学んだ内容の理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135 分） 事後学習（ 135 分）					
履修上の注意	社会人が持つ情報処理の基礎知識として修得し、今後の社会で活かせるように取り組むこと。					
テキスト	『スマホ・パソコン活用基礎講座』 津田敏著 2021年					
参考書	『スピードマスター ITパスポート試験 テキスト&問題集 七訂版』著：ITパスポート試験教育研究会 2023年					
その他	【Wi-Fi等】授業の前後及びGoogle Classroom					



科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
WORD演習 (20920-H1)		演習	2	1年次 前期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1. IT基礎・活用講座で習得する基礎技能を基に、より実践的な文章作成技法の習得をする。 2. WORDを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力を身につける。 3. コミュニケーションとしての文書表現力の基本を身につける。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。						
授業の概要	実社会ではコミュニケーション手段の一つとしてドキュメントの果たす役割は重要である。 あらゆるビジネスシーンに応じて、的確で分かり易いドキュメント作成技法の演習をする。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	文書表現の概観： コミュニケーション手段としての役割、文書表現手法の概要					
	2	文書表現手法1： 情報をわかりやすく的確に伝えるための文書表現手法					
	3	文書表現手法2： ビジネス文書表現手法					
	4	文書作成とカスタマイズ： 作成および各種設定の役割と機能。文書内容の検索					
	5	文章の設定： 文字と段落の書式設定、文字列の操作、改ページ機能操作					
	6	ビジュアルコンテンツ操作1： 図の挿入、テキストボックスの利用					
	7	ビジュアルコンテンツ操作2： 図の挿入、書式設定、各種オブジェクトの利用					
	8	文書の整理： 文章の構成。表やリストによる内容整理。差込機能					
	9	書の校閲： 文書間の比較、変更履歴の管理、コメントの取扱					
	10	文書の共有と保護： 共有の概念、操作。文書セキュリティの管理					
	11	課題演習1： 必須重点事項、操作演習					
	12	課題演習2： ポイント、必須重点事項、操作演習					
	13	総合演習1： わかりやすい文章表現の工夫1 PBL<課題解決型学習>					
	14	総合演習2： わかりやすい文章表現の工夫2 PBL<課題解決型学習>					
	15	総合演習3： まとめ演習					
授業の評価	「試験」：筆記試験、実技試験（50%） 「平均点」：受講態度、小テスト（20%） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。						
テキスト	『繰り返して慣れる！完全マスター Word』 noa出版						
参考書	『Word 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム						
その他	【ワイズアワ-】授業の前後						

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
EXCEL演習 （20930-H1）		演習	2	1年次 後期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1．IT活用講座で習得した基礎技能を基に、より実践的な表計算技法の習得をする。 2．EXCELを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力を身につける。 3．数値データの表現力の基本技能を身につける。						
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。						
授業の概要	実数値情報を含む処理（データの視覚化・蓄積管理等）は実社会においても欠かせない手法である。 これらの基本概念を理解し、具体的操作方法を演習していく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	表計算機能による情報処理概観：数値情報の基本的な取扱い手法、視覚化・蓄積の重要性					
	2	データの作成と基本操作：オート機能、データの信頼性、ワークシートの管理					
	3	データ内容の書式設定：シートの書式設定、セルの取扱、テーブルの書式設定					
	4	数式の作成と編集 1：ページ書式、ヘッダー・フッター、ページ区切り					
	5	数式の作成と編集 2：条件付き数式でのデータ集計					
	6	数式の作成と編集 3：条件付き数式でのデータ検索、文字列操作					
	7	データの視覚化 1：各種グラフを使つてのデータの視覚化処理					
	8	データの視覚化 2：各種オブジェクトを使って総合的な視覚化処理					
	9	データの視覚化 3：各種関数を使って総合的な視覚化処理					
	10	データ共有とセキュリティ：ブックの管理、保護、共有、配布の各種機能					
	11	課題演習 1：必須重点事項、操作演習					
	12	課題演習 2：ポイント、必須重点事項、操作演習					
	13	総合演習 1：実社会における表計算処理 1 PBL＜課題解決型学習＞					
	14	総合演習 2：実社会における表計算処理 2 PBL＜課題解決型学習＞					
	15	総合演習3：まとめ演習					
授業の評価	「試 験」：筆記試験、実技試験（60％） 「平均点」：受講態度、小テスト（20％） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20％）						
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習 等の内容	・予習：毎回の演習に係る内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。						
テキスト	『繰り返して慣れる！完全マスター Excel』 noa出版						
参考書	『Excel 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム						
その他	【ワイアワ-】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理実習 （20970-H1）	実習	1	1年次 後期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. テキストエディタを使用してWebサイトを作成する能力を修得する。 2. Webサイトの作成をHTMLとCSSで学び、情報発信力を修得する。 3. Webサイトの作成に当たり、画像の編集や形式、パスについて学び、それらに伴う知識を修得する。					
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	情報発信作成の基礎を身につけ社会での情報発信の在り方について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	Webサイトを制作を始める前に				
	2	制作の準備と基本のHTML				
	3	リストとグループ化				
	4	ナビゲーションの設置				
	5	リンクと画像の挿入				
	6	リンクと画像の挿入				
	7	CSSの基礎				
	8	CSSの基礎				
	9	CSSの基礎				
	10	2ページ目以降とHTML編集				
	11	フォームの基礎知識				
	12	自作Webサイト制作				
	13	自作Webサイト制作				
	14	自作Webサイト制作				
	15	自作Webサイト制作 発表				
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：各回の理解度・作成度（60％）自作Webサイト作成（40％） 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	・ HTML＆CSSの使用タグは多くあるので基礎を修得するためのフォローする。 ・ Webサイト作成におけるHTMLやCSSについての質問に個別に回答する。 ・ HTMLは多々ある言語の一つで、他のWebサイトも同様にいくつかの言語で作成していることを認識する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：HTML、CSSについての用語等を調べ見ておくこと。 復習：HTML、CSSで作成した内容、ルールについて理解し対処できるようにすること。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	Webサイト作成の基礎について修得し、今後就職先で貢献するとの思いで取り組むこと。					
テキスト	『スラスラわかるHTML&CSSのきほん 第3版』狩野祐東著（SBクリエイティブ）2022年7月					
参考書	なし					
その他	【Wiisアワー】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
初級簿記A (21010-G1)	演習	2	1年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 簿記の用語や企業の取引の基礎・基本について理解する。 2. 企業の日々の取引の仕訳、帳簿の記帳記入方法を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・簿記は、日常生活の家計簿から、企業の経理、そして国家予算まで幅広く用いられていることを学ぶ。 ・ビジネスの万国共通言語と言われる、簿記の基本的なルールを学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	簿記の基礎 5要素				
	2	簿記の基礎 仕訳と転記				
	3	商品売買 仕入と売上、掛けや返品				
	4	商品売買 基本問題				
	5	現金預金 現金、普通預金、当座預金と小切手				
	6	現金預金 小口現金				
	7	現金預金 基本問題				
	8	手形と電子記録債権・債務				
	9	手形と電子記録債権・債務基本問題				
	10	有形固定資産、未収入金・未払金				
	11	貸付金・借入金、手形貸付・借入、前払・前受				
	12	仮払金・仮受金、立替金・預り金				
	13	受取商品券、差入保証金、支受取商品券、差入保証金、支払家賃、その他				
	14	基本問題				
15	基本問題					
授業の評価	「試験」：定期試験（60％） 「平常点」：小テスト（40％） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・予習：テキストの該当箇所を通読しておく。 ・復習：新しい用語や仕訳等は、使えるようにしておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	・会計特有の専門用語の意味を理解することに努める。					
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書 第11版』：滝澤ななみ著 TAC出版 2023年2月					
参考書						
その他	【Wi-Fiあり】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
初級簿記B (21011-H2)	演習	2	1年次 後期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1.仕訳の理解を深め、伝票と日計表の作成、試算表の作成を学ぶ。 2.試算表から損益計算書・貸借対照表をまとめた精算表を作成する力をつける。					
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・初級簿記Aに連続するもので、簿記についてさらに理解を深める。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	仕訳帳&総勘定元帳、現金&当座預金出納帳、小口現金出納帳				
	2	仕入帳&売上帳、受取・支払手形記入帳、売掛金・買掛金元帳、商品有高帳				
	3	仕訳帳&総勘定元帳、現金&当座預金出納帳、小口現金出納帳 基本問題				
	4	仕入帳&売上帳、受取・支払手形記入帳、売掛金・買掛金元帳、商品有高帳 基本問題				
	5	試算表				
	6	試算表 合計試算表 基本問題				
	7	試算表 残高試算表 基本問題				
	8	入金・出金・振替伝票、仕訳日計表				
	9	入金・出金・振替伝票、仕訳日計表 基本問題				
	10	精算表、現金過不足、貯蔵品勘定				
	11	精算表、貸倒引当金、減価償却、売上原価				
	12	精算表、消費税、未払・未収、前払・前受、法人税				
	13	精算表、消費税、未払・未収、前払・前受、法人税 基本問題				
	14	精算表作成				
	15	精算表作成 基本問題				
授業の評価	「試験」：定期試験（60％） 「平常点」：小テスト（40％） 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	・予習：次回の内容を読み、疑問点があれば書き出す。 ・復習：新しい勘定科目等の意味を理解するようにする。					
事前・事後の学習に必要な 時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	・会計の特殊な用語、勘定科目があるので、意味を理解するように心掛ける。					
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書 第11版』：滝澤ななみ著 TAC出版 2023年2月					
参考書						
その他	【Oイスア-】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動A (10120-A12)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	井口 佳江 橋崎 良治
授業の到達目標	1. キリスト教的人生観、世界観、倫理観を理解して自己の人間形成に役立てる。 2. 愛と奉仕の精神を身につける。 3. チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通して建学の精神を理解する。					
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	チャペルアワーやキリスト教関連行事の参加を通じて、キリスト教精神、建学の精神についての学びを深める。					
授業計画	授業内容					
	○チャペルアワーは讃美歌を歌い、聖書を読み、メッセージを聴き、お祈りをするという通常の礼拝形式で行う。					
	毎週のチャペルアワーに参加する。					
	チャペルアワーの中心は聖書に学ぶことに置かれている。講師から聖書の話をしき、讃美歌を歌い、祈りを通して、キリスト教の知識を深め、キリスト教の雰囲気になれる機会とする。					
	具体的にはメッセージ（説教）を通じて聖書の言葉の意味を考え、平和や、人権問題、貧困などの現代の課題等についても考える機会を持てるようにする。					
	○その他のキリスト教関連行事に参加する。					
	クリスマス点灯式・・・イエスキリストの降誕にあたり、その真の意味を学ぶ。					
	クリスマス礼拝・・・イエスキリストの降誕を祝う。					
	卒業礼拝・・・・・・本学における教育の締めくくりとして卒業式前日に行い、社会に出ていく卒業生への祝福と励みのおこなう。					
	卒業式・・・・・・卒業式に参加することを通じて、建学の精神について理解を深める。					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：チャペルや宗教活動への取り組み状況。（50%） 「その他」：感想文・報告書（毎回提出）（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	・チャペルアワー開始まで讃美歌を練習したり、当日の聖書を読んで理解しておく。 ・神を讃美し、感謝と喜びの中でキリスト教行事に出席するよう配慮する。 ・チャペルを通して心に残った聖書箇所やメッセージについて記入する。 ・近くにある教会に行ってみる。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	活動の参加にあたっては、私語を慎みおごそかな思いで臨むこと。					
テキスト	新共同訳聖書（日本聖書協会） 讃美歌21（日本基督教団出版局）					
参考書						
その他	【オフィスアワー】各活動の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
特別活動B (10210-A12)	演習	1	1年次通年 2年次通年	必修	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	講演会やセミナーを通して、幼児教育に関する専門性を高め、また、多様な視点を身につける。					
学位授与の方針との関連	社会人として必要な視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	通常の教科学習だけでは獲得することのできない社会人としての素養を自治会活動や講演会等の様々な活動を通して培うことを目指す。					
授業計画	授業内容					
	・2年間で32時間の学内活動に参画したうえで、参画時の積極性、行動を評価する。					
	<1年次>					
	1 入学式	3時間				
	2 新入生歓迎会	2時間				
	3 大学祭	5時間				
	4 大学祭準備	2時間				
	5 幼児教育講演会	2時間				
	6 卒業式	2時間				
	1年次合計	16時間				
	<2年次>					
	1 入学式	3時間				
	2 新入生歓迎会	2時間				
	3 大学祭	5時間				
	4 大学祭準備	2時間				
	5 幼児教育講演会	2時間				
	6 卒業式	2時間				
	2年次合計	16時間				
	総合計	32時間				
	授業の評価	「試 験」： 「平常点」：「積極性」、「問題意識」、「協調性」、「コミュニケーション力」等を評価する。 「その他」：学内活動の事前事後にレポート（活動報告書）を課す場合がある。				
課題（レポート等） のフィードバック	「試 験」：（ ）％ 「平常点」：活動への取り組み状況（50％） 「その他」：活動報告書（50％）					
事前・事後の学習 等の内容	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	活動には積極的に取りくむこと。					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスアワー】各活動の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
日本語表現Ⅱ (10311-FH2)		演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択 情報処理士選択	井口 佳江
授業の到達目標	1. 日本語表現を幅広く深く理解する。 2. 保育者、そして社会人としての人間力を身につける。 3. 自己表現する力を獲得する。 4. 論文作成や文献検索等に使用できるICT能力を身につける。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	1. 学びを通してコミュニケーション能力やプレゼンテーション力を高める。 2. 関心を持つテーマを取り上げ、論文としてまとめる。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション					
	2	教育時事問題に関する口頭発表と討議①					
	3	教育時事問題に関する口頭発表と討議②					
	4	教育時事問題に関する口頭発表と討議③					
	5	卒業論文作成についての説明					
	6	卒業論文の題材・骨子の作成（担当者からの助言）					
	7	ICTを使用した文献検索について					
	8	論文作成の形式についての説明					
	9	卒業論文の原稿作成①（担当者からの助言）					
	10	卒業論文の原稿作成②（担当者からの助言）					
	11	卒業論文の原稿作成③（担当者からの助言）					
	12	卒業論文の仕上げ（最終点検）					
	13	卒業論文のまとめ（卒業論文報告会の準備）					
	14	卒業論文報告会①					
	15	卒業論文報告会②					
授業の評価	「試 験」：卒業論文の提出（60％） 「平常点」：授業態度（20％） 「その他」：提出物（20％）						
課題（レポート等）のフィードバック	・卒業論文の原稿を添削し返却、そして、修正後に再提出する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：論文作成にあたり、取り上げるテーマの資料の収集を行う。 復習：授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）						
履修上の注意	本科目は卒業論文の作成を最終目的の一つとしているので、自主的、自発的に取り組むこと。						
テキスト	福嶋健伸・橋本 修・安部朋世 編『大学生のための 日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂「日本語表現Ⅰ」と同じ教科書 継続使用						
参考書	田上貞一郎（2023）『就職に役立つ日本語表現』萌文書林						
その他	【オフィスアワー】 随時						



科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅡ（保育） （10511-FH2）		講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. 保育についての理解を深め、保育者としての豊かな資質能力を醸成する。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリア能力で進路選択ができる力を育成し、より良い保育者としての自立を促す。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」					
	2	社会人として生きる意味について					
	3	保育の現状と課題					
	4	雇用情勢と経済					
	5	自分を知る「自己認知と適性」					
	6	就職先を考えてみよう「園調べ等」					
	7	就職活動①「自己PRシートを書こう」					
	8	就職活動②「履歴書を書こう①」					
	9	就職活動③「履歴書を書こう②」					
	10	就職活動④「面接練習（所作等について）」：グループワーク					
	11	就職活動⑤「面接練習（効果的なアピール法について）」：グループワーク					
	12	就職活動⑥「言葉遣いと電話対応について」：グループワーク					
	13	就職活動⑦「求人票の見方、園選びについて、見学依頼の仕方」					
	14	知っておこう！働くときのルールと権利					
	15	学習の振り返りと就職内定までの道のり再確認					
授業の評価	「試験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、意欲など（20%） 「その他」：講義ノート・提出物（20%）						
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。						
事前・事後の学習等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。						
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。						
参考書	実践キャリア考（実教出版）						
その他	【オフィスアワー】随時						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キャリアデザインⅡ（ライフ） （10511-FH2）		講義	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 将来の生き方や働き方について考え、自分自身で進路選択できる力を身につける。 2. キャリア形成のための意欲、関心、態度、能力を獲得する。 3. ライフキャリアからワークキャリアへの見通しが持てる力を育む。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	一人ひとりが自分の生き方や働き方について考え、身につけた自身のキャリ能力で進路選択ができる力を育成する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション「キャリアデザインの意味と意義の理解と講義計画等を知る」					
	2	社会人として生きるために①「働く意味」					
	3	社会人として生きるために②「自己理解」					
	4	社会人として生きるために③「進路理解」					
	5	雇用情勢と経済					
	6	就職活動①「エントリーシートを書こう」					
	7	就活活動②「履歴書を書こう①」					
	8	就職活動③「履歴書を書こう②」					
	9	就職活動④「面接練習」：グループワーク					
	10	就職活動⑤「ハローワークの活用方法」					
	11	就職活動⑥「自己適性と職種の決定」					
	12	社会人として活躍するために①「接遇・マナー等」					
	13	社会人として活躍するために②「電話のかけ方・言葉遣い等」：グループワーク					
	14	社会人になるあなたに「環境の変化への対応について」					
	15	学習の振り返りとまとめ					
授業の評価	「試 験」：筆記試験（60％） 「平常点」：授業態度、意欲など（20％） 「その他」：講義ノート・提出物（20％）						
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の講義時のレポート等の提出物を講義者がコメントを付して次回に返却するので講義ノートや資料とともに授業内容をまとめ振り返りをする。						
事前・事後の学習等の内容	予習：配布した資料や講義ノートを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：返却したレポート等に再度目を通し、理解を深めること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）						
履修上の注意	講義中は私語を慎み、講義ノートにメモを取り学習に励むこと。授業中の許可のないスマホ使用は厳禁。						
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。						
参考書	実践キャリア考（実教出版）						
その他	【オフィスアワー】随時						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
インターンシップⅠ (10520-GF2)		実習	2	2年次 前期	選択	情報処理士必修	井口 佳江 佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 自己分析と働く意義を理解する。 2. 就業体験を通じて職業能力と自己の現在の能力について理解する。 3. 就職体験から学び得たことをまとめ分析ができる能力を身につける。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	インターンシップの目的や意義、課題を理解認識し、就業体験に臨み、現在の自己能力について考え、今後の学び方について考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	インターンシップを考える①就きたい仕事の具体化と働く意義					
	2	インターンシップを考える②インターンシップの目的と課題					
	3	インターンシップを考える③インターンシップ先の企業研究					
	4	インターンシップの実践 臨地就業体験					
	5	〃					
	6	〃					
	7	〃					
	8	〃					
	9	〃					
	10	〃					
	11	〃					
	12	〃					
	13	〃					
	14	〃					
	15	インターンシップ体験発表 体験発表と今後についての意見交換					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」： 「その他」： 授業意見発表30点、インターンシップ先評価70点 計100点						
課題（レポート等）のフィードバック	各テーマについての考えがまとまるようにアドバイスをする。						
事前・事後の学習等の内容	予習：各テーマの内容について考え授業に臨むこと。 復習：授業で考えまとめたことの修正、不足を補いながら再度考えること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	社会人に求められる能力にコミュニケーション能力や課題発見・解決能力がある。 問題や気づいたことについて考え調べ分析解決が出来る力が身につくように授業に臨むこと。						
テキスト	指定なし						
参考書	『インターンシップ』 マイナビ 2020年度版						
その他	【オフィスワーカー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
インターンシップⅡ (10521-FH2)		実習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 自己分析と働く意義を理解する。 2. 就業体験を通じて職業能力と自己の現在の能力について理解する。 3. 就職体験から学び得たことをまとめ分析ができる能力を身につける。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	インターンシップの目的や意義、課題を理解認識し、就業体験に臨み、現在の自己能力について考え、今後の学び方について考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	インターンシップを考える①就きたい仕事の具体化と働く意義					
	2	インターンシップを考える②インターンシップの目的と課題					
	3	インターンシップを考える③インターンシップ先の企業研究					
	4	インターンシップの実践 臨地就業体験					
	5	〃					
	6	〃					
	7	〃					
	8	〃					
	9	〃					
	10	〃					
	11	〃					
	12	〃					
	13	〃					
	14	〃					
	15	インターンシップ体験発表 体験発表と今後についての意見交換					
授業の評価	「試 験」： 「平均点」： 「その他」：授業意見発表30点、インターンシップ先評価70点 計100点						
課題（レポート等）のフィードバック	各テーマについての考えがまとまるようにアドバイスをする。						
事前・事後の学習等の内容	予習：各テーマの内容について考え授業に臨むこと。 復習：授業で考えまとめたことの修正、不足を補いながら再度考えること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	社会人に求められる能力にコミュニケーション能力や課題発見・解決能力がある。 問題や気づいたことについて考え調べ分析解決が出来る力が身につくように授業に臨むこと。						
テキスト	指定なし						
参考書	『インターンシップ』 マイナビ 2020年度版						
その他	【オフィスワーカー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
キリスト教保育 (10111-F2)		講義	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	坂牛 裕
授業の到達目標	1. キリスト教の「愛し愛される人間」になる考え方、知識、方法を知る 2. その上で実践を行い、身に着ける 3. 愛を前提としたキリスト教保育の具体的保育実践方法を学ぶ						
学位授与の方針との関連	キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。						
授業の概要	キリスト教の「愛し愛される人間」になるため、知識、方法を知り、ボードゲームを活用して擬似実践を行っていき、生きた知識としていく。 また、キリスト教保育の具体的方法、考え方を詳しく解説する。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション・アンケート なぜキリスト教保育なのか					
	2	タラントン 私たちの価値 私も子どもも大切なもの				実践ボードゲーム①	
	3	自分の印象作り 優しい子の育て方 ステレオタイプの脅威				実践ボードゲーム②	
	4	世の中の不条理、理不尽の捉え方 苦労の捉え方、考え方				実践ボードゲーム③	
	5	キリスト教保育実践理論 欲求代替法 信頼関係の構築と能力の引き出し				実践ボードゲーム④	
	6	キリスト教保育実践理論 子どもの伸ばし方 ヴィゴツキー最近接領域				実践ボードゲーム⑤	
	7	キリスト教保育実践理論 愛と無関心 コップの水				実践ボードゲーム⑥	
	8	キリスト教保育実践理論 お祈りの意味 効果 道具と玩具の選定				実践ボードゲーム⑦	
	9	キリスト教保育実践理論 しつけ① 保育者の振る舞いと動作 見る学問				実践ボードゲーム⑧	
	10	キリスト教保育実践理論 しつけ② ショウウィンドウ症候群				実践ボードゲーム⑨	
	11	キリスト教保育実践理論 しつけ③ エリクソン 第1・2段階				実践ボードゲーム⑩	
	12	キリスト教保育実践理論 言葉は添えるもの 音環境への配慮				実践ボードゲーム⑪	
	13	キリスト教保育実践理論 動作分析の仕方 ブレインストーミング・KJ法				実践ボードゲーム⑫	
	14	キリスト教保育実践理論 勝敗の理解				実践ボードゲーム⑬	
	15	予備日 まとめ 振り返り				実践ボードゲーム⑭	
授業の評価	「試験」：レポートの提出（10％） 「平常点」：出席、授業態度、授業への参加意欲を評価する（90％） 「その他」：なし						
課題（レポート等）のフィードバック	上記、「平常点」（レポート）及び「その他」をそれぞれ3段階評価（A・B・C）。 レポートはテーマに対する理解度のチェックを行った上、返却していく。 必要に応じて個別の回答を行い、理解を深める方法とする。						
事前・事後の学習等の内容	返却するレポートの積み重ねをノートとして扱う。 準備学習は、図書館の活用を奨めるため、随時、参考文献を紹介する。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）						
履修上の注意	座席は担当者が指定する席とする。指定席は必要に応じて変更することがある。 私語等、授業の阻害となる場合には平常点を与えない。 授業態度・参加意欲を重視する。 授業計画に沿って授業を行うが、必要に応じて前後することがある。						
テキスト	テキストは使用せず、毎回、テーマに添ったプリントを配布し、それをテキストとする						
参考書	「聖書」（新共同訳 日本聖書協会）						
その他	【オフィスワー】 授業の前後を積極的に活用してほしい。体験として聖パウロこども園の見学を奨励する。						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
生活経済 (10230-FH2)		講義	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 社会人としての経済観念を身につける。 2. 正規・非正規雇用の違い、基本的な税について理解する。 3. 家庭生活で必要な費用・経費、自動車・住宅ローン購入について理解し表計算ソフトで算出ができるようにする。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を習得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	労働者の所得や税、生活費等についての理解を深め、社会人としての生活の在り方を考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	初任給はどれくらいか（学歴差・性差・地域差・職歴差等から考える）					
	2	生活最低必要経費はどれくらい必要か					
	3	贅沢品等購入費はどれくらい使うか					
	4	自動車の購入費用や維持費はどのくらい掛かるか					
	5	住宅の購入（ローン購入）はどのくらい掛かるか					
	6	家を維持するためにはどのくらい掛かるか					
	7	税金にはどのような種類があるか					
	8	年間に納める税金はどのくらいか					
	9	子育てに掛かる費用（出産から卒業まで）はどのくらいか					
	10	定年後の生活費はどれくらいか					
	11	正規雇用と不正規雇用の違いは					
	12	正規雇用と不正規雇用の所得差はどれくらいか					
	13	家計簿を作る①					
	14	家計簿を作る②					
	15	生活経済で学んだ総まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平均点」：各テーマレポート5点×15コマ（75％）、取組・理解・まとめ（25％） 「その他」：						
課題（レポート等）のフィードバック	・感想文についてはコメントを付して返却する。						
事前・事後の学習等の内容	事前：・自主学習支援としてGoogle Classroomに授業で使用する資料等を掲載するので学ぶ（学んだ）内容の理解を深める。 ・日頃から金銭感覚を持った生活を心掛けること。 事後：授業でまとめたものを見返し、今後の生活に生かせる工夫をする。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	社会人に求められる能力に経済観念がある。経済観念を持った考えや行動が身につくように臨むこと。						
テキスト	指定なし						
参考書	『くらしとお金のワークブック』日本FP協会						
その他	【オフィスワーカー】授業の前後及びGoogle Classroom						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
ボランティア活動 (10250-F12)	実習	1	1年次通期 2年次通期	選択	保育士資格選択	谷本 章三
授業の到達目標	1. 自己の人間性や専門性を見つめ、人のために何ができるかの気づき実践できる力を高める。 2. 「感じ」「考え」「行動できる」力を豊かに育み、与えるものより与えられるものの大きさを感じられるようになる。 3. ボランティア活動を通して、人として社会人として自己の人生を豊かなものにしていく。					
学位授与の方針との関連	・キリスト教精神に基づく倫理観や愛と奉仕の精神を身につけている。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	自発的な意思により、人や社会と関わることを通して自己の再発見や自己実現の中で社会貢献をしていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション「ボランティアの基本原理と年間計画等について」（講義）				
	2	基本原理・自主性・主体性に基づく活動				
	3	・社会性、連帯性のある活動				
	4	・無償性、無給性に基づく活動				
	5	・創造性・開拓性・先駆性のある活動				
	6	自己のボランティア活動スタイルの確認（何時・何处で・どれくらいの頻度で参加できるか）				
	7	・自己の特技や能力の活用				
	8	・何处（場所）に参加したいか				
	9	ボランティア活動の心構えと自己評価				
	10	・守秘義務の確認      ・自己の行動、言動には責任を持つ				
	11	・PDCAサイクルの実践を心掛ける      ・相手や仲間の立場、考え方を尊重する				
	12	・一人で抱え込むのではなく、みんなで仕事を分担する				
	13	・常に自分の行動を振り返りながら、生き生きと楽しんで活動する				
	14	レポート提出（活動記録用紙、確認表をもとに）※所定の用紙に事業所から確認印をもらう				
15	まとめ（所定の用紙に活動の振り返りを記入し、担当者に提出する）					
授業の評価	「平常点」：ボランティア活動の活動時間、意欲、態度等   （70%） 「その他」：提出物   （30%）					
課題（レポート等）のフィードバック	各自が実施したボランティアの内容の活動記録用紙を担当者がチェックの上、アドバイスを行うので、それをもとに常に自己評価し、次の活動に生かすこと。					
事前・事後の学習等の内容	予習：ボランティア活動先の業務内容を事前に把握し、活動内容や活動場所を確認しておく。 また、実習先から喜んでもらえるようにするには何をすべきか常に考えておく。 復習：自分の実習先での行動を振り返り、反省点を次回に生かす。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意	原則、各自がボランティア活動場所を開拓し自ら参加し活動を行うこと。担当者から活動場所を紹介することもある。実習時間は、合計40時間以上で単位認定を行う。（単位認定は、卒業年度の後期に行う）2年間（長期履修者は3年間）の在学中に活動参加をすること。					
テキスト	講義ごとに資料を配布する。					
参考書	自治体等の発行するボランティア通信等					
その他	【オフィスワーカー】随時					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「表現Ⅱ」 (20621-B2)	演習	1	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	高磯八千代
授業の到達目標	1. 教育現場での表現教育の目的と意義を理解する。 2. 幼児の表現を引き出す技術を獲得する。 3. 乳幼児の表現教育の指導法考案の手順を身につける。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	表現Ⅰで得た知識を基に、幼児の自発的な表現の誘い出しをするために、自らの感性を高める。 実際にいろいろな道具を使って、遊びを体験し、そこから想像力、表現力を養う。 いろいろな曲を覚えることにより、こどもへの多様な対応が出来るようにする。 いろいろな幼児の反応を予測し、幼児への助言の在り方なども考察する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼稚園教育要領より、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などを再確認する。				
	2	身体遊び 動物、物の名、何をしている動作なのかを、言葉を使わずに表現し当てる。〈グループ〉				
	3	身体遊び スカーフ、輪投げの輪、三角コーンなど道具を使い表現する。〈グループ〉				
	4	音楽遊び 音楽表現活動の意義について。呼吸とビート テンポと強弱 拍子とリズム				
	5	音楽遊び ～2歳までの発達と手遊び・歌遊び				
	6	音楽遊び 3～4歳の発達と手遊び・歌遊び				
	7	音楽遊び 5～6歳の発達と手遊び・歌遊び				
	8	音楽遊び マーチ・ラン・スキップの曲を簡単に。「おかたづけ」「すわりましょう」の作詞作曲				
	9	音楽遊び 聴く活動について 意義とねらい 実践				
	10	音楽遊び 歌う活動について 意義とねらい 実践				
	11	音楽遊び 奏でる活動について 意義とねらい 実践 手作り楽器 音楽に合わせて演奏				
	12	音楽遊び 動く活動について 意義とねらい 実践 音のイメージ 効果音				
	13	音楽遊び 「こどものうた100」「リズム曲集」より選曲し、ダンスの振り付けをする。				
	14	総合遊び 新聞紙を使って洋服を作り、音楽に合わせてファッションショーをする（グループ）				
	15	総合遊び ペープサート 「子どものうた」から物語を作って演じる。効果音も入れてみる。（グループ）				
授業の評価	「試 験」：筆記試験またはレポート試験（40％） 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度)、発表など（40％） 「その他」：提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど）（20％）					
課題（レポート等） のフィードバック	・授業の最後に提出された感想に回答し、次回の授業の際に返却する。					
事前・事後の学習 等の内容	・配布されたプリントは、毎回持参し、確認すること。筆記試験はプリントより出題される。 ・授業で覚えた「手遊び・うた遊び」などは、復習し、自分で使えるようにする。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	・ノート、配布したプリントは必ず持参すること。 ・身体を動かすことが多いので、動きやすい服装、靴で来ること。 ・授業の最後に感想・意見を書いて提出すること。 ・教室が替わる場合があるので、注意すること。 ・準備するものがある場合は忘れない。 ・グループワークは積極的に参加する。					
テキスト	「新・保育と表現」石上浩美編著 発行所嵯峨野書院					
参考書	アクティブラーニングを取り入れた「子どもの発達と音楽表現」村上玲子ほか編著					
その他	【オプショナル】授業の前後					



科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践演習 (20630-B2)		演習	2	2年次 後期	選択	幼免必修 保育士資格必修	金谷 公子
授業の到達目標	1. 保育者の役割と子どもの見方、捉え方について理解する。 2. 子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導ができる知識を身につける。 3. 保育内容の知識や技能等を獲得する。						
学位授与の方針 との関連	・保育に関する専門的知識・技術を修得している。 ・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。						
授業の概要	変化する社会の中で、求められる保育者としての理解を深め、子どもや保護者に対する援助の技術方法等についての実践力を学ぶ。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	保育実践演習についての概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。					
	2	保育者とは、専門職としての保育者の仕事とは、保育者の役割、子どもに対する責務について理解する。					
	3	保育を巡る社会的状況について理解する。					
	4	保育者の専門性、保育実践力を構成する要素について考える。					
	5	保育における環境の意義と物的環境について理解し環境の構成について考える。					
	6	子どもの遊びの意義と重要性を理解し事例を通して考える。					
	7	発達段階に応じた教材研究・作成をする。（ペープサート制作・教材作り）					
	8	発達段階に応じた教材研究・作成をする。（ペープサート制作・教材作り）					
	9	子どもの反応を見ながら作成した教材を使用し保育を展開する。（ペープサートの発表）					
	10	子どもの反応を見ながら作成した教材を使用し保育を展開する。（ペープサートの発表）					
	11	保育実践を想定して保育環境の構成・遊びの展開について考える。（グループワーク・発表）					
	12	教育・保育目標を達成する」ためのPDCAサイクルの循環について理解する。					
	13	特別に支援が必要な子どもについて個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解する。					
	14	特別に支援が必要な子どもへの対応について事例を通して考える。（グループワーク・発表）					
	15	授業の振り返りと理解度を再確認し、保育に関する新たな課題に関心を持ち自分なりに理解する。					
授業の評価	「試 験」：課題レポート提出 （30%） 「平常点」：授業態度・授業内レポート提出 （30%） 「その他」：実技（ペープサート制作）・発表 （40%）						
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内レポートなどの提出はコメントを付して返却する。返却後要点の解説を行い知識の定着を図る。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・グループの討議については、発表の授業を実施します。 ・主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。						
事前・事後の学習 等の内容	予習：プリント、ノートをよく通読し授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：配布プリントを通読し、授業内容について理解を深めておくこと。 授業後に復習を求め。その際レポートを課すことがある。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・課題については、定められた期間で取り組み提出すること。 ・ペープサート制作については、事前に内容、教材等を研究をし、材料を準備しておくこと。 ・毎回授業内で配布するプリント、資料などについては活用することがあるため毎回持参すること。						
テキスト	・プリント・資料などを配布						
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『認定こども園教育・保育要領解説』 『保育・教職実践演習（第2版）「保者に求められる保育実践力」』小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子 編著 建帛社						
その他	【オフィスアワー】 ・授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽Ⅱ (20711-C1)	演習	1	2年次 前期	選択	幼児選択	池田京子・藤井直子
授業の到達目標	1. 楽曲の読譜方略や効果的な練習に関する様々な方法を知り、自分なりに活用することができる。 2. 楽曲に応じて、速いテンポや複雑な動きに対応したり表現を工夫したりすることができる。 3. 子どもの表現活動に対応可能なピアノ実技能力を獲得する。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育・教育現場で子どもの表現活動の一助となるピアノ演奏について、短期間で楽曲を仕上げ、子どものあそびに関わるようにするためには、①どのように楽譜を捉えれば演奏できるのか、②どのように練習すれば効果的なのか、③どのように演奏すれば子どもの表現を引き出せるのか、といった視点から学習する。グレード別課題曲、こどものうた、リズム表現曲を通して学習する。 授業は、個々の楽曲演奏を通して学習する実習形式で実施する。また、譜読みに関する課題等を課すことがある。					
授業計画		授業内容				
	回数	グレード別課題（例）			こどものうた・リズム表現曲・讃美曲等	
	1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン				
	2	八分音符の練習			リズム表現曲「かけあし」	
	3	3/4拍子、6/8拍子の練習			リズム表現曲「うさぎとかめ」	
	4	付点のリズムの練習			こどものうた「かたつむり」	
	5	音階の練習			こどものうた「はをみがきましょう」	
	6	ト長調の楽曲			こどものうた「とけいのうた」	
	7	ニ長調の楽曲			こどものうた「おはようのうた」	
	8	イ長調の楽曲			こどものうた「おかえりのうた」	
	9	ホ長調の楽曲			こどものうた「とんぼのめがね」	
	10	実 習 課 題				
	11	実 習 課 題				
	12	保続音を含む楽曲			こどものうた「しゃぼんだま」	
	13	オクターブ以上の跳躍・腕の交差の練習			讃美歌「主我れを愛す」	
	14	前打音による装飾音の練習			讃美歌「いつくしみ深い」	
	15	就 職 試 験 課 題				
授業の評価	「試 験」： 実技試験（ 50 %） 「平常点」： 授業態度、演奏マナー（ 20 %） 「その他」： 提出課題 楽曲練習への取り組み姿勢（ 30 %）					
課題（レポート等）のフィードバック	個別の課題に関する質問については、授業時間中に全体又は個別に回答する。 Google Classroom, LINE等, SNSを活用することがある。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業時に与えられた課題楽曲に取り組み、自分なりの疑問点を明確にすること。 また、プリント等の課題がある場合は、併せて取り組むこと。 復習：授業で指摘されたことを思い出しながら、さらに工夫して練習し、よりよい演奏を目指すこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意	・日頃から体調を整え、欠席しないこと。 ・楽譜（教科書）を忘れないこと。 ・爪は短く切ること。ネイルや指輪、ブレスレット、アームカバー等の着用は認めない。 ・ピアノや椅子を大切に、丁寧に扱うこと。また、ピアノの上に飲食物を置かないこと。 ・授業時間をピアノ実技のための学習時間として有効に活用すること。 ・実習や就職試験でピアノ実技に関する課題がある場合は、速やかに担当教員に相談すること。					
テキスト	バイエルピアノ教職本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ巻、その他 こどものうた100 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社 保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集 茂田すすむ編著 全音楽譜出版社					
参考書	必要に応じて紹介する。					
その他	【オプショナル】 授業の前後又はGoogle Classroom, LINE等で対応する。詳細は担当教員の指示に従って下さい。 問合せ：k.ikedahimeji-hc.ac.jp 池田京子					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅡA (20712-C2)	演習	1	2年次 前期	選択	幼免必修	福田 真梨奈
授業の到達目標	1. やや複雑なリズムや音階を含んだ楽曲をスムーズに演奏できる。 2. ヘ音譜表に難なく対応できる。 3. 少し速いテンポのリズムや付点のリズムを演奏できる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	・ 個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。 ・ 進度別グレード課題などで、やや複雑なリズムや音階を扱い、ピアノ演奏基礎技術を習得する。 ・ こどものうたやリズム表現等の楽曲による演習を重ね、読譜力や表現力の向上を目指す。 ・ 原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲などの2種類以上の課題を実践、実習する。 ・ 適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)					
授業計画	回数	授業内容				
	1	進度別課題① 音階の練習			5月頃～7月頃のうた、又は付点のリズムの楽曲、他	
	2	進度別課題② バイエル 8 3 番			〃	
	3	進度別課題③ ヘ長調の楽曲			〃	
	4	進度別課題④ バイエル 8 5 番			〃	
	5	進度別課題⑤ 様々な連符の練習			少し速いテンポのリズム表現実習:かけあし	
	6	進度別課題⑥ バイエル 8 6 番			〃	
	7	進度別課題⑦ アーフタクトの練習			保育・教育実習に役立つ課題	
	8	進度別課題⑧ バイエル 8 9 番、9 0 番			〃	
	9	進度別課題⑨ 3連符の分散和音			讃美歌の演奏	
	10	進度別課題⑩ バイエル 9 2 番			リズム表現実習:任意の楽曲	
	11	進度別課題⑪ 十六分音符の分散和音			〃	
	12	進度別課題⑫ バイエル 9 4 番			こどものうたの実習:任意の楽曲	
	13	進度別課題⑬ 十六分音符によるメロディー			〃	
	14	進度別課題⑭ バイエル 9 6 番			〃	
	15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習				
授業の評価	「試 験」： 実技試験 (80%) 「平常点」： 課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度 (20%) 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 弾きにくい箇所や質問内容を明確にすること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを確認・練習すること					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意	・ 個別のグレードによっては、ブルグミュラーやソナチネなどを学習する。 ・ 爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリー類の使用は認めない。 ・ 適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。 ・ 教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・ 授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・ 譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。 ・ 個々の履修科目等の都合により、クラス編成を調整する場合がある。					
テキスト	・ バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー 2 5 の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他 ・ 『こどものうた 1 0 0』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社 ・ 『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著、全音楽譜出版社 ・ 讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。					
備 考						
その他	【WiｓAｒ-】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
器楽ⅡB (20713-C2)	演習	1	2年次 後期	選択	幼免必修	福田 真梨奈
授業の到達目標	1. ソナタ形式の楽曲など、広い音域や素早い動きにも対応したが演奏できる。 2. こどものための楽曲を弱拍にも音が加わった楽譜通りの伴奏で、演奏できる。 3. 強弱等、楽譜の指示記号を意識した演奏ができる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	・個々の進度に応じて学習する個別指導型グループレッスンによるピアノ実技演習授業。 ・ピアノ演奏技術を進度別グレード課題の楽曲演奏により学習する。 ・こどものうたやリズム表現等の演習を重ね、教育・保育現場での実践を目指してレパートリーを増やす。 ・原則として、毎回、進度別の楽曲と、こどものための楽曲などの2種類以上の課題を実践、実習する。 ・適宜、よりよい演奏をするための意見交換を実施し、演奏技術向上を目指す。(TPS、ピアティーチング含む)					
授業計画	回数	授業内容				
	1	進度別課題① ハ長調の楽曲				保育・教育実習に役立つ課題
	2	進度別課題② ドミナント和音の学習（借用和音含む）				〃
	3	進度別課題③ レガートで演奏する				〃
	4	進度別課題④ ブルグミュラー 25 の練習曲 1 番				リズム表現の実習：スキップ
	5	進度別課題⑤ イ短調の楽曲				〃
	6	進度別課題⑥ 素早い動きとスタッカート				リズム表現の実習：任意の楽曲
	7	進度別課題⑦ 左右同じ速さで十六分音符を演奏する				〃
	8	進度別課題⑧ ブルグミュラー 25 の練習曲 2 番				讃美歌の演奏
	9	進度別課題⑨ ヘ長調の楽曲				〃
	10	進度別課題⑩ 3／4 拍子を意識して演奏する				こどものうたの実習：任意の楽曲
	11	進度別課題⑪ 十六分音符の音階的な動き				〃
	12	進度別課題⑫ 1 拍の幅を十分に勘定して弾く				〃
	13	進度別課題⑬ 楽曲の前半と後半の表情を弾き分ける				〃
	14	進度別課題⑭ ブルグミュラー 25 の練習曲 5 番				〃
	15	実技演習のまとめ、実技試験のための練習				
授業の評価	「試験」： 実技試験 （80%） 「平常点」： 課題への取り組み、ピアノ演奏のマナー、授業態度 （20%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の課題について、到達度を個別にチェックしてコメントする。					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、各自の進度に応じて与えられた課題を練習し、到達度を上げること。 復習：授業で学んだ課題について、指摘されたことなどを復習・練習すること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意	・個別のグレードによっては、ソナチネⅠ・Ⅱ巻、ソナタ、その他の楽曲を学習する。 ・爪は短く切ること。ネイルやマニキュア、指輪、プレスレット等、アクセサリ類の使用は認めない。 ・適宜、手洗い、手指消毒を実施し、練習中は他の学生と密接、密集して過ごさないこと。 ・教科書の楽譜を毎回必ず持参すること。 ・授業内の練習時間を演奏技術向上のために有効に活用すること。 ・譜読みやピアノの練習によく励んだうえで、授業に臨むこと。  ・個々の履修科目等の都合により、クラス編成を調整する場合がある。					
テキスト	・ブルグミュラー 25 の練習曲、ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ、その他 ・『こどものうた100』 小林美実監修 井戸和秀編 チャイルド本社 ・『保育のためのマーチ・スキップ・ギャロップ・ワルツ・リズム曲集』 茂田すすむ編著、全音楽譜出版社 ・讃美歌、その他、適宜、プリントを配布する。					
備考						
その他	【オフイスアワー】授業の前後やSNSにて対応する。					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育者論 (20130-B2)		講義	2	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	津田 由加子
授業の到達目標	1. 人的環境として、保育者の子どもに与える影響は極めて大きく、その責任の重要性を認識するとともに知識や技術を身につける。 2. 保育者へ目指すことの意味を明確にしていき、 保育者の役割や倫理について理解を深める。 3. 子どもへのかかわりや保護者支援に関する協働などについて幅広く理解する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。						
授業の概要	保育者の制度的な位置づけや、 保育の役割と倫理について理解し、 保育の具体的な実践から保育の協働性について考え、保育者の専門的成長について理解していく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション					
	2	保育者になるということ (プレゼンテーション)					
	3	保育職とは (プレゼンテーション)					
	4	子どもとのかかわり (プレゼンテーション)					
	5	現代の保育にまつわる問題					
	6	保育者の仕事と役割					
	7	保育者の制度的位置づけ					
	8	保育者になるための学び					
	9	保育者に求められる資質とは					
	10	子育て支援と保育者の役割					
	11	現代社会の変化と保育者の仕事や課題					
	12	日本の保育者のあゆみ					
	13	資料にみる保育者の姿					
	14	諸外国の保育者					
	15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：筆記試験 (50%) 「平常点」：授業態度・小テスト (30%) 「その他」：ワークシート等提出物 (20%)						
課題 (レポート等)のフィードバック	・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：事前に配布されたプリントを通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 次回授業の主な内容について予習を課す。 復習：各回のプリントを通読し、授業内容について理解を深めておくこと。 理解度を確認するため、小テストを行うことがある。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (135分) 事後学習 (135分)						
履修上の注意	・はさみ・のりは毎回持参すること。 ・配られたプリントはファイリングしておくこと。						
テキスト	適宜プリント配布						
参考書	授業内で紹介する						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育課程論 (20620-C2)		講義	2	2年次 前期	選択	幼免必修	田口 啓子
授業の到達目標	1. 幼稚園における教育課程編成の意義・目的・機能を理解する。 2. 教育課程編成の基本原理や編成方法を理解する。 3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する						
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	教育課程、指導計画の意義や編成の方法、それに関わるカリキュラム・マネジメントの基本的な事項について学ぶ。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
	2	教育課程の意義					
	3	幼稚園教育要領の変遷（グループワーク）					
	4	教育課程の役割・機能					
	5	教育課程編成の基本原理					
	6	教育課程編成の観点と思想					
	7	教育課程編成の背景（グループワーク）					
	8	教育課程・指導計画の編成と展開（1）長期（グループワーク）					
	9	教育課程・指導計画の編成と展開（2）短期（グループワーク）					
	10	教育課程・指導計画の編成と展開（3）小学校への円滑な接続					
	11	教育課程に関する法律					
	12	教育課程の類型					
	13	教育課程の評価及び省察					
	14	教育課程の改善（グループワーク）					
	15	まとめ（グループワーク）					
授業の評価	「試 験」：筆記試験（ 80 %） 「平常点」：授業への取り組み（ 20 %） 「その他」：（ %）						
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、期限までに提出のこと。返却時にコメントを付す。 ・授業内容に関する質問への回答は、基本的に講義時間内で回答する。						
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや配布プリント等の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135 分）						
履修上の注意	・私語やスマホ等の利用は、禁止します。 ・授業内容に関する疑問、質問を積極的にすること。 ・授業は、その内容を踏まえ事前にテキストを通読しておくこと。						
テキスト	『幼稚園教育要領』（平成30年3月 文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成30年3月 内閣府・文部科学省）						
参考書	授業の中で適宜紹介します。						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容総論 (20610-B2)		演習	2	2年次 前期	選択	幼免必修 保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 保育の全体的な構造と5領域について総合的に学ぶとともに、実際の保育においては領域の枠を超えて展開されることを理解する。 2. 子育て支援と保育内容、子どもの発達過程を踏まえて理解し、様々な保育についても学び、修得する。 3. 保育現場の状況をイメージするために事例を取り入れながら、保育内容がどのような仕組みで子ども達を支えているかを理解する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を習得している。						
授業の概要	・乳幼児期の子どもは遊びの中で学び育っていく。どのような経験が大切かを考え、その経験から総合的に何を学んでいくかを知る。 ・アクティブ・ラーニング形式で授業を行う。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	イントロダクション					
	2	保育内容とは何か 領域について					
	3	保育内容の歴史の変遷					
	4	子どもあそびと生活 ①体を使った遊び					
	5	子どもあそびと生活 ②道具を使った遊び					
	6	子どもあそびと生活 ③伝承遊び					
	7	保育における観察と記録 グループワーク					
	8	環境を通して行う保育					
	9	生活や遊びによる総合的な保育					
	10	個と集団の発達を踏まえた保育					
	11	生活や発達の連続性に考慮した保育					
	12	家庭・地域との連携を踏まえた保育					
	13	小学校との連携を踏まえた保育					
	14	保育の多様な展開					
	15	保育内容における課題 まとめ					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」： 授業態度、課題への取り組み （40％） 「その他」： 授業内課題（50％）、レポート（10％）						
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容の質問については、個別又は全員に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：次回の授業箇所を通読し概要を把握しておく。 復習：レポートを課すことがあるので、テキストを通読し授業内容の理解を深めておく。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	シラバスの内容は授業進行状況と合わせるため変更することがある。 必ずテキストを持参する。また、配布プリントは整理してファイリングすること。 グループの話し合いや活動に積極的に参加すること。						
テキスト	『コミュニケーション力を育むレクリエーション 保育・教育で使えるクラフト&ゲーム70選』 西村誠ら編集 実生社 2023年						
参考書	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館						
その他	【オフィスアワー】 授業前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育方法論 (20640-C2)	講義・演習	2	2年次 後期	選択	幼免必修	中村 翔一 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 子どもたちお認める機会をより多く作るためには、どのような保育方法がいいのか考察できる 2. 子どもたちが主体的に園の習慣、また保育活動に取り組めるようになるかを考察できるようになる 3. 子どもたちが主体的に取り組める設定保育を考えれるようになる					
学位授与の方針 との関連	・保育に関する専門的知識・技術を修得している					
授業の概要	対話授業の基礎資料を配布し、それに基づいて授業を進める 毎回テーマを決めておき、そのテーマに対して対話形式で行う 実際の子どもたちのの生活の動画資料・画像資料をもとにグループワークをする					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション グループワーク：保育実践考察				
	2	保育の基本と保育方法” 心情・意欲・態度” を育てるために				
	3	保育目標・ねらいの設定について				
	4	遊びを通した経験や学びを大切に①				
	5	遊びを通した経験や学びを大切に②				
	6	目的活動と保育				
	7	子どもの興味・関心にあった保育とは				
	8	子どもの経験と保育内容について				
	9	ケーススタディ①グループワーク				
	10	ケーススタディ②グループワーク				
	11	ケーススタディ③グループワーク				
	12	設定保育づくり①講義＋グループワーク				
	13	設定保育づくり②講義＋グループワーク				
	14	設定保育発表①ロールプレイ				
	15	まとめ・設定保育発表②ロールプレイ				
授業の評価	「試 験」：（４０％） 「平常点」：授業態度、参加態度など（３０％） 「その他」：授業の中での発表（２０％） 小テスト（１０％）					
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	次回の授業資料を事前に配布するので、必ず熟読して考えをまとめておくこと					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」を要求する。					
テキスト	なし（毎回授業終了時に次回の授業に使う資料を配布）					
参考書	なし					



科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育相談 (20220-B2)		講義	2	2年次 後期	選択	幼免必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1、保育相談支援の考え方を説明できる。 2、保育相談支援の方法を身につける。 3、保育相談支援の実際について理解する。						
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	保育者が実践している保育相談支援について学ぶ。保育相談の支援方法について確認する。 保育相談支援の実際について、事例をもとに理解を深めていく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	保護者に対する保育相談支援の意義					
	2	保育の特性と保育士の専門性を活かした支援					
	3	保育所における保育相談支援の実際（グループワーク①）					
	4	子どもの成長の喜びの共有（家庭との連携）					
	5	保護者の養育力の向上に資する支援（クラスだより、面談など）					
	6	保育所における特別な対応を要する家庭への支援（グループワーク②）					
	7	信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重（守秘義務）					
	8	保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス（グループワーク③）					
	9	子どもの最善の利益と福祉の重視					
	10	児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援（グループワーク④）					
	11	保護者支援の方法と技術					
	12	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力					
	13	障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援（グループワーク⑤）					
	14	保育相談における保育者の役割					
	15	まとめ					
授業の評価	「試験」： 「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：授業内課題（50%）、レポート等提出物（30%）						
課題（レポート等） のフィードバック	グループワークにおけるレポートについては、コメントをつけて返却する。						
事前・事後の学習 等の内容	事前学習：シラバスの「授業計画」に沿って事前にテキストを読んでおくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分） 事後学習（135分）						
履修上の注意	テキストは必ず事前に読んでおくこと。グループワークには、積極的に参加すること。						
テキスト	必要な資料はその都度配布する。						
参考書	適宜紹介する。						
その他	【オフィスアワー】授業前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育実習指導Ⅱ (20813-C2)		演習	1	2年次 前期・後期	選択	幼免必修	津田 由加子 中村 翔一 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 幼稚園・こども園教育(保育)について理解を深め、実習を通して幼稚園(保育)教諭の責務を学ぶ。 2. 実習日誌、 保育指導案の作成の仕方を学ぶ中から、 保育実践の視点を習得する。 3. 明確な自己課題をもって実習に臨み、 幼稚園(保育)教諭に必要な知識や技能・態度・専門性を身につける。						
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を取得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、または、コミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。						
授業の概要	幼稚園・こども園教育実習の事前・事後指導について事例を交えながら行う。 また、 グループ討議、 ロールプレイなども取り入れながら実践に即した形で授業を行う。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	教育実習Ⅱの目的・授業の概要と自己課題 実習園の確認					
	2	個人票作成① 保育実技					
	3	個人票作成② 部分実習と研究保育についての理解					
	4	保育指導案について学ぶ ①幼児の活動 環境の構成					
	5	〃 ②保育者の援助・留意点					
	6	保育指導案作成 オリエンテーションの方法と内容					
	7	〃 オリエンテーションの日程確認					
	8	保育指導案作成					
	9	保育指導案作成と模擬保育① グループワーク					
	10	保育指導案作成と模擬保育② グループワーク					
	11	保育指導案作成と模擬保育③ グループワーク					
	12	実習日誌、提出書類の配布と内容の説明・書き方の指導					
	13	教育実習の心得とマナーの確認					
	14	教育実習の振り返り 実習報告書、礼状作成					
	15	教育実習の反省と自己評価・課題 まとめ					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：授業態度、提出物 (60%) 「その他」：模擬授業発表、実習態度、実習評価 (40%)						
課題（レポート等）のフィードバック	・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：教育実習への自己課題を明確にもち、 課題克服に向けて積極的に取り組む。 各回の授業内容の概要を事前に把握しておくこと。 復習：授業の終わりにレポート提出を求める場合がある。 レポートや、課題を課すことがある。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）						
履修上の注意	・履修登録を行っていても学外実習参加が認められない場合を下記に示す。 ①事前実習指導を2回以上欠席した場合 ②授業における課題が未提出の場合 ③授業での指示・指導に従わない場合 ④教員による会議において実習が認められない場合 ⑤必要な単位修得が出来ていない場合 ⑥小テストの成績が著しく低い場合・実習評価と授業評価を併せて評価						
テキスト	・『保育指導案 大百科事典』 開仁志（編） 一藝社 ・『学びつづける保育者をめざす実習の本』 久富陽子 萌林書林						
参考書	・「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 ・ 必要に応じ配布						
その他	【オプショナル】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子育て支援 (20530-D2)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 子育て支援の意義や意義について基礎知識について理解する。 2. 子育て支援を行う上で、保護者とコミュニケーションをとるために基礎能力を養うことができる。 3. 地域資源の活用や関係機関との連携や共同の意義を理解して、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を身に付ける。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	子育て支援の基本となる保育者と保護者の関係構築に必要な技術、及び知識について学びを深め、理論的な援助技術をもとに、自洗的なコミュニケーションのあり方を身に付ける。また、子育て支援の近年の状況や課題も踏まえ、専門機関との連携や協働について理解を深める。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	保育と子育て支援					
	2	子どもの権利と子育て支援					
	3	保育の専門性と子育て支援					
	4	子育て支援の展開過程					
	5	子育て支援における計画・記録・評価					
	6	保護者との信頼関係					
	7	保護者の理解とかかわり方					
	8	地域資源の活用と関係機関との連携・協力					
	9	保育所や幼稚園等の特性を生かした保護者への支援					
	10	特別な支援を必要とする子どもをもつ保護者への支援					
	11	課題のある保護者や家庭に対する子育て支援					
	12	保育所や幼稚園等における子育て支援の現状					
	13	児童福祉施設における子育て支援					
	14	児童発達支援センター等における子育て支援					
	15	まとめ・振り返り					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：授業態度（20％） 「その他」：授業内課題（50％）、レポート等提出物（30％）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題はコメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：次の授業箇所を通読し概要を把握しておく。 復習：レポートを課すことがあるので、テキストを通読し授業内容の理解を深めておく。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）						
履修上の注意	シラバスの内容は授業進行状況と合わせるため変更することがある。保育者を指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、子育て支援の現状や課題、実習先などで取り組まれている子育て支援について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。						
テキスト	随時資料は配布する						
参考書	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館						
その他	【オフィスアワー】 授業前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの保健 (20320-E2)		講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格必修	早野 克典 松本 享
授業の到達目標	1. 乳幼児疾患について理解する。 2. 背後に隠されている家族病理までも推し量れる勘を養う。						
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	保育を担当する保育者が、子どもの保健領域の理解を深め、今後の保育に反映していく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	こどもの発育、栄養（母乳、人工ミルク）					
	2	成長と発達 「正常」と「異常」 -いつまで様子を見る？					
	3	生活と保健(排泄、睡眠)、外出、衛生					
	4	病気と異常 主な症状と対応と主な病気と対応					
	5	感染症総論					
	6	風邪の仕組み					
	7	応急手当					
	8	各自の母子手帳をもとに、なぜ「母子手帳」が重要か？					
	9	予防接種					
	10	アレルギーマーチ 喘息とは？原因、症状、治療、園で突発発作が起きたら？					
	11	虐待 虐待と地域と家族と温かい心を育む					
	12	小児救急					
	13	子どもと薬					
	14	保育園の保健の実際 園医をして思うこと					
	15	<保育園における感染対策>グループ討論 総括					
授業の評価	「試験」：筆記試験（90%） 「平常点」：レポート等の提出物、授業態度、意欲（10%） 「その他」：						
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 また前期、後期の最終授業では、前期、後期それぞれのまとめ、総括を行う。						
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキスト等の該当箇所を通読し、各回の授業内容の把握をしておくこと。 復習：各回の授業内容について理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	スライドやプリントを中心に授業を行う。 欠席回数が5回を超える場合は、当該科目の受験資格を失い、単位が認められません。 授業態度が著しく悪い場合、退室を命じることがある。 また、度重なる場合、当該科目の履修を取り消すことがある。 本講義では、授業態度を重視する。座席は指定された場所に着席していないと欠席扱いになる ことがある。勉強をしていないと判断した者には、再試やレポートを行う。						
テキスト	子どもの保健・健康と安全 ー理論と実際ー 同文書院 改訂新版						
参考書	『お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド』 日本外来小児科学研究会編著 医歯薬出版株式						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの健康と安全 (20322-E2)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	内海 尚美
授業の到達目標	1. 乳幼児の成長・発達の特徴を理解する。 2. 保育施設における健康管理や安全管理を理解する。 3. 乳幼児に多くみられる病気とその症状について理解し、基礎的な観察技術を習得する。 4. 父幼児に起きやすい事故とその対応方法について理解し、基礎的な応急処置技術を習得する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	既習科目で習得した知識をもとに、保育現場において子どもの健康と安全を守るために必要な知識と技術を学びます。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション：授業内容、子どもの健康と保健における現状と課題					講義
	2	子どもの身体的な発育・発達（乳幼児期）					講義
	3						
	4	子どもの日常生活援助 1：着替え、排泄ケア					演習
	5	子どもの日常生活援助 2：沐浴					演習
	6	健康観察 1：身長、体重、頭囲、胸囲					講義、演習
	7	健康観察 2：体温、呼吸、脈拍					講義、演習
	8	子どもの病気と症状：乳幼児に多い病気					講義
	9	子どもの病気と症状：症状の観察と対応					講義
	10	子どもの病気と症状：与薬					講義
	11	子どもの災害への備え					講義
	12	子どもの発達特性と事故					講義、グループワーク
	13	子どもの事故と対応（気道内異物除去、止血法、包帯法）					演習
	14	子どもの事故と対応（心肺蘇生）					演習
	15	まとめ：健康管理と事故防止					講義
授業の評価	「試 験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度・演習レポート（40%） 「その他」：						
課題（レポート等） のフィードバック	レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習 等の内容	【予習】テキストや参考書の該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておくこと。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、整理しておくこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）						
履修上の注意	主体的に講義・演習に参加すること。 授業で配布するプリント類は各自ファイルに綴じるなどして、テキストとともに持参すること。						
テキスト	『これだけはおさえない！保育者のための「子どもの健康と安全」』 鈴木美枝子編著 創成社						
参考書	適宜プリントを配布						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子ども家庭支援論 (20420-E2)	講義	2	2年次 後期	選択	保育士資格必修	山本 邑太
授業の到達目標	1. 子ども家庭支援の意義や基礎知識について理解する。 2. 子ども家庭支援における保育者の専門性と基本的態度について習得する。 3. 子ども家庭支援の実際を理解し、実践方法を身に付ける。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	現代のわが国におけるさまざまな問題から家庭支援のあり方について理解を深め、保育者として、子どもだけでなく多様な保護者(家庭)とのかかわりやニーズに合わせた柔軟な支援について考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子ども家庭支援とは何か				
	2	子ども家庭支援の意義と役割（今日の子育て支援に求められているもの）				
	3	子ども家庭支援のあゆみ				
	4	子ども家庭支援に関わる法・制度①（家庭、保護者、家族、子ども、など各々の有効な法制度）				
	5	子ども家庭支援に関わる法・制度②（わが国の子ども家庭支援政策）				
	6	保育者の専門性と基本的態度				
	7	社会資源と地域のネットワーク				
	8	保育者による子ども家庭支援の実際①（保育所等を利用する子どもの家庭への支援）				
	9	保育者による子ども家庭支援の実際②（地域の子育て家庭への支援）				
	10	保育者による子ども家庭支援の実際③（障害がある子どもがいる家庭への支援）				
	11	保育者による子ども家庭支援の実際④（子どもの虐待問題を抱えた家庭への支援）				
	12	保育者による子ども家庭支援の実際⑤（ひとり親家庭・ステップファミリーへの支援）				
	13	ワークで学ぶ子ども家庭支援（グループワーク）				
	14	これからの子ども家庭支援（課題と展望）				
	15	まとめ・振り返り				
授業の評価	「試 験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（20%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めて おくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ） 事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、生涯発達や現代の家族や家庭について関心を持ち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。予習・復習を含め、自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。					
テキスト	『保育実践に求められる子ども家庭支援』 橋本好市・直島正樹編 ミネルヴァ書房					
参考書	適宜紹介する。					
その他	【オプショナル】講義日のお昼休み。					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもの理解と援助 (20230-E2)	演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	松本 恭子
授業の到達目標	1. 子ども一人ひとりに応じた心身の発達や育ちを把握することの大切さを理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。 3. 子どもを理解し適切な援助をするための具体的な方法を知る。					
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どもを理解するうえでの基本的な考え方やその方法、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。また、子どもを理解するために必要な観察の視点や子どもの育ちにかかわる環境、職員・保護者・地域との連携について学習する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	子どもの理解と援助の基本（１）子どもの行為の意味を探索				
	2	子どもの理解と援助の基本（２）保育者に求められるもの				
	3	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（１）０歳児の子どもの育ちと大人のかかわり				
	4	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（２）１歳児の子どもの育ちと大人のかかわり				
	5	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（３）２歳児の子どもの育ちと大人のかかわり				
	6	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（４）３歳児の子どもの育ちと大人のかかわり				
	7	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（５）４歳児の子どもの育ちと大人のかかわり				
	8	子どもの実態に応じた発達・学びの把握（６）５歳児の子どもの育ちと大人のかかわり				
	9	子どもを理解する方法 職員間や保護者との情報共有・保育における観察と記録				
	10	子どもを理解する視点 親になるプロセスの理解				
	11	子どもの理解に基づく発達援助（１）保育の中で気になる子どもと親の理解と援助				
	12	子どもの理解に基づく発達援助（２）特別な配慮を要する子どもと親の理解と援助ー発達障害ー				
	13	子どもの理解に基づく発達援助（３）様々な問題を抱えた子ども・親・家族とのかかわり				
	14	子どもの理解に基づく発達援助（４）多職種や地域との協働・連携				
	15	まとめ				
授業の評価	「試 験」：筆記試験（60%） 「平常点」：授業への取り組み方(意欲・関心・態度）（20%） 「その他」：提出物(感想、小レポート、ノート・ファイルなど）（20%）					
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、 個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	・予習：事前に各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 ・復習：授業内容の見直し。学びをどう実践に生かしていくかを考える。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	・ファイル(配付プリント用)を持参すること。ファイルは提出することがある。 ・授業では毎回演習を取り入れながら進めるので、グループワークなどに積極的に取り組むこと。 ・classroomを通じて連絡することがあるので、各自で確認しておくこと。					
テキスト	『「実践につながる 新しい子どもの理解と援助」ー今、ここに生きる子どもの育ちをみつめてー』 編著：大浦賢治 ミネルヴァ書房 適宜、授業時プリントなどを配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育の計画と評価 (20660-D2)		講義	2	2年次 前期	選択	保育士資格必修	藤田 貴久 (実務家教員) 中村 翔一 (実務家教員)
授業の到達目標	・ 保育内容の充実を図り、保育の質を向上するための指導計画の考え方について理解する。 ・ 指導計画（部分実習指導案・全日実習指導案・週の指導案・月の指導計画・期の指導計画）を自ら考えることができるようになる。 ・ 子ども理解に基づく保育の計画、実践、評価、改善の過程について理解する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	事例を通して子ども理解を深めながら、保育の計画のあり方や保育を展開するための見通しの持ち方など基本的な考え方を理解し、保育の質について考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	なぜ保育の計画が必要なのか					
	2	0歳児の指導計画の作成					
	3	1．2歳児の指導計画の作成について					
	4	3・4・5歳児の指導計画の作成					
	5	部分実習指導案の作成					
	6	グループワーク 部分実習指導案を活用して					
	7	全日実習指導案の作成					
	8	グループワーク 全日実習指導案を活用して					
	9	週の指導計画の作成					
	10	グループワーク 週指導案を活用して					
	11	月・期の指導計画の作成					
	12	グループワーク 月・期の指導計画を活用して					
	13	エピソード記述について					
	14	グループワーク エピソード記述を活用して					
	15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：授業態度（20％） 「その他」：課題レポート（50％）、レポート等提出物（30％）						
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容の質問については、個別又は全員に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：次回の授業箇所を通読し概要を把握しておく。 復習：レポートを課すことがあるので、テキストを通読し授業内容の理解を深めておく。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）						
履修上の注意	シラバスの内容は授業進行状況と合わせるため変更することがある。 グループの話し合いや活動に積極的に参加すること。						
テキスト	『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館						
参考書	授業内で紹介する						
その他	【オフィスアワー】 授業前後						



科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
乳児保育Ⅱ (20651-E2)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格必修	前田 廣恵
授業の到達目標	1. 乳児保育の基本的な知識・技能に基づく援助や関わりのあり方を体得する。 2. 保育の観察と記録の取り方、指導計画の作成などを習得する。 3. 一人一人の発達を支える生活と遊びの環境、職員間の協働などについて理解する。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	乳児保育Ⅰの学びを基に、実際の援助や関わりを通して子ども理解を深め、保育者としてのあり方を考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	乳児保育Ⅰの復習					
	2	3歳未満児の発育と発達					
	3	食事の習慣形成の獲得と援助の方法					
	4	排泄の習慣形成の獲得と援助の方法					
	5	睡眠、休息の習慣形成と獲得と援助の方法					
	6	着脱、清潔の習慣形成の獲得と援助の方法					
	7	乳児保育における健康と安全					
	8	0歳児の日課と担当制					
	9	1歳以上3歳未満児の保育内容					
	10	乳児の遊び					
	11	保育教材（製作）					
	12	保育教材（発表）					
	13	乳児保育に携わる保育者の専門性					
	14	わらべうた(グループワーク)					
	15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験（50%） 「平常点」：授業態度（20%） 「その他」：提出物（30%）						
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題はコメントをつけて返却する。 ・授業内容についての質問は個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：3歳未満児にふさわしい保育教材について日ごろから関心を持ち、作ったり試したり記録したりしておくこと。 復習：授業で学んだ援助の方法（習慣形成について）を自分のものになるまで繰り返し練習すること。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	教科書や配布プリントは熟読し、授業時間内で理解するようにし、分からないことは必ず質問すること。						
テキスト	『演習で学ぶ乳児保育』 善本眞弓編著 わかば社 『0.1.2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』 乳幼児の発達と保育研究会 著 郁洋舎 『保育所保育指針』						
参考書	授業の中で紹介する						
その他	【ワイスター】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導ⅠB (20823-E12)		演習	1	1年次後期 2年次後期	選択	保育士資格必修	山本 邑太
授業の到達目標		1. 福祉施設の内容や機能、また、保育士や施設教員の仕事について講義を通して学び、施設実習が円滑に実践できることを目指す。 2. 実習施設の一日の生活の流れや支援の内容を理解する。 3. 実習施設が持つ機能や社会的役割について理解する。					
学位授与の方針との関連		・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要		児童福祉施設での実習を通じて、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能および施設職員の職務について実践的に学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容					
	1	意義と目的、概要、実習生に求められるものなど					
	2	福祉施設、利用者、職員の理解					
	3	DVD「施設実習の基本」					
	4	生活指導、学習指導、社会人としての常識					
	5	療育指導、自立支援					
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設					
	7	児童発達支援センター					
	8	障害者支援施設（入所更生、通所授産）					
	9	個人票作成、オリエンテーションについて					
	10	実習課題、事前確認事項					
	11	実習日誌の書き方					
	12	指導計画の書き方					
	13	実習中のケーススタディ					
	14	グループ討議、お礼状作成					
	15	実習の反省とまとめ					
授業の評価		「試験」：筆記試験（10%） 「平均点」：授業態度、課題提出（40%） 「その他」：実習態度、実習評価など（50%）					
課題（レポート等）のフィードバック		・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容		教科書、配布プリントを通読しておくこと 授業を欠席した場合、補講を行うので手続きをしにくること					
事前・事後の学習に必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意		本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としてのマナー」を要求する。 ①事前指導の欠席が2回以上の場合、②授業態度、出席状況が悪い場合、 ③授業において課された課題を提出しない場合、④教員による会議で実習が認められないと判断された場合、⑤小テストの成績が著しく低い場合、実習を認めない。					
テキスト		『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子 萌文書林 『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房					
参考書		『保育所保育指針』 必要に応じ配布する					
その他		【オフィスアワー】水曜の昼休み					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容演習「総合表現」 (20617-F2)	演習	2	2年次 後期	選択	保育士資格選択	井口 佳江 松本 恭子 向井 順子
授業の到達目標	1. 表現の技術を向上させる。 2. グループワークを通して積極性や協調性を養い、個々の役割の責任を果たす。 3. 表現活動を通して体験、学習したことを教育・保育現場で役立てる。					
学位授与の方針 との関連	・保育に関する専門知識・技術を修得している。 ・教科学習及び教育・保育実習等を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本学のキリスト教主義教育に基づき「クリスマス降誕劇（ページェント）」の舞台制作・発表を行い、「表現活動とは何か」を実体験する。 ・音楽表現、造形表現、身体表現、言葉の表現など、あらゆる表現を総合的に組み合わせて制作する。 ・表現について考え、互いの意見などを尊重しながら、全員で舞台作品の完成を目指す。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	クリスマス降誕劇についての学習、DVDや紙芝居視聴、感想や意見交換・発表				
	2	〃				
	3	クリスマス降誕劇の台本学習、配役等の確認				
	4	グループワーク：クリスマス降誕劇の体験的学習 （配役・トーンチャイムなどの体験、衣装・小道具制作、その他）				
	5	〃				
	6	グループワーク：クリスマス降誕劇練習、クリスマス飾り付け・点灯式練習・準備、その他				
	7	〃				
	8	グループワーク：クリスマス降誕劇の実践練習（全体練習・衣装着用・練習ビデオ撮影・PBL等を含む）				
	9	〃				
	10	〃				
	11	〃				
	12	グループワーク：クリスマス降誕劇リハーサル・制作発表				
	13	クリスマス降誕劇制作発表時のDVD視聴、感想や意見交換・発表（シンク・ペア・シェア等を含む）				
	14	保育・教育現場で役立つ表現活動				
	15	まとめ				
授業の評価	「試験」： レポート（50%） 「平常点」： 授業態度・取り組み姿勢、授業内での提出物（40%） 「その他」： ページェント発表（10%）					
課題（レポート等） のフィードバック	授業に関する質問や相談は、個別又は全員に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	予習：プリントやクリスマス物語の本などをよく読み、聖劇への理解を深めること。 台詞や讃美歌を覚える。 授業に必要なものをグループごとに話し合い、事前に準備しておく。 復習：計画通りに進められているか等グループで振り返り、次の授業に繋げる。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	・グループワークが中心となるため、自分たちの役割を果たせるよう協力しながら進めていく。 ・他のグループと進捗状況等確認しながら進め、全員で連携しながら劇を作り上げていけるようにする。 ・クリスマスページェントの日を目標にして、計画的に取り組むこと。 ・舞台機器や制作活動の状況などにより、シラバスを変更する場合がある。					
テキスト	・ページェント台本、トーンチャイム・聖歌隊楽譜（プリント配布） ・『聖書』『讃美歌』『讃美歌21』『こどもさんびか』『幼児さんびか』 ・その他、適宜、プリントを配布する。					
参考書	クリスマスに関する聖書物語の絵本・紙芝居・DVD等、聖書など					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅡA (20722-F2)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	向井 順子
授業の到達目標		1. 幼児音楽Ⅰで習得した基礎的な技術をもとに、より高度な音楽的技術を習得する。 2. 保育現場で生かせる実践的な音楽指導法を身につける。 3. 器楽合奏を通して、基本的な楽器の扱いや奏法を習得し、豊かな音楽的表現力を身につける。					
学位授与の方針との関連		保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要		実践的な音楽演習を通して、幼児と直接関わる保育者として必要なコミュニケーション力と基礎的な技能及び表現力を身につける。					
授業計画		回数	授業内容				
		1	授業内容説明、幼児音楽Ⅰで学んだことの復習と確認				
		2	姿勢・呼吸法・弾き歌い				
		3	発声・呼吸法・歌詞朗読・弾き歌いの練習				
		4	指導略案作成・グループ分け				
		5	〃				
		6	模擬授業発表(グループワーク・プレゼンテーション)				
		7	〃				
		8	〃				
		9	研究討議				
		10	弾き歌い・歌唱				
		11	〃				
		12	弾き歌い・リズム練習				
		13	弾き歌い・パート練習				
		14	弾き歌い・アンサンブル・独唱				
		15	振り返りとまとめ				
授業の評価		「試 験」：実技試験、模擬授業（50%） 「平常点」：授業態度（40%） 「その他」：提出物（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック		授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容		予習：教材研究と歌および弾き歌いの練習をする。 復習：授業で学んだ教材を十分に練習し、自身のレパートリーとなるようにする。					
事前・事後の学習に必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分 ）事後学習（ 45 分 ）					
履修上の注意		授業態度を重視 実技中心なので毎日の練習が必要					
テキスト		『こどものうた100』 小林美実 監修      チャイルド本社 随時 プリントを配布					
参考書							
その他		【オプスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児音楽ⅡB (20723-E2)		演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	向井 順子
授業の到達目標	1. 保育現場で生かせる実践的な音楽指導法を身につける。 2. 器楽合奏・合唱を通して、他者とアンサンブルをする経験を通して、個々の音楽的表現力 を高める。						
学位授与の方針 との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。						
授業の概要	実践的な音楽演習を通して、幼児と直接関わる保育者として必要なコミュニケーション力と基礎的な技能及び表現力を身につける。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	前期演習の復習と確認					
	2	弾き歌い（秋の歌を中心に）					
	3	弾き歌い・初見弾き歌い					
	4	各パート分け・弾き歌い（冬の歌を中心に）					
	5	パート練習・弾き歌い（       〃        ）					
	6	賛美歌合唱練習・弾き歌い（   〃    ）					
	7	〃					
	8	〃					
	9	〃					
	10	聖歌隊として合唱完成（グループワーク）					
	11	通し稽古（グループワーク）					
	12	クリスマスページェント舞台発表（グループワーク）					
	13	初見弾き歌い・アンサンブル（プレゼンテーション）					
	14	弾き歌い・レパートリー確認・アンサンブル仕上げ（プレゼンテーション）					
	15	振り返りとまとめ					
授業の評価	「試 験」：実技試験、模擬授業（50％） 「平常点」：授業態度（40％） 「その他」：提出物（10％）						
課題（レポート等） のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。						
事前・事後の学習 等の内容	予習：教材研究と歌および弾き歌いの練習をする。 復習：授業で学んだ教材を十分に練習し、自身のレパートリーとなるようにする。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要となる。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	授業態度を重視 実技中心なので毎日の練習が必要						
テキスト	『こどものうた100』 小林美実 監修       チャイルド本社 随時 プリントを配布						
参考書							
その他	【オフィスワーカー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅡA (20723-F2)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 領域「表現」のねらいと内容に沿った教育活動の組み立てを意識し、様々な造形表現（あそび）がどのように 幼児の発達を促し、表現力を豊かにするかを理解する。 2. 造形表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を 豊かにする。						
学位授与の方針と関連	保育に関する専門知識・技術を習得している。						
授業の概要	造形表現の体験的・探究的活動を通して、幼児教育に携わる保育者としての資質・能力の基礎を養う。制作を通して 表現の楽しさを味わい、創造力を養う。指導者に必要な理論や技能の習得を目指し、教材研究を通して実践力を高め ていく。また、プレゼンテーションを通してそれぞれの異なる感性に触れ、お互いにフィードバックする。湧き起こ る直感的内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	教材研究①導入（PBL）					
	2	教材研究②制作（PBL）					
	3	教材研究③作品発表（プレゼンテーション）					
	4	陶芸から学ぶ立体表現①基礎（体験授業）					
	5	陶芸から学ぶ立体表現②成形（PBL）					
	6	素材研究①素材の探求（グループワーク）					
	7	素材研究②制作（グループワーク）					
	8	素材研究③制作（グループワーク）					
	9	素材研究④制作（グループワーク）					
	10	素材研究⑥研究発表・展示（プレゼンテーション）・鑑賞（フィードバック）					
	11	陶芸から学ぶ立体表現③釉薬（体験授業）					
	12	はりこのおもちゃ①導入（PBL）					
	13	はりこのおもちゃ②制作（PBL）					
	14	はりこのおもちゃ③制作（PBL）					
	15	はりこのおもちゃ④鑑賞（フィードバック）					
授業の評価	「試験」：なし 「平常点」：出席・授業態度・授業への参加意欲（40%） 「その他」：課題提出（60%）						
課題（レポート等）の フィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。						
事前・事後の学習等の 内容	予習：次の授業で行うことを把握しておくこと、準備が必要な場合は授業前に用意することを心がける。 復習：授業の感想等のコメント・資料等をGoogleクラスルームに配布するので参照すること						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学習が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	本授業では以下のアクティブラーニングを採用している。 ・グループワーク・プレゼンテーション・PBL制作の記録をつけること。 必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。						
テキスト							
参考書	『造形芸術の基礎』 ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』 溝上慎一・成田秀夫編 東信堂 『幼稚園教育要領 保育士指導指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社						
その他	【オフィスアワー】授業の前後						

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
造形ⅡB (20733-F2)		演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標		1. 領域「表現」のねらいと内容に沿った教育活動の組み立てを意識し、様々な造形表現（あそび）がどのように 幼児の発達を促し、表現力を豊かにするかを理解する。 2. 造形表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を 豊かにする。					
学位授与の方針との関連		保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要		造形表現の体験的・探究的活動を通して、幼児教育に携わる保育者としての資質・能力の基礎を養う。制作を通して表現 の楽しさを味わい、創造力を養う。指導者に必要な理論や技能の習得を目指し、教材研究を通して実践力を高めていく。 また、プレゼンテーションを通してそれぞれの異なる感性に触れ、お互いにフィードバックする。湧き起こる直感的内的 感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。					
授業計画	回数	授業内容					
	1	教材研究 ①制作（PBL）					
	2	教材研究 ②制作（PBL）					
	3	教材研究 ③研究発表（プレゼンテーション）					
	4	クレイアニメ ①クレイアニメを知る・ストーリーと絵コンテ（グループワーク・PBL）					
	5	クレイアニメ ②粘土で制作（グループワーク・PBL）					
	6	クレイアニメ ③撮影（グループワーク・PBL）					
	7	クレイアニメ ④撮影（グループワーク・PBL）					
	8	クレイアニメ ⑤撮影・発表（プレゼンテーション）					
	9	卒業制作 ②（PBL）					
	10	卒業制作 ③（PBL）					
	11	卒業制作 ④（PBL）					
	12	卒業制作 ⑤（PBL）					
	13	卒業制作 ⑥（PBL）					
	14	卒業制作 ⑦（PBL）					
	15	卒業制作 ⑧（PBL）					
授業の評価		「試験」：なし 「平常点」：出席・授業態度・授業への参加意欲（40%） 「その他」：提出課題（60%）					
課題（レポート等） のフィードバック		個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック（点数やコメント等）はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習 等の内容		予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に 必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（45分）事後学習（45分）					
履修上の注意		本授業では以下のアクティブラーニングを採用している。 ・グループワーク・プレゼンテーション・PBL制作の記録をつけること。 必ず用具や材料を忘れないこと。課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト							
参考書		『造形芸術の基礎』 ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』 溝上慎一・成田秀夫編 東信堂 『幼稚園教育要領 保育士指導指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』 チャイルド本社					
その他		【おひさアワー】 授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育 A (20742-F2)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	大西 輝彦
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導性を高める。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。						
学位授与の方針との関連	保育に関する専門的知識・技術を修得している。						
授業の概要	幼児期における身体教育の意味や価値について理解を深め、それらを子どもに体感させるために働きかけや関わりについて考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	オリエンテーション					
	2	集団遊び 多種多様なレクリエーションゲーム					
	3	集団遊びの指導計画作成					
	4	集団遊びの指導実践					
	5	集団遊びの指導実践					
	6	小型遊具を使った遊び ボール					
	7	小型遊具を使った遊びの指導計画作成					
	8	野外活動（ウォークラリー）					
	9	野外活動の計画と実践					
	10	大型遊具を使った遊び マット、跳び箱、平均台、鉄棒					
	11	大型遊具を使った遊びの指導計画作成・実践					
	12	小型遊具を使った遊び ボール					
	13	運動会あそび					
	14	運動会あそび計画と実践					
	15	まとめ					
授業の評価	「試 験」：指導実践の評価 （30％） 「平常点」：授業態度、意欲（50％） 「その他」：指導案（20％）						
課題（レポート等）のフィードバック	提出物は、次回の授業時に返却し説明する。 質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。						
事前・事後の学習等の内容	予習:食事、睡眠等、体調を整えておくこと。次回の授業内容の概要を把握し、おもな遊びを 予習しておくこと。（指導実践担当者は指導案提出） 復習:指導実践後、集団討議した内容を各自まとめておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）						
履修上の注意	・技能・技術面での評価ではなく、授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 ・ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 ・運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。・各自で水分、タオルを用意すること。 ・各自で貴重品の管理をすること。・授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 ・運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。						
テキスト	適宜資料配布						
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」						
その他	【Wiisアワ-】授業の前後						



科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児体育ⅡB (20743-F2)	演習	1	2年次 後期	選択	保育士資格選択	藤田 将弘
授業の到達目標	1. 幼児期における発達の特徴や身体活動が幼児に与える影響について理解を深める。 2. 幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導性を高める。 3. 子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。					
学位授与の方針との関連	保育に関する専門知識・技術を修得している。					
授業の概要	幼児期における身体教育の意味や価値について理解を深め、それらを子どもに体感させるために必要な働きかけや関わりについて考える。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション（自己紹介） 体育について				
	2	身近なものを使った遊び（新聞紙、段ボールなど）				
	3	身近なものを使った遊びの活動展開計画（案）				
	4	身近なものを使った遊びの指導実践				
	5	発表した身近なものを使った遊びのプログラムの省察				
	6	リズム遊び（うさぎ、とんぼ、ギャロップなど）				
	7	リズム遊びの活動展開計画（案）				
	8	リズム遊びの指導実践				
	9	発表したリズム遊びプログラムの省察				
	10	集団遊び（鬼ごっこ、縄跳び、ボール遊びなど）				
	11	集団遊びの活動展開計画（案）				
	12	集団遊びの指導実践				
	13	発表した集団遊びのプログラムの省察				
	14	グループディスカッション（身近なものを使った遊び、リズム遊び、集団遊び）				
	15	まとめ				
授業の評価	「試 験」：指導実践の評価（30%） 「平常点」：授業態度、意欲（50%） 「その他」：指導案（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	提出物については、次の授業時に返却し説明する。質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて個別に説明する。					
事前・事後の学習等の内容	予習:食事、睡眠等、体調を整えておくこと。次の授業内容の概要を把握し、おもな遊びを予習しておくこと。 (指導実践担当者は指導案提出) 復習:指導実践後、集団討議した内容を各自まとめておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45分 ）事後学習（ 45分 ）					
履修上の注意	・技能・技術面での評価ではなく、授業を受ける態度や取り組む姿勢を評価する。 ・ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等、装飾品を身に付けることは安全面から禁止する。 ・運動にふさわしい服装と運動シューズを使用すること。・各自で水分、タオルを用意すること。 ・各自で貴重品の管理をすること。・授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。 ・体調が悪い、病気等の場合は、始まる前に必ず申し出ること。 ・運動ができない場合、診断書があれば別途対応する。					
テキスト	「コミュニケーション力を育むレクリエーション」保育・教育現場で使えるクラフト&ゲーム70選 西村誠ほか編著 「保育内容・健康」 民秋言ほか編著（ひかりのくに株式会社） 「新・体育あそびアラカルト」西村誠ほか著（昭和堂）					
参考書	「体育あそび指導書」西村誠ほか編著 発行所 OSPC身体活動研究所					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実習指導 (20825)		演習	1	2年次 前期	選択	保育士資格選択	藤田 貴久 (実務家教員)
授業の到達目標		1. 保育所や福祉施設の内容や機能や保育士や施設職員の仕事について講義を通して理解する。 2. 保育実習では保育理論と実践の統合を図り、保育を総合的に理解し、保育士としての専門性を具体的に学び、施設実習では、入所者理解と援助する実践現場での体験を通して理解する。 3. 保育士資格取得に向け自己課題を明確にする。					
学位授与の方針との関連		・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要		保育者になるための基本的な知識を身につけ、実習の意義や実習施設について確認・理解をする。					
授業計画	回数	授業内容					
	1	実習 について 実習の目的と意義					
	2	保育所実習の目的と意義					
	3	保育実習の具体的内容					
	4	保育実習事前指導 個人票作成 1					
	5	" 保育所生活 1 日の流れを把握する。(乳児)					
	6	" オリエンテーションについて (1)					
	7	" オリエンテーションの日程を決める。(グループワーク)					
	8	" 保育所生活1日の流れを把握する(幼児)実習記録の書き方(2)					
	9	" 実習記録の書き方 研究保育案					
	10	" 実習記録の書き方 研究保育案					
	11	" 実習記録の書き方 研究保育案					
	12	" 実習記録の書き方 研究保育案					
	13	" 保育実習に臨むために(心構え、服装、身だしなみ、持ち物確認)					
	14	事後実習指導 実習先へのお礼状 (グループワーク)					
	15	まとめ 保育実習の反省と課題					
授業の評価		「試験」: 「平常点」: 授業態度、提出物など(60%) 「その他」: 実習評価、実習や実習日誌への取り組みなど(40%)					
課題(レポート等)のフィードバック		・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容		保育実習にかかわる準備(教材作り等)を行うこと。 遅刻や欠席のないように日々自らの体調管理を怠らないこと。					
事前・事後の学習に必要な時間		1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(45分)事後学習(45分)					
履修上の注意		本科目では「学習に対する意欲的な姿勢」と「社会人としての行動とマナー」を要求する。 履修登録をしても、学外実習参加を認めない場合がある。 授業態度が不良である。 授業において課された課題を提出しない場合。 授業において出された指示・指導に従わない場合。 教員による会議で実習が認められないと判断された場合。 事前実習指導欠席2回以上の場合。 実習の評価と授業評価とを、総合的に評価する。					
テキスト		『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎』 生活技術教育研究会編 ななみ書房 『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子 萌文書林					
参考書		『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』、守巧・小櫃智子 著 わかば社					
その他		【WiSAPW-】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
WORD演習 (20921-H2)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1. WORD演習 で習得した基礎技能を基に、より実践的な文書作成技法を演習し、実践力を身につける。 2. WORDを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力の習得をめざす。 3. 文書表現を通して、コミュニケーションとしての応用的な力を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	実社会ではコミュニケーション手段の一つとしてドキュメントの果たす役割は重要である。 あらゆるビジネスシーンに応じて、的確で分かり易いドキュメント作成技法を習得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	文書表現の概観： コミュニケーション手段としての役割、文書表現手法の概要				
	2	文書表現手法 1： 文章作成における基本事項（WORD演習 の復習）				
	3	各種文書書式 1： 文字書式、段落書式、インデント				
	4	各種文書書式 2： ページ書式、ヘッダー・フッター、ページ区切り				
	5	文書表現手法 2： コミュニケーションツールとしての文章表現手法				
	6	オブジェクト利用 1： レイヤー構造、文字列の折返し、スタイルの利用				
	7	オブジェクト利用 2： 図、クリップアート、トリミング				
	8	オブジェクト利用 3： テキストボックス、ワードアート、SmartArt				
	9	文書の構成・校閲： 段組み、セッション区切り				
	10	表計算との連携： 表作成、Excelとの連携手法				
	11	文書表現手法 3： 情報をわかりやすく的確に伝えるための文書表現手法				
	12	わかりやすい文章表現： 相手に的確に情報を伝える手法				
	13	総合実践演習 1： わかりやすい文章表現の工夫 1 PBL<課題解決型学習>				
	14	総合実践演習 2： わかりやすい文章表現の工夫 2 PBL<課題解決型学習>				
15	総合実践演習3： まとめ演習					
授業の評価	「試 験」：筆記試験、実技試験（60％） 「平均点」：受講態度、小テスト（20％） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20％）					
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。					
テキスト	『繰り返しして慣れる！完全マスター Word』 noa出版（WORD演習 の教科書と同じ、継続使用）					
参考書	『 Word 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム					
その他	【Wi-Fi等】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
EXCEL演習 (20931-H2)		演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	野口 義栄
授業の到達目標	1. EXCEL演習 で習得した基礎技能を基に、より実践的な表計算技法の習得を目標とする。 2. EXCELを使い、「MCAS検定」等の資格合格に必要な実践的な能力の習得を身につける。 3. 数値データの表現力の応用技能を身につける。						
学位授与の方針 との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。						
授業の概要	数値情報を含む処理（データの視覚化・蓄積管理等）は実社会においても欠かせない手法である。 これらの基本概念を理解し、具体的操作方法を演習していく。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	表計算機能の基本事項： 数値情報の基本的な取扱い手法、視覚化・蓄積の重要性					
	2	特殊な表示形式作： シートの書式設定、セルの取扱、テーブルの書式設定					
	3	簡単な数式と関数： 数式の仕組み、データの集計					
	4	関数の利用（1）基本関数： 各種基本関数の基本操作					
	5	関数の利用（2）応用関数： 各種応用関数の応用利用					
	6	入力規則： 条件付き制御					
	7	条件付き書式： 条件付き数式でのデータ集計					
	8	グラフの作成1： 各種グラフを使っでのデータの視覚化処理					
	9	グラフの作成2： 各種グラフの特徴に合わせたグラフ選択					
	10	複雑なグラフ： 各種オブジェクトを使って総合的な視覚化処理					
	11	データの並べ替えと抽出： データの統計的な取り扱い					
	12	データの集計： 検索・データベース関数利用による集計					
	13	総合実践演習1： 実社会でのさまざまな応用関数の利用形態1 PBL＜課題解決型学習＞					
	14	総合実践演習2： 実社会でのさまざまな応用関数の利用形態2 PBL＜課題解決型学習＞					
	15	総合演習： まとめ演習					
授業の評価	「試験」：筆記試験、実技試験（60%） 「平均点」：受講態度、小テスト（20%） 「その他」：提出作品、課題レポート等（20%）						
課題（レポート等） のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。						
事前・事後の学習 等の内容	・予習：毎回の演習に関係する内容を教科書等で確認しておくこと。 ・復習：未習熟な演習項目については、課外において習熟しておくこと。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	・課外においても継続的な練習が望ましい。						
テキスト	『繰り返して慣れる！完全マスター Excel』 noa出版 （EXCEL演習 の教科書と同じ、継続使用）						
参考書	『Excel 2016 パーフェクトマスター』 秀和システム						
その他	【OaISワ－】授業の前後						

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
プレゼンテーション演習 (20960-H2)	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 何を課題にするか、目的は何か、どのようにプレゼンテーションをするかを考える力を身につける。 2. パワーポイントを活用して効果的なスライド作成力を習得する。 3. プレゼンテーションを通して正確に分かりやすく人に伝える力を身につける。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。 ・社会人として必要な幅広い視野や柔軟な思考力、またはコミュニケーション能力や課題発見・解決能力を身につけている。					
授業の概要	発表のテーマ選択、必要な資料・情報収集、レジュメおよびパワーポイントによるスライド作成、プレゼンテーションの練習を通して、効果的なプレゼンテーションの基本を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	プレゼンテーションの概要説明				
	2	テーマ、ねらい、内容を考えまとめる				
	3	パワーポイントの使用方法、効果的なスライドの作成法				
	4	プレゼンテーションのアウトラインを考える				
	5	必要な資料・情報の収集①				
	6	必要な資料・情報の収集				
	7	スライドの作成①				
	8	スライドの作成				
	9	スライドの作成				
	10	スライドの作成				
	11	レジュメの作成				
	12	リハーサル				
	13	プレゼンテーションと質疑応答、評価				
	14	評価に対する手直し				
	15	反省と自己評価				
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：プレゼンテーション（テーマ・内容、資料使用力、作成力、発表力）（100％） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・プレゼンテーションのためのテーマの選択、資料・情報収集、レジュメ・スライド作成、発表等について、適宜個別にアドバイスをする。 ・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：選択したテーマと目的を意識して、必要な資料や情報を収集しておくこと。 復習：授業で作成したスライドが、選択したテーマや目的に合致しているかを見直しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）					
履修上の注意	社会では情報発信力、コミュニケーション能力、プレゼン力など社会人基礎力が求められている。 これらを身につけられるように意識してプレゼンテーションの準備・作品作成に臨むこと。					
テキスト	適宜プリントを配布する。					
参考書	『「分かりやすい説明」の技術』藤沢晃治著 BLUE BACKS新書 2002年					
その他	【WiSAPW】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルグラフィックス (20940-H2)		演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. AdobeのIllustrator・Photoshopの基本を習得する。 2. デジタルアートワークの実践を通してビジュアルデザインにおいて必要な要素を学び、効果的に情報を伝達する力を身につける。						
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。						
授業の概要	グラフィックデザインに必要な知識とスキルを学ぶ。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	Illustrator 特徴・基本操作					
	2	Illustrator 図形の組み合わせ					
	3	Illustrator アイコンの作成					
	4	Illustrator アイコンの作成					
	5	Illustrator 文字のデザイン					
	6	Illustrator 文字のデザイン					
	7	Illustrator ロゴの作成					
	8	Illustrator ロゴの作成					
	9	Photoshop 特徴・基本操作					
	10	Photoshop 色調補正					
	11	Photoshop 画像の切り抜き					
	12	Photoshop 様々な加工					
	13	印刷物の作成 制作 (PBL)					
	14	印刷物の作成 制作 (PBL)					
	15	振り返り・まとめ					
授業の評価	「試 験」： 「平常点」： 授業参加度 (40%) 「その他」： 授業内課題(40%) 提出作品 (20%)						
課題(レポート等)のフィードバック	質問については各ステップ毎に、全体又は個別に回答する。						
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握し、制作するものは予め考えておくこと。 身の回りのビジュアルデザインについてよく観察すること。 復習：各授業内容について理解を深めておくこと。						
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習( 135分 )事後学習( 135分 )						
履修上の注意	筆記試験に備えて授業の内容はメモをとること。 作品の提出期限は守ること。						
テキスト							
参考書							
その他	【Wi-Fiアワー】 水曜日の昼休み 造形準備室						

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルグラフィックス (20941-H2)	演習	2	2年次 後 期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. AdobeのIllustrator・Photoshopの応用とInDesignの基本を習得する。 2. デジタルアートワークの実践を通してビジュアルデザインにおいて必要な要素を学び、効果的に情報を伝達する力を身につける。					
学位授与の方針との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	グラフィックデザインに必要な知識とスキルを学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	InDesign	特徴・基本操作			
	2	InDesign	チラシの作成 新規ドキュメントの作成・環境設定			
	3	InDesign	チラシの作成 オブジェクトの作成			
	4	InDesign	チラシの作成 定規とガイドでレイアウトを作成			
	5	InDesign	チラシの作成 文字の入力・間隔の調整			
	6	InDesign	チラシの作成 画像を配置・オブジェクトの配色			
	7	InDesign	Illustratorとの連携			
	8	InDesign	Photopshopとの連携			
	9	InDesign	実技小テスト			
	10	フライヤーの作成 (PBL)				
	11	フライヤーの作成 (PBL)				
	12	フライヤーの作成 (PBL)				
	13	フライヤーの作成 (PBL)				
	14	フライヤーの作成 (PBL)				
	15	振り返り・まとめ				
授業の評価	「試 験」：筆記試験 (50%) 「平常点」：授業参加度(30%) 「その他」：授業内提出課題(20%)					
課題(レポート等)のフィードバック	質問については各ステップ毎に、全体又は個別に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握し、制作するものは予め考えておくこと。 身の回りのビジュアルデザインについてよく観察すること。 復習：各授業内容について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分)事後学習(135分)					
履修上の注意	筆記試験に備えて授業の内容はメモをとること。 作品の提出期限は守ること。					
テキスト						
参考書						
その他	【オフィスワーク】 水曜日の昼休み 造形準備室					

科目名 / カリキュラムNO.		授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
デジタルムービー （20950-H2）		演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 課題を考え、何を訴えたいかを考え、表現の大切さを修得する。 2. もの作りにおいて完成させる大変さと達成感を獲得する。 3. 写真及びアニメをデジタルムービー化する編集技術を修得する。						
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。						
授業の概要	撮影をした写真や描いたアニメのコマを編集ソフトによってムービー化し、発表し評価し合う。 表現の大切さを学ぶとともに情報発信について考える。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	制作写真ムービーの例を見て概要、目的を理解し、課題・題目・ねらいを考える					
	2	資料収集、撮影及び作成					
	3	資料収集、撮影及び作成					
	4	資料収集、撮影及び作成					
	5	資料収集、撮影及び作成					
	6	資料収集、撮影及び作成					
	7	発表と評価					
	8	デジタルビデオの例を見て概要、目的を理解し、課題・題目・ねらいを考える					
	9	ビデオ撮影および作成					
	10	ビデオ撮影および作成					
	11	ビデオ撮影および作成					
	12	ビデオ編集					
	13	ビデオ編集					
	14	ビデオ編集					
15	発表と評価						
授業の評価	「試 験」： 「平常点」：作成2=80%、発表20%、計（100%） 「その他」：						
課題（レポート等） のフィードバック	・課題、撮影、作成におけるアドバイスをする。 ・発表におけるプレゼンについてのアドバイスをする。						
事前・事後の学習 等の内容	事前：毎回作品を作る前に常に課題・目的に沿っているかを見直し、資料収集・撮影を行う。 事後：作った作品に対する評価を試み、再度訴えたいことに合致しているか吟味する。						
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135分 ）						
履修上の注意	製作は、制作技術力だけではなく、何を訴えたいか、どう発信するかという発信力が大切である。 この能力は社会人基礎力としても求められている。これらを身につけるように意識して取り組むこと。						
テキスト	指定なし						
参考書	Web上の編集ソフトの使用方法等を参考						
その他	【WiZアワー】授業の前後						



科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
簿記演習 ( 21012-G2 )	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	簿記 3 級検定試験レベルの問題を解く力をつける。					
学位授与の方針との関連	・ 教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・ 本講義は初級簿記A・Bを履修し基礎力をつけたうえで、簿記検定 3 級問題が解ける力を養う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	試算表     合計試算表、残高試算表				
	2	決算手続き				
	3	決算手続き     現金過不足、貸倒引当金				
	4	決算手続き     減価償却、有形固有資産売却				
	5	決算手続き     売上原価の算定、消費税納付額計算				
	6	決算手続き     収益の前受、費用の未払、収益の未収				
	7	決算手続き     法人税等の処理、問題				
	8	決算手続き     問題				
	9	決算手続き     問題				
	10	簿記3級レベル演習				
	11	簿記3級レベル演習				
	12	簿記3級レベル演習				
	13	簿記3級レベル演習				
	14	簿記3級レベル演習				
	15	簿記3級レベル演習				
授業の評価	「 試   験 」：定期試験（ 60 ％ ） 「 平常点 」：小テスト（ 40 ％ ） 「 その他 」：					
課題（レポート等） のフィードバック	・ 授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習 等の内容	・ 予習：テキストの不安な箇所を、必ず目を通しておくこと。 ・ 復習：問題を解いて間違ったところ、解らなかったところを見直すこと。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（   135分   ）事後学習（   135分   ）					
履修上の注意	・ 分からない問題、用語、勘定科目等があれば必ず理解するように心掛けること。					
テキスト	『みんなが欲しかった簿記の教科書   第10版』：滝澤ななみ著   TAC出版 『日商簿記検定模擬試験問題集3級   2024年度版』：ネットスクール出版   2024年2月					
参考書						
その他	【オプスワ-】					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理実習 (20971-H2)	実習	1	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. ビジネスソフト表計算処理(Excel)とデータベース(Access)の違いについて理解する。 2. データベースで利用するオブジェクトについて理解するとともに各オブジェクトの使い方を修得する。 3. Excelで作成した数種類のデータをインポートしてデータベースとして活用できるようになる。					
学位授与の方針との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	ベータベースのオブジェクトであるテーブル、クエリ、レポート、フォームそれぞれの特性を理解し、データベースの正しい仕組みを修得し、データを管理・活用できるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	データベース(Access)を使う理由				
	2	テーブルの設計・整合性・インポート				
	3	テーブルの設計・整合性・インポート				
	4	クエリの基本				
	5	クエリの基本				
	6	リレーションシップ				
	7	リレーションシップ				
	8	レポート				
	9	フォーム				
	10	フォーム				
	11	オリジナル学生情報データベース作成				
	12	オリジナル学生情報データベース作成				
	13	オリジナル学生情報データベース作成				
	14	オリジナル学生情報データベース作成				
	15	オリジナル学生情報データベース作成 発表				
授業の評価	「試験」： 「平常点」：各オブジェクト作成（60％）、オリジナルデータベース作成（40％） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・ テーブル設計やクエリ設定、リレーションシップの設定について助言助力する。 ・ 各オブジェクトの理解不足について指摘し補う。 ・ 授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：次回テーマに該当するオブジェクト等を学習し、授業で取り組めるようにしておくこと。 事後学習：授業で学んだ機能、技術等について理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 45 分） 事後学習（ 45 分）					
履修上の注意	社会では情報処理能力が求められている。特に正確にデータを取り扱う能力は必要とされている。 表計算処理(Excel)とは違うデータベースAccessについてはとても重要な能力である。 社会人としての情報処理能力を修得することを意識して学ぶこと。					
テキスト	『Accessデータベース本格作成入門 仕事の現場で即使える 2016/2013/2010 対応版』 今村ゆうこ著（技術評論社）2017年					
参考書						
その他	【WiS7A7-】授業の前後					

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ会計 （21020-H2）	演習	2	2年次 前期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1. 実務で使用されている会計ソフト「弥生会計」について、基本的な操作を学ぶ。 2. 企業の一連の取引を入力することにより、コンピュータ会計の基礎知識を習得する。					
学位授与の方針 との関連	教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本講義は初級簿記Aを履修した者で、簿記の基礎を学習したことを前提に行う。 ・課題をこなすことによりコンピュータ会計の力をつけるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	企業の経営活動と経理・財務、経営情報の活用と作成について				
	2	計算書の仕組みと役割、経理のルールについて				
	3	会計ソフトの操作について				
	4	会計データの入力操作と帳簿の体系について				
	5	基幹業務の内容とビジネス法務について				
	6	企業の基幹業務と会計処理 現金、小切手、預金関連				
	7	企業の基幹業務と会計処理 売上、仕入関連				
	8	企業の基幹業務と会計処理 経費、債権・債務関連				
	9	企業の基幹業務と会計処理 給与関連				
	10	企業の税金業務と会計処理 法人税、消費税関連				
	11	会計データの入力処理と集計				
	12	会計データの入力処理と集計				
	13	会計データの入力処理と集計				
	14	会計データの入力処理と集計				
	15	月次決算に関する業務と会計処理				
授業の評価	「試験」：定期試験（100％） 「平常点」： 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・提出された課題は、次の時間にコメントを付けて返却する。					
事前・事後の学習 等の内容	・予習：前回の内容を振り返り、疑問点があれば書き出しておく。 ・復習：解らなかったところ、疑問に思った点はテキスト等で理解をすること。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135 分 ）					
履修上の注意	・課題をこなすことで力がつくので課題は必ずすること。					
テキスト	『令和5年度版コンピュータ会計基本テキスト（弥生会計23プロフェッショナル）』：実務出版					
参考書						
その他	【WiSAR-】授業の前後					

科目名 / カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
コンピュータ会計 （21020-G2）	演習	2	2年次 後期	選択	情報処理士選択	津田 敏
授業の到達目標	1.会計ソフトの使用方法を修得する。 2.企業の一連の取引を入力することにより、コンピュータ会計の基礎知識を修得する。 3.個々の取引の内容を自ら考え、処理し、企業会計業務について理解する。					
学位授与の方針 との関連	・教科学習及び実習を通じて実践力を修得している。					
授業の概要	・本講義はコンピュータ会計 を履修したうえで、企業の会計業務の基礎を学ぶ。 ・課題をこなすことによりコンピュータ会計の力をつけるようにする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	企業と会計処理				
	2	会計ソフトの操作基礎知識				
	3	企業の基幹業務と会計処理				
	4	企業の基幹業務と会計処理				
	5	税金に関する業務と会計処理				
	6	会計データの入力処理と集計				
	7	会計データの入力処理と集計				
	8	会計データの入力処理と集計				
	9	月次決算にかんする業務と会計処理				
	10	会計データの入力				
	11	会計データの入力				
	12	コンピュータ会計総合練習				
	13	コンピュータ会計総合練習				
	14	コンピュータ会計総合練習				
	15	コンピュータ会計総合練習				
授業の評価	「試 験」：定期試験（100％） 「平常点」： 「その他」：					
課題（レポート等） のフィードバック	・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 ・提出された課題は、次の時間にコメントを付けて返却する。					
事前・事後の学習 等の内容	・予習：次回の内容を読み、疑問点があれば書き出しておく。 ・復習：課題で解らなかつたところ、指示を受けたところを復習する。					
事前・事後の学習に 必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（ 135分 ）事後学習（ 135 分 ）					
履修上の注意	・課題をこなすことは力がつくので課題については積極的に取り組むこと。					
テキスト	『令和5年度版コンピュータ会計基本問題集（弥生会計23プロフェッショナル）』：実教出版					
参考書						
その他	【ワイズア－】授業の前後					